

HP Run Results Viewer

Windows® オペレーティング・システム 向け

ソフトウェア・バージョン: 12.01

ユーザーズ・ガイド

ドキュメント・リリース日: 2014 年 7 月

ソフトウェア・リリース日: 2014 年 7 月



ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR 12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 1992 - 2014 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe®およびAcrobat®は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Google(TM) および Google Maps(TM) は Google Inc. の商標です。

Intel®およびPentium®は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft®, Windows®, Windows®XPおよびWindows Vista®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

OracleとJavaは、Oracle Corporationおよびその関連会社の登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行なうことができます。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

または、HP Passport のログインページの [New users - please register] リンクをクリックします。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。<http://support.openview.hp.com>

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

http://support.openview.hp.com/access_level.jsp

HP Software Solutions Nowは、HPSWのソリューションと統合に関するポータルWebサイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たすHP製品ソリューションを検索したり、HP製品間の統合に関する詳細なリストやTILプロセスのリストを閲覧することができます。このサイトのURLは

<http://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp> です。

目次

目次	3
『Run Results Viewer ユーザーズ・ガイド』によるこそ	6
その他のオンライン・リソース	6
第1章: Run Results Viewer の使用	8
概念	10
Run Results Viewer の概要	10
実行結果のXML ファイル	11
実行結果ファイルの格納場所	12
カスタム・フィールド (UFT API テストのみ)	13
タスク	15
Run Results Viewer をスタンドアロン・アプリケーションとしてインストールする方法	15
実行結果を開く方法	15
実行結果ツリーの操作方法	16
Run Results Viewer のカスタマイズ方法	18
GUI テスト内のステップへの移動方法 (UFT GUI テストのみ)	19
不具合をALMに手動で送信する方法	20
不具合をALMプロジェクトに自動送信する方法 (UFT GUI テストのみ)	21
実行結果のエクスポート方法	23
HP Micro Player で画面レコーダ・ムービーを再生する方法 (UFT GUI テストのみ)	24
実行結果の削除方法	25
リファレンス	26
Run Results Viewer のユーザ・インタフェース	26
Run Results Viewer のコマンド	30
Run Results Viewer の表示枠	36
[実行結果ツリー]表示枠と[検索]ボックス	36
[結果の詳細]表示枠 (Run Results Viewer)	43
[キャプチャデータ]表示枠 (Run Results Viewer)	47
UFT API ステップでの[キャプチャデータ]表示枠の内容	48
[テストフロー]表示枠 (Run Results Viewer) (UFT API テストのみ)	53

[データ]表示枠 (Run Results Viewer)	55
[ログの記録]表示枠 (Run Results Viewer) (UFT GUI テストのみ)	57
[画面レコーダ]表示枠 (Run Results Viewer) (UFT GUI テストのみ)	59
[システム モニタ]表示枠 (Run Results Viewer) (UFT GUI テストのみ)	62
Run Results Viewer のダイアログ・ボックス	65
[実行結果のエクスポート]ダイアログ・ボックス (Run Results Viewer)	65
[検索]ダイアログ・ボックス ([ログの記録]表示枠 - Run Results Viewer) (UFT GUI テストのみ)	68
[フィルタ]ダイアログ・ボックス (Run Results Viewer)	70
[実行結果を開く]ダイアログ・ボックス	72
[印刷]ダイアログ・ボックス (Run Results Viewer)	73
[印刷プレビュー]ダイアログ・ボックス (Run Results Viewer)	75
[HP ALM への接続]ダイアログ・ボックス (Run Results Viewer)	77
実行結果削除ツール (UFT のみ)	80
トラブルシューティングおよび制限事項 - 実行結果の表示	83
第2章: 実行結果 - ステップ実行結果を理解する	84
概念	85
実行結果でのスマート認識 (UFT GUI テストのみ)	85
スマート認識 - 学習した記述に一致するオブジェクトがない場合 (UFT GUI テストの み)	85
スマート認識 - 学習した記述に複数のオブジェクトが一致する場合 (UFT GUI テス トのみ)	86
チェックポイントおよび出力値の結果 (UFT GUI テストのみ)	87
アクセシビリティ・チェックポイントの結果 (UFT GUI テストのみ)	88
ビットマップ・チェックポイントの結果 (UFT GUI テストのみ)	92
ファイル内容チェックポイントの結果 (UFT GUI テストのみ)	93
標準チェックポイントの結果 (UFT GUI テストのみ)	96
テーブル・チェックポイントおよびデータベース・チェックポイントの結果 (UFT GUI テス トのみ)	98
テキスト・チェックポイントおよびテキスト領域チェックポイントの結果 (UFT GUI テス トのみ)	100
XML チェックポイントの結果 (UFT GUI テストのみ)	100
出力値の結果 (UFT GUI テストのみ)	102

ファイル内容出力値の結果 (UFT GUI テストのみ)	103
XML 出力値の結果 (UFT GUI テストのみ)	103
実行結果でのパラメータ化された値	105
UFT API /Service Test テストの呼び出しを含む GUI テスト (UFT GUI テストのみ)	107
リファレンス	108
[色設定]ダイアログ・ボックス ([キャプチャデータ]表示枠 - Run Results Viewer) (UFT GUI テストのみ)	108
[フィルタ]ダイアログ・ボックス ([キャプチャデータ]表示枠 - Run Results Viewer) (UFT GUI テストのみ)	109
[XML チェックポイント結果]ウィンドウ (UFT GUI テストのみ)	110
[要素の値]ダイアログ・ボックス (Run Results Viewer) (UFT GUI テストのみ)	116
XML 出力値の結果ウィンドウ (UFT GUI テストのみ)	118
お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。	121

『Run Results Viewer ユーザーズ・ガイド』による こそ

『HP Run Results Viewer ユーザーズ・ガイド』では、Run Results Viewerを使用して、GUI または API テストのテスト結果を解釈して使用する方法について説明します。

テスト結果を正しく解釈するには、UFT とそのテスト機能に関するある程度の事前の知識を持つておくことが推奨されます。

その他のオンライン・リソース

次のオンライン・リソースが利用可能です。

リソース	説明
HP ソフトウェア・サポート・オンライン	<p>HP ソフトウェア・サポート Web サイト (www.hp.com/go/hpsupport)。アクセスするには、[ヘルプ] > [HP ソフトウェア サポート] を選択します。</p> <p>注：一部のサポートを除き、サポートのご利用には HP Passport ユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport ユーザーID の登録は、次の場所で行います。 http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html (英語 サイト)</p>
テスト・フォーラム	<ul style="list-style-type: none">API テスト : http://h30499.www3.hp.com/t5/Service-Test-Support-and-News/bd-p/sws-Serv_TEST_SFBPT: http://h30499.www3.hp.com/t5/Business-Process-Validation/bd-p/sws-BPT_SF
UFT 製品 ページ	<p>HP Unified Functional Testing 製品 ページ (http://www8.hp.com/us/en/software-solutions/unified-functional-testing-automated-testing/index.html)。ここには、UFT に関する情報や関連リンクがあります。。アクセスするには、[ヘルプ] > [便利なリンク] > [製品 ページ] を選択します。</p>
トラブルシューティングとナレッジ・ベース	<p>トラブルシューティング・ページ (http://h20230.www2.hp.com/troubleshooting.jsp)。HP ソフトウェア・サポート Web サイト の HP ソフトウェア・セルフソルブ技術情報 で検索できます。アクセスするには、[ヘルプ] > [ナレッジ ベース] または [トラブルシューティング] を選択します。</p>

リソース	説明
HP ソフトウェア・コミュニティ	HP IT Experts Community サイト (http://h10124.www1.hp.com/campaigns/IT_Experts/pages/home.html)。ここでは、他の HP ソフトウェア・ユーザと対話し、HP ソフトウェアに関する記事とブログを読み、他のソフトウェア製品のダウンロードにアクセスできます。
HP マニュアル・サイト	HP ソフトウェア製品 マニュアル Web サイト (http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals)。ここでは、選択した HP ソフトウェア製品の最新のドキュメントを検索できます。アクセスするには、[ヘルプ] > [便利なリンク] > [HP マニュアル サイト] を選択します。
新機能	UFT の新機能のヘルプ。このバージョンの UFT の新機能と強化された点が記載されています。
製品ムービー	UFT HPLN (HP Live Networks) ページ (https://hpln.hp.com/page/uft-120-videos)。ここには製品のムービーがリストされています。
HP ソフトウェア Web サイト	HP ソフトウェア・サポート Web サイト (www.hp.com/go/hpsupport)。ここでは、HP ソフトウェアが提供する製品、サービス、サポートに関する詳細情報をご覧いただけます。新しいソフトウェアのリリース、セミナー、展示会、カスタマ・サポートなどの情報も含まれています。

第1章: Run Results Viewer の使用

本章の内容

概念	10
Run Results Viewer の概要	10
実行結果のXML ファイル	11
実行結果ファイルの格納場所	12
カスタム・フィールド (UFT API テストのみ)	13
タスク	15
Run Results Viewer をスタンドアロン・アプリケーションとしてインストールする方法	15
実行結果を開く方法	15
実行結果ツリーの操作方法	16
Run Results Viewer のカスタマイズ方法	18
GUI テスト内のステップへの移動方法 (UFT GUI テストのみ)	19
不具合をALMに手動で送信する方法	20
不具合をALMプロジェクトに自動送信する方法 (UFT GUI テストのみ)	21
実行結果のエクスポート方法	23
HP Micro Player で画面レコーダ・ムービーを再生する方法 (UFT GUI テストのみ)	24
実行結果の削除方法	25
リファレンス	26
Run Results Viewer のユーザ・インタフェース	26
Run Results Viewer のコマンド	30
Run Results Viewer の表示枠	36
[実行結果ツリー]表示枠と[検索]ボックス	36
[結果の詳細]表示枠 (Run Results Viewer)	43
[キャプチャデータ]表示枠 (Run Results Viewer)	47
UFT API ステップでの[キャプチャデータ]表示枠の内容	48
[テストフロー]表示枠 (Run Results Viewer) (UFT API テストのみ)	53
[データ]表示枠 (Run Results Viewer)	55
[ログの記録]表示枠 (Run Results Viewer) (UFT GUI テストのみ)	57
[画面レコーダ]表示枠 (Run Results Viewer) (UFT GUI テストのみ)	59

[システム モニタ] 表示 枠 (Run Results Viewer) (UFT GUI テストのみ)	62
Run Results Viewer のダイアログ・ボックス	65
[実行結果のエクスポート]ダイアログ・ボックス (Run Results Viewer)	65
[検索]ダイアログ・ボックス ([ログの記録]表示 枠 - Run Results Viewer) (UFT GUI テストのみ)	68
[フィルタ]ダイアログ・ボックス (Run Results Viewer)	70
[実行結果を開く]ダイアログ・ボックス	72
[印刷]ダイアログ・ボックス (Run Results Viewer)	73
[印刷プレビュー]ダイアログ・ボックス (Run Results Viewer)	75
[HP ALM への接続]ダイアログ・ボックス (Run Results Viewer)	77
実行結果削除ツール (UFTのみ)	80
トラブルシューティングおよび制限事項 - 実行結果の表示	83

概念

Run Results Viewer の概要

実行したテストまたはコンポーネントの実行結果は、HP Run Results Viewer で確認できます。Run Results Viewer には複数の表示枠があり、それぞれ異なる情報が表示されます。「[実行結果ツリー]表示枠と[検索]ボックス」には、実行結果情報が階層構造で表示されます。その他の表示枠には、選択したノードやステップの詳細、特定のステップで使用したデータ、オプションの画面キャプチャや画像 (UFT GUI テストのみ)、オプションのシステム情報 (UFT GUI テストのみ) などが表示されます。各表示枠の概要については、「Run Results Viewer のユーザ・インタフェース」(26ページ)を参照してください。

標準設定では、実行セッションが終了すると、Run Results Viewer が自動的に開きます。この動作を変更するには、UFT の[オプション]ダイアログ・ボックスで、[実行セッション]表示枠 ([ツール] > [オプション] > [一般]タブ > [実行セッション]ノード)の[実行セッションの終了時に結果を表示する]チェック・ボックスをクリアします。

Run Results Viewer には、実行セッション中に実行されたステップの説明が表示されます。

- GUI コンポーネントの場合、または GUI テストにデータ表示枠パラメータがない場合、Run Results Viewer には 1 回分の反復に関する情報が表示されます。
- テストの場合で、データ表示枠パラメータがあり、反復が複数に設定されている場合、Run Results Viewer にはそれぞれの反復に関する詳細情報が表示されます。結果は、テスト内のアクションごとにまとめて表示されます。
- API テストの場合は、テストに含まれている個々のテスト・ステップとチェックポイントが表示されます。テストが複数の反復を実行するように設定されている場合は、各反復が表示されます。

[設定]ダイアログ・ボックスの[実行]表示枠では、テストの反復回数を 1 回またはすべてに設定できます。詳細については、『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』の[実行]表示枠について説明している項を参照してください。

UFT GUI と UFT API の統合

UFT GUI テストに UFT API テストまたは Service Test テストの呼び出しが含まれている場合や、その逆の場合、メインのテストと呼び出されたテストで実行されたすべてのステップを表示できます。

(ビジネス・コンポーネントでは利用できません。)

結果の一部を表示 (UFT GUI テストのみ)

結果の表示は、実行セッションの完了後 (完了前にクラッシュした場合を含む) だけでなく、results.xml ファイルを参照することによって、実行セッション中に結果を表示することもできます。これにより、結果の一部 (結果を開いた時点でのステップまでの結果)を確認できます。この機能は、特定の反復の結果を、次の反復に進む前に確認する場合などに便利です。1つの方法として、メッセージ・ボックスを開くステップを挿入しておき、メッセージ・ボックスを閉じるまで実行を停止することができます。例：

```
MsgBox "Open the following file:" & Reporter.ReportPath
```

注: Run Results Viewer で結果の一部を表示するには、別のコンピュータから結果ファイルを開いてください。

Run Results Viewer のインストール

Run Results Viewer は、UFT のインストール時に自動的にインストールされます。

また、Run Results Viewer は、スタンドアロンのアプリケーションとしてインストールすることもできます。これにより、UFT がコンピュータにインストールされていない環境で作業するビジネス・アナリストや開発者ともテスト結果を共有できます。詳細については、「[Run Results Viewer をスタンドアロン・アプリケーションとしてインストールする方法](#)」を参照してください。

実行結果の XML ファイル

実行結果は、実行セッションごとに1つの .xml ファイル(results.xml という名前)に保存されます。この .xml ファイルは、画面上の各実行結果ノードに情報を格納します。各ノードの情報を元に .htm ファイルが動的に作成され、Run Results Viewer の[結果の詳細]表示枠に表示されます。

実行結果ツリーにあるノードは、それぞれが results.xml ファイル内の要素です。ほかに、実行結果に表示される各種情報タイプに対応する要素もあります。 .xml ファイルの実行結果情報は、XSL を使用することによって表示形式をカスタマイズできます (Run Results Viewer での印刷、カスタマイズした結果ビューアでの表示、.html ファイルへのエクスポートで使用可能)。

次の GUI テストの画面は、.xml ファイルの要素と実行結果の表示項目との対応を示しています。これらの要素はテストとビジネス・コンポーネントの両方で使用できます。

The screenshot displays the HP Run Results Viewer interface. On the left, a tree view shows the test execution structure, with labels pointing to specific XML elements: Tname 要素, レポート要素, 変更要素, アクション要素, Res 要素, サマリ要素の eTime と eTime 属性, テストサマリ属性, and ステップ要素. The main window shows the execution results for 'MercuryTours - Res3', including a table of test results and a summary dashboard with donut charts for '現在の実行' (Current Run) and '前回の実行' (Previous Run). The dashboard shows '反応' (Reaction) and 'ステップ' (Step) metrics with indicators for '成功' (Success), '失敗' (Failure), '警告' (Warning), and '死亡' (Fatal). A message box on the right states: '結果に関連付けられているデータはありません。この表示枠の詳細については、[ここをクリックしてご覧ください。](#)'

XSL で提供されているツールを使用すると、どの実行結果情報をどのような形式でどこに表示、印刷、エクスポートするかを指定できます。また、.xsl ファイルが参照する .css ファイルを変更することによって、レポートの外観 (フォント、色など) を変えることもできます。

たとえば、results.xml ファイルに、アクションまたはコンポーネントの名前を含む要素タグと、実行セッションの実行時刻に関する情報を含む要素タグがあるとします。カスタマイズした Run Results Viewer で XSL を使用すると、アクションまたはコンポーネント名をページ上の指定位置に、太字の緑色のフォントで表示し、時間情報は表示しないという設定ができます。

Run Results Viewer アプリケーションに付属する .xsl ファイルと .css ファイルに変更を加える方が、ファイルを最初から新規作成するよりも簡単な場合があります。付属のファイルは、HP\Run Results Viewer\dat フォルダに次の名前で格納されています。

- PShort.xsl: [印刷]ダイアログ・ボックスまたは[HTML ファイルにエクスポート]ダイアログ・ボックスで[簡易]オプションを選択した場合に、印刷または HTML ファイルにエクスポートする実行結果レポートの内容を指定します。
- PDetails.xsl: [印刷]ダイアログ・ボックスまたは[HTML ファイルにエクスポート]ダイアログ・ボックスで[詳細]オプションを選択した場合に、印刷または HTML ファイルにエクスポートする実行結果レポートの内容を指定します。
- PStringTable.xsl: エクスポートされる文書内で使用する文字列定数を指定します。たとえば、反復番号のプレフィックスに Iteration # を使用できます。[印刷]ダイアログ・ボックスまたは [HTML ファイルにエクスポート]ダイアログ・ボックスで[ユーザ定義 XSL]を選択する場合、指定した .xsl ファイルにこのファイルの「include」呼び出しを記述しておく必要があります。文字列はローカライズ可能です。
- PResults.css: 実行結果の印刷プレビューの外観を指定します。このファイルは、上記の .xsl ファイルによって参照されます。
- Results.css: 実行結果に表示される各種要素のスタイル、フォント、色を指定します。

カスタマイズした .xsl ファイルを使って実行結果を印刷する方法の詳細については、「[\[印刷\]ダイアログ・ボックス \(Run Results Viewer\) 」\(73ページ\)](#)を参照してください。

カスタマイズした .xsl ファイルを使って、実行結果をファイルにエクスポートする方法の詳細については、「[\[実行結果のエクスポート\]ダイアログ・ボックス \(Run Results Viewer\) 」\(65ページ\)](#)を参照してください。

UFT のみ: XML スキーマの構造、実行結果レポートのカスタマイズに使用できる要素と属性の詳細については、『HP Run Results Schema Reference』([ヘルプ] > [UFT GUI テスト オートメーション & スキーマ リファレンス] > [HP Run Results Schema Reference]) を参照してください。

実行結果ファイルの格納場所

テストのタイプに応じて、実行結果を別の場所に保存できます。

GUI テスト

ファイル・システムに保存されているテスト: 標準設定では、ファイル・システムに保存されている GUI テストの結果は、テスト・フォルダに格納されます。テストの実行時、[実行]ダイアログ・ボックスの[結果保管場所]ダイアログ・ボックスで結果の保存先として別の場所を指定することができます。ファイル・

システム内で結果ファイルを探しやすくするためには、結果ファイル専用の格納場所を指定することもできます。

ALM に保存されているテスト: 実行結果は、ALM のテスト・フォルダに格納されています。この場合、実行セッション結果の格納場所を変更できません。

詳細については、『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』の[実行]ダイアログ・ボックスについて説明している項を参照してください。

GUI コンポーネント

標準設定では、コンポーネントの実行結果は、コンピュータの ALM キャッシュ・フォルダに格納されません。

テストの実行時、[実行]ダイアログ・ボックスの[結果保管場所]ダイアログ・ボックスで結果の保存先として別の場所を指定することができます。ファイル・システム内で結果ファイルを探しやすくするためには、結果ファイル専用の格納場所を指定することもできます。

詳細については、『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』の[実行]ダイアログ・ボックスについて説明している項を参照してください。

API テスト

ファイル・システムに保存されているテスト: 標準設定では、API テストの結果は、テスト・フォルダに格納されます。テストの実行時、[実行]ダイアログ・ボックスの[結果保管場所]ダイアログ・ボックスで結果の保存先として別の場所を指定することができます。ファイル・システム内で結果ファイルを探しやすくするためには、結果ファイル専用の格納場所を指定することもできます。

ALM に保存されているテスト: 実行結果はユーザの ALM プロジェクトに格納されます。この場合、実行セッション結果の格納場所を変更できません。

詳細については、『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

カスタム・フィールド (UFT API テストのみ)

Report 関数を使用すると、Run Results Viewer でカスタム情報を表示できます。文字列または既存の引数を指定して、ビューアに表示できます。

Report 関数をステップのイベントに追加します。詳細については、『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』のカスタムコードとイベントに関する項を参照してください。

次の例では、**TestID**の[値]カラムに **APR-12-2010_CYCLE_1** を出力します。

```
args.Activity.Report("TestID", "APR-12-2010_CYCLE_1");
```

このレポートでは、結果の[アクティビティ]レベルにキーワードとその値を表示します。詳細については、「[キャプチャデータ]表示枠 (Run Results Viewer)」(47ページ)を参照してください。

名前	値
タイプ	HP.ST.Ext.BasicActivities.ConcatenateStringsActivity
ステップ ID	ConcatenateStringsActivity4
メッセージ	文字列は正常に連結されました
TestID	APR-12-2010_CYCLE_1
プレフィックス	'Hello'
サフィックス	'World'
結果	'HelloWorld'
名前	'文字列の連結4'
コメント	"
ステータス	完了

Windows 8 オペレーティングシステムでのUFT へのアクセス

標準設定では、Run Results Viewer は Windows 8.x の[スタート]または[アプリ]画面には表示されません。

Run Results Viewer をスタート画面に追加するには、ファイル・システムまたは[デスクトップ]画面でその場所へ移動し、[スタート]画面にピン留めします。

また、.exe ファイルやドキュメントなどのその他の関連ファイルも、ピン留めすることによって[スタート]画面に追加できます。

注: 標準設定では、Windows 8 の[スタート]画面と[アプリ]画面は、Internet Explorer をメトロ・モードで開くように設定されています。ただし、コンピュータのユーザー・アカウント制御がオフになっている場合、Windows 8 は Internet Explorer をメトロ・モードで開きません。このため、[スタート]または[アプリ]画面から HTML ショートカット (UFT ヘルプや Readme ファイルなど) を開こうとすると、エラーが表示されます。

この問題を解決するには、Internet Explorer の標準設定の動作を変更して、メトロ・モードで開かないようにできます。[インターネットのプロパティ]ダイアログ・ボックス > [プログラム] タブで、[リンクの開き方を選択] オプションの[デスクトップ上には常に Internet Explorer を表示]を選択します。詳細については、<http://support.microsoft.com/kb/2736601> および <http://blogs.msdn.com/b/ie/archive/2012/03/26/launch-options-for-internet-explorer-10-on-windows-8.aspx> を参照してください。

タスク

Run Results Viewer をスタンドアロン・アプリケーションとしてインストールする方法

標準設定では、Run Results Viewer は UFT と一緒にインストールされます。このタスクでは、Run Results Viewer をスタンドアロン・アプリケーションとしてインストールする方法について説明します。たとえば、UFT がコンピュータにインストールされていない環境には、Run Results Viewer をスタンドアロン・アプリケーションとしてローカルにインストールできます。これによって、このような環境で作業しているビジネスアナリストや開発者も、テスト結果を共有できるようになります。

1. 前提となるアプリケーション (該当する場合) をインストールします。

UFT インストール用 DVD を DVD ドライブに挿入し、RunResultsViewer\EN\setup.exe をダブルクリックします。セットアップでは、コンピュータが要件を満たしているかどうかをチェックされ、必要に応じてコンポーネントのインストール準備が行われます。画面の指示に従ってください。前提条件となるコンポーネントのインストールが完了すると、コンピュータの再起動が必要になることがあります。

2. HP Run Results Viewer をインストールします。

UFT インストール用 DVD を DVD ドライブに挿入し、RunResultsViewer\EN\setup.exe をダブルクリックします。画面の指示に従ってください。

Run Results Viewer がインストールされ、[スタート] > [すべてのプログラム] > [HP Software] > [HP Run Results Viewer] > [Run Results Viewer] で開くことができます。

注: Windows 8 での UFT および UFT のツールとファイルへのアクセス方法の詳細については、[「Windows 8 オペレーティングシステムでの UFT へのアクセス」\(14ページ\)](#)を参照してください。

実行結果を開く方法

次のステップでは、特定の実行結果を Run Results Viewer で開く方法について説明します。

- [「Run Results Viewerを開きます。」\(16ページ\)](#)
- [「ALM プロジェクトへの接続 - オプション」\(16ページ\)](#)
- [「保存されている結果の表示」\(16ページ\)](#)

Run Results Viewerを開きます。

次のいずれかの方法で Run Results Viewer を開きます。

- UFT で、[表示]>[最後の実行結果]を選択するか、[結果]ボタンをクリックします。
- [スタート]メニューから、[スタート]>[すべてのプログラム]>[HP Software]>[HP Run Results Viewer]>[Run Results Viewer]を選択します。
- テストまたはコンポーネントを実行します。標準設定では、実行セッションが完了すると、実行結果が Run Results Viewer で表示されます (UFT の[オプション]ダイアログ・ボックスの[実行セッション]表示枠で変更できます。詳細については、『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

注: この項では、テストおよびコンポーネントを UFT で開く方法について説明します。これ以外のタイプのテストについては、テスト製品のマニュアルを参照してください。

ALM プロジェクトへの接続 - オプション

実行結果が ALM に保存されている場合、結果ファイルを開くには、ALM プロジェクトに接続する必要があります。詳細については、「[\[HP ALM への接続\]ダイアログ・ボックス \(Run Results Viewer\)](#)」(77ページ)を参照してください。

保存されている結果の表示

Run Results Viewer を手動で開くと、[実行結果を開く]ダイアログ・ボックスが自動的に開き、表示する結果を選択できます。

Run Results Viewer が自動的に開いた場合は、[開く]ボタンをクリックするか、[ファイル]>[開く]



を選択します。表示させたい結果を参照してください。詳細については、「[\[実行結果を開く\]ダイアログ・ボックス](#)」(72ページ)を参照してください。

実行結果ツリーの操作方法

このタスクでは、実行結果ツリーの分岐の折りたたみまたは展開によって、ツリーで表示される情報の詳細度レベルを選択する方法について説明します。

初めて Run Results Viewer を使用する場合には、ツリーは 1 レベルずつ展開します。親分岐の下に子分岐があり、この子分岐を展開した状態で親分岐を展開または折りたたむ場合、子分岐の状態はそのまま保持されます。

結果を表示するには、次を実行します。

- 「[特定の分岐を展開する](#)」(17ページ)
- 「[分岐と、その下にあるすべての分岐を展開する](#)」(17ページ)
- 「[実行結果ツリー内の分岐をすべて展開する](#)」(17ページ)
- 「[特定のノードを折りたたむ](#)」(17ページ)

- ・「ツリー内にあるすべてのノードを折りたたむ」(17ページ)
- ・「実行結果ツリー内で、これまでに選択したノードに移動する」(18ページ)
- ・「実行結果内のステップを検索する」(18ページ)
- ・「ツリーをフィルタリングし、条件を満たしたノードのみを表示する」(18ページ)

特定の間岐を展開する

- ・ 分岐をダブルクリックします。
- ・ 分岐を選択し、分岐アイコンの左にある矢印をクリックします。
- ・ キーボードの数値パッドの[+] (プラス記号) キーを押します。

分岐の詳細な内容がツリーに表示され、展開の記号が折りたたみ記号に変わります。

分岐と、その下にあるすべての分岐を展開する

- ・ 分岐を選択し、キーボードの数値パッドのアスタリスク(*) キーを押します。
- ・ 分岐を右クリックし、[すべて展開]を選択します。

実行結果ツリー内の分岐をすべて展開する

- ・ 最上位の分岐を右クリックし、[すべて展開]を選択します。
- ・ [表示] > [すべて展開]を選択します。
- ・ [すべて展開]ボタン  をクリックします。
- ・ ツリー内で最上位の分岐を選択し、キーボードの数値パッドのアスタリスク(*) キーを押します。

特定のノードを折りたたむ

- ・ ノードをダブルクリックします。
- ・ 分岐を右クリックし、[すべて折りたたみ]を選択します。
- ・ ノードを選択し、ノードアイコンの左にある矢印をクリックします。
- ・ キーボードの数値パッドの[-] (マイナス記号) キーを押します。

これで、ノードの下にある子ノードは表示されなくなります。

ツリー内にあるすべてのノードを折りたたむ

- ・ 最上位の分岐を右クリックし、[すべて折りたたみ]を選択します。

- [表示] > [すべて折りたたみ] を選択します。
- [すべて折りたたみ] ボタン  をクリックします。

実行結果ツリー内で、これまでに選択したノードに移動する

[前のノードに移動] ボタンまたは [次のノードに移動] ボタン  をクリックします。

実行結果内のステップを検索する

[検索対象] ボックス (実行結果ツリー上) を使用します。次に例を示します。



テキスト、ステータス、ノードのタイプを指定して検索できます。詳細については、「[実行結果ツリー] 表示 枠と[検索] ボックス」(36ページ)を参照してください。

ツリーをフィルタリングし、条件を満たしたノードのみを表示する

[フィルタ] ダイアログ・ボックス ([表示] > [フィルタ]) を使用します。詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス (Run Results Viewer)」(70ページ)を参照してください。

Run Results Viewer のカスタマイズ方法

次の手順では、Run Results Viewer のレイアウトをカスタマイズする方法について説明します。

- 「表示 枠の移動、フローティング、ドッキング」(18ページ)
- 「表示 枠の表示と非表示」(18ページ)
- 「表示 枠のレイアウトを元に戻す」(18ページ)

表示 枠の移動、フローティング、ドッキング

表示 枠は、タイトル・バーまたはタブをドラッグしてドロップすることにより、使いやすい位置に移動できます。

ドッキング表示 枠は、アプリケーション内の他のコンポーネントに対して、相対的な位置に固定されます。たとえば、マーカが示す位置に表示 枠を移動すると、表示 枠はその位置にドッキングされます。

フローティング表示 枠は、ほかのすべてのウィンドウの手前に表示されます。この表示 枠は、画面上の任意の位置にドラッグでき、Run Results Viewer ウィンドウの外側にもドラッグできます。

表示 枠の表示と非表示

- 不要な表示 枠を閉じるには、表示 枠の右上隅にある X をクリックします。
- 閉じている表示 枠を表示するには、[表示] > [<表示 枠の名前>] を選択します。

表示 枠のレイアウトを元に戻す

[表示] > [レイアウトの復元] を選択します。

GUI テスト内のステップへの移動方法 (UFT GUI テストのみ)

実行結果ツリー内のノードに対応するステップがUFTテスト内に存在する場合、そのノードに対応するステップをGUIで表示できます。

注: この機能は無効になっています。詳細については、下記「[\[テスト内のステップに移動\]コマンドを使用する際のガイドライン](#)」(19ページ)を参照してください。

ノードに対応するテスト内のステップを表示するには、次の手順を実行します。

1. UFTでテストを開いていて、そのテストの結果がRun Results Viewerで表示されていることを確認します。
2. 実行結果ツリーでノードを選択します。
3. 次のいずれかを実行します。
 - a. 実行結果ツールバーの「**テスト内のステップに移動**」ボタン  をクリックします。
 - b. 右クリックし、コンテキスト・メニューから「**テスト内のステップに移動**」を選択します。
 - c. 「**表示**」>「**テスト内のステップに移動**」を選択します。
4. UFT ウィンドウがアクティブになり、ステップが強調表示されます。

[テスト内のステップに移動]コマンドを使用する際のガイドライン

- セッションを実行する前にテストを保存しておいてください。
- 使用できるのは、QuickTest Professional 10.00 以降の実行結果です。

次の場合、この機能は無効になります。

- GUI テスト以外のテスト・ドキュメント。
- アクション、反復、テストサマリの各ノード。
- LoadAndRunAction ステートメントを使用して実行されたアクションに含まれるステップ。詳細については、『HP UFT Object Model Reference for GUI Testing』の「**Utility Objects**」の項を参照してください。
- 回復シナリオで実行されたステップ。
- 高速モードで実行されたテスト。このセッティングについての詳細は、『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』の「**テスト実行**」表示枠の項を参照してください。
- UFT の「ウォッチ」または「コンソール」デバッグ表示枠から実行されたステップ。

不具合を ALM に手動で送信する方法

このタスクでは、不具合を ALM プロジェクトに手動で追加する方法について説明します。この場合、実行結果を表示しながら ALM に不具合を送信することができます。

このタスクには、次の手順が含まれています。

- 「前提条件」(20ページ)
- 「ALM プロジェクトへの接続」(20ページ)
- 「[新規不具合]ダイアログ・ボックスを開く」(20ページ)
- 「不具合情報の変更 (必要な場合) と送信」(20ページ)
- 「結果」(21ページ)

1. 前提条件

ALM クライアントがコンピュータにインストールされていることを確認します (ブラウザに ALM サーバ URL を入力すると、ログイン画面が表示されることを確認してください)。

2. ALM プロジェクトへの接続

[ツール] > [ALM への接続] を選択するか、[ALM への接続] ボタン  をクリックして、ALM プロジェクトに接続します。詳細については、「[HP ALM への接続]ダイアログ・ボックス (Run Results Viewer)」(77ページ) を参照してください。

注: ALM プロジェクトに接続していない状態で次の手順に進むと、接続用のプロンプトが表示されます。

3. [新規不具合]ダイアログ・ボックスを開く

指定した ALM プロジェクトで [新規不具合] ダイアログ・ボックスを開くには、[ツール] > [不具合

の追加] を選択するか、[不具合の追加] ボタン  をクリックします。[新規不具合] ダイアログ・ボックスが開きます。

4. 不具合情報の変更 (必要な場合) と送信

不具合の説明には、テストまたはコンポーネントの基本情報とチェックポイント (該当する場合) が含まれますが、必要に応じて変更が可能です。

```
Operating system : Windows XP
Test path : C:\Program Files\HP\QuickTest Professional\Tests\Tutorial\Recording on PREDATOR
The CheckPoint 'Flight Details' Failed
```

```
Operating system : Windows XP
Test path : [QualityCenter] Components\YVE\Component\WithDefect
```

ヒント: ALM では、不具合にムービー (.fbr ファイル) を添付することができます。ALM でムービーを再生するには、Unified Functional Testing Add-in for ALM をインストールする必要があります。

5. 結果

不具合は、ALM プロジェクトの不具合データベースに追加されます。

不具合を ALM プロジェクトに自動送信する方法 (UFT GUI テストのみ)

このタスクでは、UFT の[実行]オプションの設定により、GUI テスト内で失敗したステップごとに ALM プロジェクトに不具合を自動送信する方法について説明します。この場合、実行セッション後にこれらの不具合を提出するのを覚えておく必要はありません。

このタスクには、次の手順が含まれています。

- 「前提条件」(21ページ)
- 「[オプション]ダイアログ・ボックスで[実行]の設定を変更」(21ページ)
- 「結果」(22ページ)

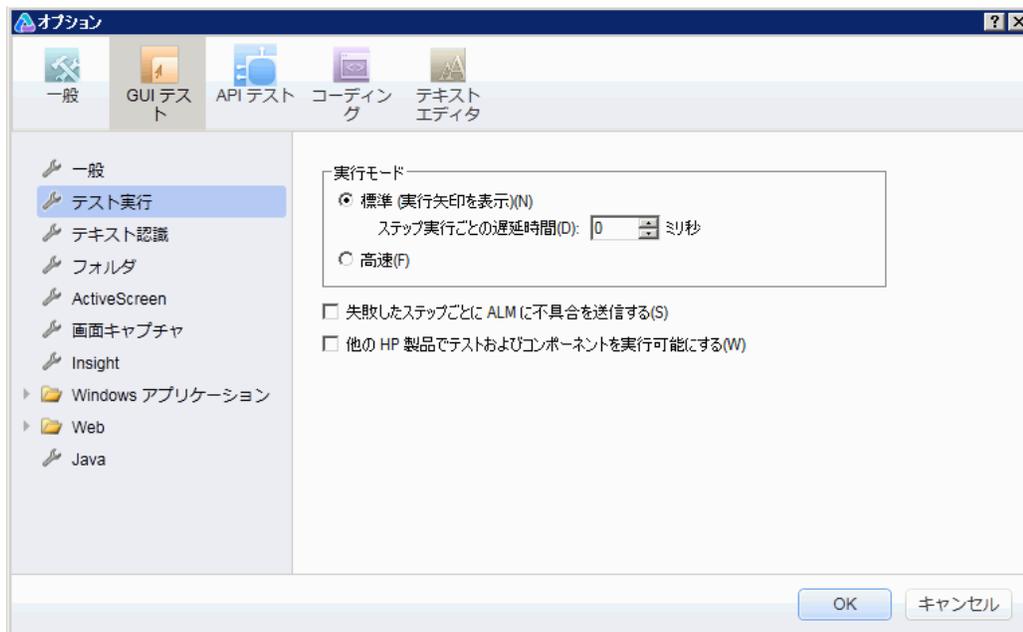
1. 前提条件

- 実行セッションの前に、UFT で ALM プロジェクトに接続した状態であることを確認します ([ALM] > [ALM への接続])。
- 実行結果は、この ALM プロジェクトに格納しておく必要があります。

2. [オプション]ダイアログ・ボックスで[実行]の設定を変更

- a. [ツール] > [オプション]を選択します。[オプション]ダイアログ・ボックスが開きます。

- b. [GUIテスト]タブで, [テスト実行]ノードをクリックします。



- c. [失敗したステップごとに ALM に不具合を送信する]チェック・ボックスを選択します。
- d. [OK]をクリックして[オプション]ダイアログ・ボックスを閉じます。

3. 結果

ステップごとに ALM に不具合を送信する設定を行った場合のレポートのサンプルは、次のとおりです。

```
This defect was added automatically by QuickTest Professional

Standard Checkpoint "Flight Details_4" failed

Test name: Recording
Test location: C:\Program Files\HP\QuickTest Professional
\Tests\Tutorial\Recording on BINDER
Action name: Action1

Operating system : Windows XP
Host: BINDER

Additional Information:
Verification type: String Content.
Settings: Exact match - ON; Ignore space - ON; Match case - OFF.
Results: Checked 28 cells;
Succeeded: 27;
Failed: 1
```

実行結果のエクスポート方法

このタスクでは、実行結果をファイルにエクスポートする方法について説明します。実行結果をエクスポートする際、含まれる内容については、「[\[実行結果のエクスポート\]ダイアログ・ボックス \(Run Results Viewer\) 」\(65ページ\)](#)を参照してください。

このタスクには、次の手順が含まれています。

- [「Run Results Viewer で結果を開く」\(23ページ\)](#)
- [「エクスポート設定の指定」\(23ページ\)](#)
- [「ファイルの保存」\(23ページ\)](#)
- [「結果」\(24ページ\)](#)

1. Run Results Viewer で結果を開く

詳細については、「[\[実行結果を開く\]ダイアログ・ボックス」\(72ページ\)](#)を参照してください。

2. エクスポート設定の指定

[ファイル] > [ファイルにエクスポート]を選択します。[実行結果のエクスポート]ダイアログ・ボックスが開きます。各種設定の詳細については、「[\[実行結果のエクスポート\]ダイアログ・ボックス \(Run Results Viewer\) 」\(65ページ\)](#)を参照してください。

3. ファイルの保存

[エクスポート]をクリックします。[名前を付けて保存]ダイアログ・ボックスが開きます。ファイル名とパスを指定し、ファイルの種類を選択します。

レポート・タイプ	保存ファイルの種類
ステップの詳細	<ul style="list-style-type: none">■ HTML (*.htm, *.html) (標準設定)■ PDF (*.pdf)■ DOC (*.doc) (Microsoft Word がインストールされている場合に利用可能)
データ・テーブル	Excel (*.xls)
ログの記録 (UFT GUI テストのみ)	XML (*.xml)

レポート・タイプ	保存ファイルの種類
画面レコーダ (UFT GUI テストのみ)	FlashBack (*.fbr)
システム・モニタ (UFT GUI テストのみ)	<ul style="list-style-type: none"> ■ テキスト (*.csv, *.txt) (標準設定) ■ Excel (*.xls) ■ XML (*.xml) ■ HTML (*.htm, *.html) <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">注: エクスポートの対象は、システム・モニタのデータのみであり、グラフは含まれません。</p>

4. 結果

[保存]をクリックすると、指定した形式で指定の場所にファイルがエクスポートされます。

注: .fbr ファイルは、HP Micro Recorder ([「HP Micro Player で画面レコーダのムービー・ファイルを再生」\(62ページ\)](#))を参照)で表示できます。また、ALM では、不具合に .fbr ファイルを添付することができます。ALM でムービーを再生するには、Unified Functional Testing Add-in for ALM をインストールする必要があります。

HP Micro Player で画面レコーダ・ムービーを再生する方法 (UFT GUI テストのみ)

注: HP Micro Player を使用するコンピュータには、UFT をインストールする必要があります。

1. 次のいずれかを実行します。

- Windows エクスプローラで、.fbr ファイルをダブルクリックします。
- [スタート] > [すべてのプログラム] > [HP Software] > [HP Unified Functional Testing] > [Tools] > [HP Micro Player] を選択します。Micro Player が起動したら、[ファイル] > [開く] を選択して、任意の .fbr ファイルを開きます。
- <UFT インストール・フォルダ\bin\Free_HPSR_Player.exe のプログラムを起動します。

HP Micro Player でムービーが開き、再生が始まります。

注: Windows 8 での UFT および UFT のツールとファイルへのアクセス方法の詳細については、「[Windows 8 オペレーティングシステムでの UFT へのアクセス](#)」(14ページ)を参照してください。

2. ウィンドウの上部にあるコントロールでは、ムービーの指定場所への移動や、音量の変更が可能です。

実行結果の削除方法

このタスクでは、「[実行結果削除ツール\(UFTのみ\)](#)」(80ページ) (80 ページを参照)を使用して、不要な実行結果や古い実行結果を、指定した条件に基づいてファイル・システムから削除する方法を説明します。たとえば、指定の日付よりも古い結果や、指定のファイル・サイズを超える結果を削除することができます。これによって貴重なディスク・スペースを解放できます。

前提条件

ALM プロジェクトから実行結果を削除するには、次の前提条件を満たす必要があります。

- 対象の ALM プロジェクトに対する **Delete Run** 権限が必要です。
- ALM プロジェクトに接続します。詳細については、「[\[HP ALM への接続\]ダイアログ・ボックス \(Run Results Viewer\)](#)」(77ページ)を参照してください。

詳細については、「[実行結果削除ツール\(UFTのみ\)](#)」(80ページ)を参照してください。

実行結果削除ツールを使って実行結果を削除する

詳細については、「[実行結果削除ツール\(UFTのみ\)](#)」(80ページ)を参照してください。

結果

選択した実行結果がファイル・システムや ALM プロジェクトから削除されます。

リファレンス

Run Results Viewer のユーザ・インタフェース

このウィンドウでは、実行セッションの結果が表示されます。

GUI テスト: 次の例は、テストの結果を[エグゼクティブ サマリ]で表示した画面です。テスト結果は、テストのアクションごとにまとめられています。

[統計情報]領域では、反復の回数、成功、警告、失敗ごとに表示されます。また、これまでにテストを実行している場合は、今回の結果と以前の結果を比較することもできます。これまでの実行結果を確認するには、[開く]ボタンをクリックしてください。

The screenshot displays the HP Run Results Viewer interface. The main window is titled "GUI Test 8 Res2 - HP Run Results Viewer". The left pane shows a tree view of test actions, including "Start Up Browser", "Action 1 サマリ", and "Under Construction: Mercury". The right pane shows the "Executive Summary" for "GUI Test 8 - Res2", which is marked as "成功" (Success). The summary includes details such as Test Name, Product Name, Time Zone, Start/End times, and Total Duration. Below the summary is a "Statistics" section with four donut charts comparing the current run and the previous run across "Iterations" and "Steps". The current run shows 1 success and 0 failures/warnings, while the previous run shows 2 successes and 0 failures/warnings. A "開く(O)" button is present below the charts. At the bottom, there are tabs for "Results Details", "Screenshot", and "System Monitor", and a message indicating that no data is currently associated with the selected element.

項目	値
テスト名	GUI Test 8
製品名	HP Unified Functional Testing
結果名	Res2
製品バージョン	11.51
タイムゾーン	東京 (標準時)
ホスト名	GSEVM178
実行開始	2013/03/25 - 17:53:36
オペレーティングシステム	Windows 2008 R2
実行終了	2013/03/25 - 17:53:43
サーバ名	http://16.156.254.48:8080/qcbin
総時間	00:00:07
プロジェクト名	DEFAULT.BV

比較項目	現在の実行 (成功)	前回の実行 (成功)
反復	0 件が失敗 0 件が警告 1 件が成功	0 件が失敗 0 件が警告 1 件が成功
ステップ	0 件が失敗 0 件が警告 2 件が成功	0 件が失敗 0 件が警告 2 件が成功

GUI コンポーネント:次に、コンポーネントの実行結果の例を示します。



注: この例では、テスト・オブジェクトのエラーが原因で、コンポーネントが失敗しています。実行エラーが発生しなければ、[結果]に[成功]と表示されます。

UFT API テスト: 次の例は、API テストの実行を[エグゼクティブ サマリ]で表示した画面です。



アクセス方法	<p>次の手順のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • UFT から[表示] > [最後の実行結果の表示]を選択します。 • [スタート]メニューから, [HP Software] > [HP Run Results Viewer] > [Run Results Viewer]を選択します。 <p>詳細については、「実行結果を開く方法」(15ページ)を参照してください。</p>
---------------	--

標準設定では、左の表示枠 (ドッキング可能) に実行結果ツリーが表示されます。ウィンドウの右側には、ドッキング可能な追加の表示枠が2行で表示されます。次に、ユーザー・インターフェース要素について説明します (ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます)。

UI 要素	説明
<Run Results Viewer のメニュー・バーとツールバー>	「 Run Results Viewer のコマンド 」(30ページ)を参照してください。

UI 要素	説明
<p>[エグゼクティブ サマリー] ページ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 最上位ノードを選択すると、[結果の詳細]表示枠には、上位レベルの概要レポート (一般的な情報、成功/失敗のステータス、統計情報、前回実行結果へのリンク (実行した場合)、メモなど) が表示されます。詳細については、「[エグゼクティブ サマリー] ページ」(45ページ)を参照してください。 テストに関する ALM 情報 (テストまたはコンポーネントを ALM から実行した場合。または、ALM に格納したテストを UFT から実行し、実行結果を ALM に保存した場合)
<p>「[実行結果ツリー] 表示枠と[検索] ボックス」(36ページ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 展開可能なツリーを使って実行結果をグラフィック表示 [検索] ボックス テストまたはコンポーネントのステップで、アプリケーション・エラーの発生箇所を正確に表示
<p>「[結果の詳細] 表示枠 (Run Results Viewer) 」(43ページ)</p>	<p>各ステップとチェックポイントの成功/失敗について、テストまたはコンポーネントのステージごとに詳しく説明します。</p>
<p>「[キャプチャデータ] 表示枠 (Run Results Viewer) 」(47ページ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 特定のステップでのアプリケーションの状態を、静止画像で示します UFT の場合、ビットマップ・チェックポイント画像など、追加情報が表示されます <p>詳細については、「[キャプチャデータ] 表示枠 (Run Results Viewer) 」(47ページ)を参照してください。</p>
<p>「[データ] 表示枠 (Run Results Viewer) 」(55ページ)</p>	<p>すべての反復で使用されたデータ</p>
<p>「[画面レコーダ] 表示枠 (Run Results Viewer) (UFT GUI テストのみ) 」(59ページ)</p>	<p>テストまたはコンポーネントの特定のステップまたはすべてのステップでのアプリケーションの状態を示すムービー・クリップ</p>

UI 要素	説明
「[システム モニタ] 表示 枠 (Run Results Viewer) (UFT GUI テストのみ)」(62ページ)	テストまたはコンポーネントの監視に使用されているシステム・カウンタ
「[ログの記録]表示 枠 (Run Results Viewer) (UFT GUI テストのみ)」(57ページ)	テストまたはコンポーネントについて取得されたログ・メッセージ
<ステータス・バー>	表示される内容: <ul style="list-style-type: none"> 強調表示されているメニュー・コマンドの説明 (メニュー・コマンドが有効になっている場合のみ) 現在選択されているコマンドのステータス 接続情報 (ALM プロジェクトへの接続時) フィルタ表示アイコン (結果をフィルタリングした場合)

Run Results Viewer のコマンド

Run Results Viewer メニュー・バーとツールバーには、実行セッションの結果表示に使用するコマンドがあります。

ボタン	コマンド	ショートカット・キー	説明
	[ファイル] > [開く]	CTRL + O	[実行結果を開く]ダイアログ・ボックスが開きます。ファイル・システムまたは ALM に保存されている実行結果を開くことができます。 詳細については、「 実行結果を開く方法 」(15ページ)を参照してください。

ボタン	コマンド	ショートカット・キー	説明
	[ファイル] > [印刷]	CTRL + P	[印刷] ダイアログ・ボックスが開きます。実行セッションの結果を印刷できます。 詳細については、「 [印刷] ダイアログ・ボックス (Run Results Viewer) 」(73ページ) を参照してください。
--	[ファイル] > [印刷プレビュー]	CTRL + F2	[印刷プレビュー] ダイアログ・ボックスが開きます。実行セッションの結果を、印刷する前に確認できます。 詳細については、「 [印刷プレビュー] ダイアログ・ボックス (Run Results Viewer) 」(75ページ) を参照してください。
--	[ファイル] > [ファイルにエクスポート]	--	[実行結果のエクスポート] ダイアログ・ボックスが開きます。結果の一部を外部ファイルとして保存できます。 詳細については、「 [実行結果のエクスポート] ダイアログ・ボックス (Run Results Viewer) 」(65ページ) を参照してください。
--	[ファイル] > [結果からムービーを削除]	--	(UFT GUI テストのみ) テストまたはコンポーネントの結果から、保存されているムービーを削除します。これにより、実行結果ファイルのサイズを小さくすることができます。
--	[ファイル] > [最近使用したファイル]	--	最近表示したファイルを表示します。
--	[ファイル] > [終了]	--	Run Results Viewer セッションを閉じます。

ボタン	コマンド	ショートカット・キー	説明
--	[表示] > [Run Results Viewer ツールバー]	--	Run Results Viewer ツールバーの表示/非表示を切り替えます。
--	[表示] > [ステータスバー]	--	次の項目について、ステータスバーの表示と非表示を切り替えます。 <ul style="list-style-type: none"> • 現在選択されているコマンドに関するヒント • Run Results Viewer のステータス • ALM サーバ名と、Run Results Viewer が接続しているプロジェクト • 結果がフィルタリングされているかどうか (フィルタが適用されている場合はフィルタ・アイコンが表示されます)
--	[表示] > [結果の詳細]	--	[結果の詳細] 表示枠が閉じている場合は開きます。開いている場合は、フォーカスが移動します。詳細については、「 [結果の詳細] 表示枠 (Run Results Viewer) 」(43ページ)を参照してください。
--	[表示] > [画面レコーダ]	--	(UFT GUI テストのみ) [画面レコーダ] 表示枠が閉じている場合は開きます。開いている場合は、フォーカスが移動します。詳細については、「 [画面レコーダ] 表示枠 (Run Results Viewer) (UFT GUI テストのみ) 」(59ページ)を参照してください。

ボタン	コマンド	ショートカット・キー	説明
--	[表示] > [システム モニタ]	--	(UFT GUI テストのみ) [システム モニタ] 表示枠が閉じている場合は開きます。開いている場合は、フォーカスが移動します。詳細については、「[システム モニタ] 表示枠 (Run Results Viewer) (UFT GUI テストのみ)」(62ページ)を参照してください。
--	[表示] > [キャプチャ データ]	--	[キャプチャ データ] 表示枠が閉じている場合は開きます。開いている場合は、フォーカスが移動します。詳細については、「[キャプチャ データ] 表示枠 (Run Results Viewer)」(47ページ)を参照してください。
--	[表示] > [データ]	--	[データ] 表示枠が閉じている場合は開きます。開いている場合は、フォーカスが移動します。詳細については、「[データ] 表示枠 (Run Results Viewer)」(55ページ)を参照してください。
--	[表示] > [ログの記録]	--	(UFT GUI テストのみ) [ログの記録] 表示枠が閉じている場合は開きます。開いている場合は、フォーカスが移動します。詳細については、「[ログの記録] 表示枠 (Run Results Viewer) (UFT GUI テストのみ)」(57ページ)を参照してください。
--	[表示] > [レイアウトの復元]	--	Run Results Viewer のレイアウトを標準設定に戻します。

ボタン	コマンド	ショートカット・キー	説明
	[表示] > [フィルタ]	CTRL + T	[フィルタ]ダイアログ・ボックスが開きます。表示されている情報のフィルタリングが可能です。詳細については、「 [フィルタ]ダイアログ・ボックス (Run Results Viewer) 」(70ページ)を参照してください。
	[表示] > [すべて折りたたみ]	--	実行結果ツリーの分岐をすべて折りたたみます。 また、コンテキスト・メニューには、選択したノードの下にあるノードをすべて折りたたむオプションもあります。
	[表示] > [すべて折りたたみ]	--	実行結果ツリーの分岐をすべて折りたたみます。 また、コンテキスト・メニューには、選択したノードの下にあるノードをすべて折りたたむオプションもあります。
	[表示] > [前のノードに移動]	--	ツリー内で、前に選択したノードにカーソルを移動します。
	[表示] > [次のノードに移動]	--	[前のノードに移動] ボタンをクリックする前に、ツリー内で選択していたノードにカーソルを移動します。

ボタン	コマンド	ショートカット・キー	説明
	[表示] > [テスト内のステップに移動]	CTRL+J	<p>(UFT GUI テストのみ) UFT ウィンドウがアクティブになり, 実行結果ツリーで選択したノードに対応するテスト・ステップが強調表示されます。</p> <p>詳細については, 「GUI テスト内のステップへの移動方法 (UFT GUI テストのみ)」(19ページ)を参照してください。</p> <p>注: アクション, 反復, サマリの各ノードについては, このボタンは無効になります。</p>
	[ツール] > [不具合の追加]	--	<p>不具合を ALM プロジェクトに追加します。現在 ALM に接続していない場合, [ALM への接続]ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については, 「不具合を ALM に手動で送信する方法」(20ページ)を参照してください。</p>
	[ツール] > [ALM への接続]	--	<p>[HP ALM への接続]ダイアログ・ボックスを開きます。これにより, ALM プロジェクトに接続できます。詳細については, 「[HP ALM への接続]ダイアログ・ボックス (Run Results Viewer)」(77ページ)を参照してください。</p>
	[ヘルプ] > [Run Results Viewer ヘルプ]	--	<p>[HP Run Results Viewer ヘルプ]が開きます。</p>
--	[ヘルプ] > [Run Results Viewer のバージョン情報]	--	<p>HP Run Results Viewer のバージョン情報が表示されます。</p>

Run Results Viewer の表示枠

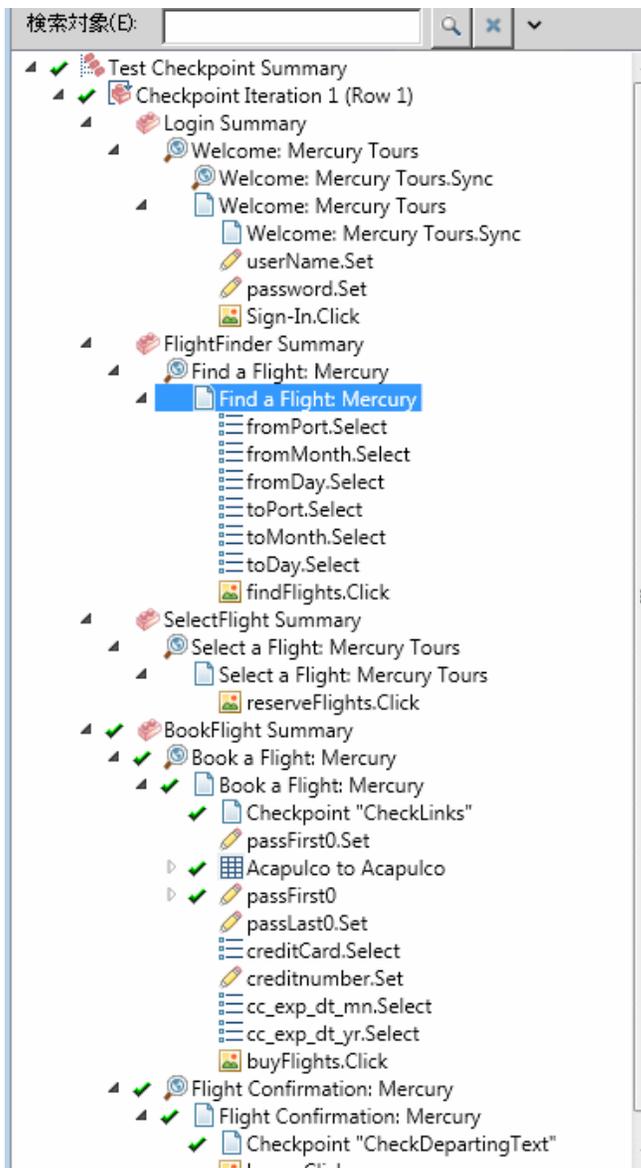
本項の内容

- 「[実行結果ツリー]表示枠と[検索]ボックス」(36ページ)
- 「[結果の詳細]表示枠 (Run Results Viewer) 」(43ページ)
- 「[キャプチャデータ]表示枠 (Run Results Viewer) 」(47ページ)
- 「[テストフロー]表示枠 (Run Results Viewer) (UFT API テストのみ) 」(53ページ)
- 「[データ]表示枠 (Run Results Viewer) 」(55ページ)
- 「[ログの記録]表示枠 (Run Results Viewer) (UFT GUI テストのみ) 」(57ページ)
- 「[画面レコーダ]表示枠 (Run Results Viewer) (UFT GUI テストのみ) 」(59ページ)
- 「[システムモニタ]表示枠 (Run Results Viewer) (UFT GUI テストのみ) 」(62ページ)

[実行結果ツリー]表示枠と[検索]ボックス

この表示枠には、実行セッションの結果を階層構造またはグラフィックで表示した**実行結果ツリー**が表示されます。ツリーの上に、**[検索]**ボックスがあります。

次の例は、GUI テストの実行結果ツリーを表示した画面です。GUI コンポーネントの場合も、同様の結果が表示されます。UFT API テストの場合は、個々のテスト・ステップとチェックポイントがツリーに表示されます。



次の例では、「Welcome」という文字列を検索した結果、8つのインスタンスが見つっています。



<p>アクセス方法</p>	<p>Run Results Viewerを開きます (「実行結果を開く方法」(15ページ)を参照)。 標準設定では、Run Results Viewerの左側に[実行結果 ツリー]表示枠が開きます。この表示枠は非表示にできません。</p> <p>[検索]ボックスは、ツリーのすぐ上にあり、[展開]  ボタンをクリックすると、展開できます。</p>
<p>重要な情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ツリー内のノードをクリックすると、[結果の詳細]表示枠に詳細な情報が表示されます。ほかにも、テストまたはコンポーネントや強調表示されているステップ (該当する場合) の情報が表示される表示枠もあります。 ツリー表示の詳細レベルを変更するには、実行結果ツリーのノードを折りたたむ、または展開してください。 「[フィルタ]ダイアログ・ボックス (Run Results Viewer)」(70ページ)のコマンドを使用すると、実行結果ツリー内で表示する内容をコントロールできます。

実行結果ツリー

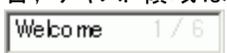
実行結果ツリーのアイコンをいくつか紹介します。

UI 要素	説明
	成功したステップを示します。 注: テストにチェックポイントがない場合、アイコンは表示されません。コンポーネントの場合、コンポーネントのステップに次のいずれかが含まれる場合のみ、アイコンが表示されます。 <ul style="list-style-type: none">• Verify 操作 (関数) (VerifyProperty など)• micPass ステータスの AddToRunResults (またはこれに相当する関数)
	失敗したステップを示します。ステップが失敗すると、すべての親ステップ (ルート・アクション、ルート・テスト、またはルート・コンポーネントまで) も失敗します。
	(UFT GUI テストのみ) 情報ステップであることを示します。ステップの成功/失敗のステータスには影響しません。 (UFT GUI テストの場合のみ)
	警告を示します。ステップは成功しませんでした。アクション、テスト、またはテストコンポーネントが失敗する原因にはなっていません。
	予期しない原因 (チェックポイントのオブジェクトが見つからない、など) でステップが失敗したことを示します。
	(UFT GUI テストとコンポーネントのみ) スマート認識メカニズムにより、オブジェクトが見つかったことを示します。
	(UFT GUI テストとコンポーネントのみ) 回復シナリオが有効になったことを示します。
	実行セッションが、終了前に停止したことを示します。

UI 要素	説明
 password].SetSecure	(UFT GUI テストとコンポーネントのみ) テスト・オブジェクト名が大括弧で囲まれている場合は、実行セッション中にテスト・オブジェクトが動的に作成されたことを示します。動的なテスト・オブジェクトの作成には、プログラムの記述または ChildObjects メソッドが返すオブジェクトが使用され、オブジェクト・リポジトリには保存されません。
	(UFT GUI テストとコンポーネントのみ) [メンテナンスモードによる更新の結果] が表示されます。このテーブルには、メンテナンス実行ウィザードが、失敗したステップで行ったアクションとその詳細が含まれます。このアイコンが表示されるのは、メンテナンス実行モードで行ったテストまたはコンポーネントのみです。詳細については、『HP Unified Functional Testing ユーザース・ガイド』のメンテナンス実行モードについて説明している項を参照してください。

[検索] ボックス

次に、[検索]ボックスのユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	このテキスト・ボックスには、検索するテキストをオプションで入力できます。 入力したテキストが1つまたは複数のツリー・ノードで見つかった場合、テキスト領域は次のように表示されます。  「6 の 1」とは、「Welcome」というテキストを含むノードが6つあることを示し、最初に検出されたノードがツリー内で強調表示されます。
	検索: [検索]ボックスで指定した条件を満たす次のインスタンスを探します。このボタンをクリックすると、検索条件を満たすノードに1つずつ移動します。
	キャンセル: [検索]テキスト・ボックスをクリアします。
	展開または折りたたみ: [検索]ボックスの下の部分を表示または非表示にします。

UI 要素	説明
<p>ステータス</p>	<p>検索対象となるステータス(任意)。</p> <p>取り得る値:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 成功: 成功したステップの中で、他の選択条件を満たすものを検索します。 • 失敗: 失敗したステップの中で、他の選択条件を満たすものを検索します。 • 完了: ステータスが[完了]のステップ(問題なく実行されたが、ステータスが成功、失敗、警告のいずれでもないステップ)の中で、他の選択条件を満たすものを検索します。 • 警告: ステータスが[警告]のステップ(成功はしなかったが、テストが失敗する原因にはなっていないステップ)の中で、他の選択条件を満たすものを検索します。 <div style="background-color: #f0f0f0; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>注: 指定のステータスを満たすステップがツリー内に存在しない場合、[検索]ボックスでこのオプションは淡色表示になります。</p> </div>

UI 要素	説明
ノード・タイプ	<p>検索対象となるノードの種類 (他の検索条件も適用)(任意)。</p> <p>取り得る値:</p> <ul style="list-style-type: none">• 反復:反復ノードの中で、ほかの選択条件を満たすものを検索します。• アクション:アクション・ノードの中で、ほかの選択条件を満たすものを検索します。• ステップ:ステップの中で、ほかの選択条件を満たすものを検索します。• レポータ:レポータ・ステップの中で、他の選択条件を満たすものを検索します。 <div data-bbox="662 814 1369 989" style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px;"><p>注: このオプションは、Reporter.ReportNote ステップでは使用できません。このステップは、[エグゼクティブ サマリ]ページに表示されますが、実行結果ツリーには表示されません。</p></div> <ul style="list-style-type: none">• チェックポイント/出力値:チェックポイントおよび出力値の中で、ほかの選択条件を満たすものを検索します。 <div data-bbox="630 1121 1369 1230" style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px;"><p>注: 特定のノード・タイプがツリー内に存在しない場合、[検索]ボックスでこのオプションは淡色表示になります。</p></div>
方向	<p>ツリーでの検索方向。取り得る値:</p> <ul style="list-style-type: none">• 上へ• 下へ

[結果の詳細]表示枠 (Run Results Viewer)

この表示枠には、実行結果ツリー内で現在選択されている個々の反復、アクション、またはステップの詳細が表示されます。

[エグゼクティブ サマリ]は、実行結果ツリーの最上位ノードを選択すると、表示されます。

項目	値	項目	値
テスト名:	demo_tj	製品名:	HP Service Test
結果名:	Result27	製品バージョン:	11.51
タイムゾーン:	中国 (標準時)	ホスト名:	GSEVM178
実行開始:	2013/01/31 - 20:57:18	オペレーティング システム:	Windows 2008 R2
実行終了:	2013/01/31 - 20:57:20		
総時間:	00:00:02		

統計情報 ■ 成功 ■ 失敗 ■ 警告 ■ 完了

現在の実行
✓ 成功

カテゴリー	反復	ステップ
失敗	0 件	0 件
警告	0 件	0 件
成功	1 件	1 件

前回の実行
完了
demo_tj - Result26

カテゴリー	反復	ステップ
失敗	0 件	0 件
警告	0 件	0 件
成功	0 件	0 件

開く(O)

結果の詳細 画面レコーダ システム モニタ

[結果の詳細]は、実行結果ツリーでノード (最上位ノード以外) を選択すると、表示されます。



<p>アクセス方法</p>	<p>次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実行結果ツリーでノードを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ [エグゼクティブ サマリ] ページを開くには、ツリーの最上位ノードを選択します。 ■ ステップの[結果の詳細]を開くには、ツリー内で目的のノードを選択します。 2. [結果の詳細]タブを選択します (標準設定のレイアウトが表示されていることを想定します)。 <p>ヒント: [結果の詳細]表示枠が非表示になっている場合は、[表示]>[結果の詳細]を選択すると、表示できます。</p>
<p>重要な情報</p>	<p>標準設定では、実行セッション後に実行結果ビューアが開き、[結果の詳細]表示枠に[エグゼクティブ サマリ]が表示されます。ここには、テストまたはコンポーネントに関する実行セッション情報が表示されます。また、実行の統計情報やメモ(追加された場合)も表示されます。</p> <p>ほかのノードについては、[結果の詳細]表示枠に、実行結果ツリーで選択したステップ固有の情報が表示されます。たとえば、入出力パラメータが表示される場合や、更新実行モードで実行したセッションであることが表示される場合があります。</p>

次に、ユーザ・インタフェース要素について説明します(ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます)。

[エグゼクティブ サマリ] ページ

UI 要素	説明
エグゼクティブ・サマリ	<p>次の内容が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • テストまたはコンポーネントの名前と結果の詳細、設定の内容 (該当する場合) • 実行日時に関する情報 • テストまたはコンポーネントの実行に使用された製品 • ALM サーバとプロジェクト (実行中に UFT が ALM プロジェクトに接続していた場合) <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>注: ALM に格納されているテストまたはコンポーネントを UFT から実行し、実行結果を一時的な場所に格納した場合、[テスト セット] フィールドと[テスト インスタンス] フィールドは結果には表示されません。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> • 入出力パラメータ (該当する場合) • その他の情報 (テストを更新モードで実行したかどうか、など)
統計情報	<p>今回の実行と過去の実行 (存在する場合) のステータスに関する統計情報をグラフィック表示します。これまでにテストまたはコンポーネントを実行している場合、[開く]をクリックすると、過去の実行結果が新しいRun Results Viewerウィンドウに表示されます。</p>
メモ	<p>Reporter.ReportNote ユーティリティ・ステートメントを使用して実行セッションに関連するメモが追加されている場合、そのメモが表示されます。詳細については、『HP UFT Object Model Reference for GUI Testing』の「Utility Objects」の項を参照してください。</p>
パラメータ	<p>テストまたはコンポーネントの入出力パラメータを表示します。詳細については、「実行結果でのパラメータ化された値」(105ページ)を参照してください。</p>

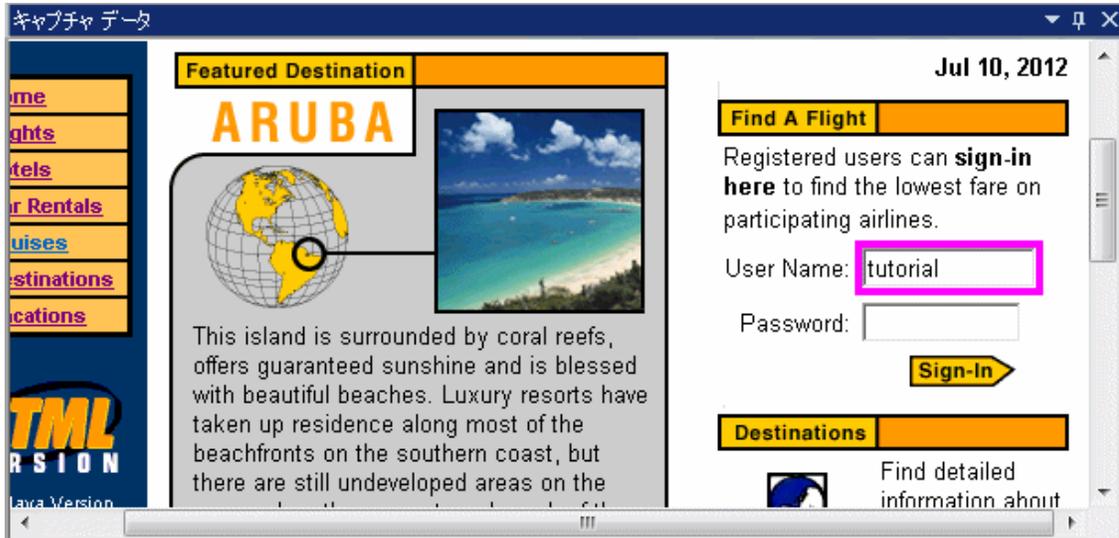
ステップに関する結果の詳細

UI 要素	説明																												
<ステップ名>	ステップの名前。																												
<ステップのステータス>	<p>ステップのステータス。取り得る値:</p> <ul style="list-style-type: none"> 完了: 実行に成功したが、チェックポイントを含まない反復、アクション、ステップを示します。 失敗: チェックポイントを含む反復、アクション、ステップを示します。 成功: チェックポイントを含む反復、アクション、ステップを示します。 警告: 実行は成功しませんでした、テストまたはコンポーネントが停止する原因にはなっていないステップを示します。 <p>注: テスト、コンポーネント、反復、アクションに[警告]のステップが含まれる場合でも、ステータスが[成功]または[完了]になることがあります。</p>																												
<ステップの詳細>	<p>ステップの詳細情報を示します。たとえば、ステップを実行したオブジェクト、タイムスタンプ、ステップの結果などがあります。この領域に表示される内容は、ステップのタイプによって異なります。</p> <p>例 1: Page テスト・オブジェクトで実行されたステップ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>オブジェクト</th> <th>詳細</th> <th>結果</th> <th>時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Sign-on: Mercury Tours</td> <td>Page</td> <td>完了</td> <td>2013/03/18 - 16:38:56</td> </tr> </tbody> </table> <p>例 2: 出力値ステップ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">userName 件の結果</th> </tr> <tr> <th>プロパティ名</th> <th>キャプチャされた値</th> <th>タイプ</th> <th>名前</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>html tag</td> <td>INPUT</td> <td>DataTable</td> <td>userName_html_tag_out</td> </tr> <tr> <td>name</td> <td>userName</td> <td>DataTable</td> <td>userName_name_out</td> </tr> <tr> <td>type</td> <td>text</td> <td>DataTable</td> <td>userName_type_out</td> </tr> </tbody> </table>	オブジェクト	詳細	結果	時間	Sign-on: Mercury Tours	Page	完了	2013/03/18 - 16:38:56	userName 件の結果				プロパティ名	キャプチャされた値	タイプ	名前	html tag	INPUT	DataTable	userName_html_tag_out	name	userName	DataTable	userName_name_out	type	text	DataTable	userName_type_out
オブジェクト	詳細	結果	時間																										
Sign-on: Mercury Tours	Page	完了	2013/03/18 - 16:38:56																										
userName 件の結果																													
プロパティ名	キャプチャされた値	タイプ	名前																										
html tag	INPUT	DataTable	userName_html_tag_out																										
name	userName	DataTable	userName_name_out																										
type	text	DataTable	userName_type_out																										

[キャプチャ データ] 表示枠 (Run Results Viewer)

この表示枠には、強調表示されたステップのアプリケーション静止画像、ビットマップ・チェックポイント画像、ファイル内容チェックポイント比較、その他のデータ (UFT API テスト・ステップで実行されたステップなど) が表示されます。

次の画像は、[キャプチャ データ] 表示枠の例です。GUI テスト実行セッション中に取得したアプリケーションの静止画像が表示されています。



次の画像では、[キャプチャ データ] 表示枠にテスト・ステップの Web Service Call プロパティが表示されています。

Web サービス呼び出しのプロパティ	
名前	値
タイプ	HP.ST.Ext.WebServicesActivities.StServiceCallActivity
ステップ ID	StServiceCallActivity4
サービス	HPFlights_Service
ポート	FlightsServiceMethods
操作	GetFlights
アドレス	http://localhost:24240/HPFlights_SOAP
SOAPAction	HP.SOAQ.SampleApp/IHPFlights_Service/GetFlights
ContentType	text/xml; charset=utf-8

アクセス方法	[表示] > [キャプチャ データ] を選択するか、[キャプチャ データ] タブをクリックします。
---------------	---

<p>重要な情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> • GUI ステップの画面キャプチャUFT: 標準設定では、UFTは失敗したステップのアプリケーション静止画像を保存します。実行結果ツリーで失敗したステップを選択してから[キャプチャデータ]表示枠を選択すると、実行結果ツリーで強調表示されているステップに対応するアプリケーションの画面キャプチャが表示されます。強調表示されているステップにエラーがない場合、画面キャプチャは表示されません。 UFTで、[画面キャプチャ]表示枠 ([オプション]ダイアログ・ボックスの[ツール]>[オプション]>[GUIテスト]タブ)の[静止画像キャプチャをテスト結果へ保存]オプションを設定すると、実行結果にアプリケーションの静止画像を含めることができます。詳細については、『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』の[画面キャプチャ]表示枠について説明している項を参照してください。 • UFT API ステップの[キャプチャデータ]表示枠: [キャプチャデータ]表示枠には、UFT API ステップに関連するほとんどの情報が表示されます。この表示枠に表示される内容については、「UFT API ステップでの[キャプチャデータ]表示枠の内容」(48ページ)を参照してください。 • プログラムによって情報を結果に追加: <ul style="list-style-type: none"> ■ UFT GUI テストの場合: Reporter ユーティリティ・オブジェクトの ReportEvent メソッドを使用することにより、[キャプチャデータ]表示枠に画像を追加できます。詳細については、『HP UFT Object Model Reference for GUI Testing』の「Utility Objects」の項を参照してください。 ■ UFT API テストの場合: プログラムによって項目をレポートに追加できます。詳細については、「カスタム・フィールド (UFT API テストのみ)」(13ページ)を参照してください。 • ファイル内容チェックポイント・ステップの[キャプチャデータ]表示枠: [キャプチャデータ]表示枠には、ファイルからの期待される行と実際の行が横に並べて比較表示されます。詳細については、「ファイル内容チェックポイントの結果 (UFT GUI テストのみ)」(93ページ)を参照してください。
<p>関連タスク</p>	<p>「実行結果ツリーの操作方法」(16ページ)</p>

UFT API ステップでの[キャプチャデータ]表示枠の内容

[キャプチャデータ]表示枠の内容は、左の表示枠の実行結果ツリーで選択するレベルによって異なります。

- **[開始]と[終了]:** 開始と終了のアクティビティに関する一般的な情報です。
- **テスト・フロー・ループ:** テスト・ステップを含むループ (テスト・フローなど) に関する情報です。

- **<ステップ名>**: 選択したステップのキャプチャ・データ。
 - サービス・タイプのアクティビティの場合、このレベルでは、操作またはメソッドに関する Request データと Response データが表示されます。
 - Report Message アクティビティの場合、このレベルでは、アクティビティのプロパティで定義したカスタム・メッセージが表示されます。
- **チェックポイント**: 期待値と実際の値、評価方法 (等しい、等しくない、など)、ステータスといったチェックポイントに関するデータです。

要求と応答

<ステップ名>レベルでは、要求メッセージと応答メッセージがテーブル形式で表示されます。表には、HTTP ヘッダとメッセージ本文の両方が表示されます。テーブル・ヘッダの[要求]または[応答]リンクをクリックすると、別のブラウザ・ウィンドウで SOAP が開きます。

次の例は、サンプル Web サービスの GetFlights 操作に関する要求と応答のキャプチャ・データを示しています。

The screenshot shows a window titled "キャプチャ データ" (Captured Data) with a tab "データ" (Data) selected. The window is divided into two main sections: "要求" (Request) on the left and "応答" (Response) on the right. Each section has a sub-section for "HTTP ヘッダ" (HTTP Headers) and "SOAP" body content.

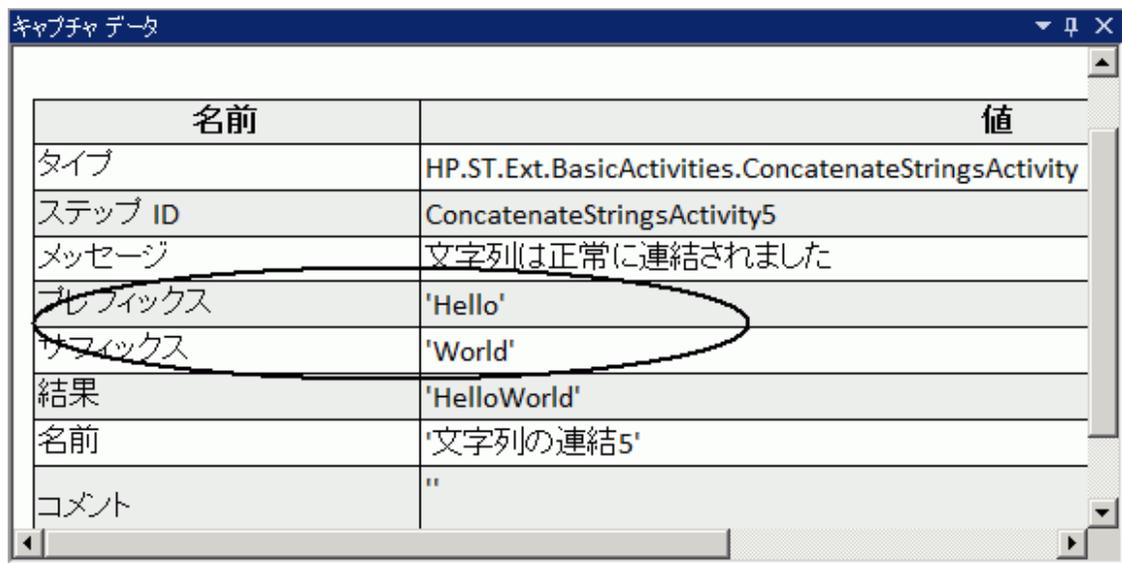
要求	応答
HTTP ヘッダ SOAPAction: HP.SOAQ.SampleApp/IHPFlights_Service/GetFlig Content-Type: text/xml; charset=utf-8 Host: localhost:24240 Content-Length: 124 Expect: 100-continue Connection: Close	HTTP ヘッ Connection: close Content-Length: 469 Content-Type: text/xml; charset Date: Mon, 18 Mar 2013 08:56:31 Server: Microsoft-HTTPAPI/2.0
SOAP	SOAP

At the bottom of the window, there are tabs for "キャプチャ データ", "データ", and "ログの記録".

データ駆動およびパラメータ化のプロパティ

アクティビティのプロパティをパラメータ化、またはデータ駆動を適用する場合、テスト実行中に使用された実際の値が反復ごとに一覧表示されます。

組み込みのアクティビティの場合, [ステップのプロパティ]テーブルに, テスト実行中に使用された値が表示されます。



名前	値
タイプ	HP.ST.Ext.BasicActivities.ConcatenateStringsActivity
ステップ ID	ConcatenateStringsActivity5
メッセージ	文字列は正常に連結されました
プレフィックス	'Hello'
サフィックス	'World'
結果	'HelloWorld'
名前	'文字列の連結5'
コメント	"

サービス要求の場合, [要求]テーブルと[応答]テーブルで, 実際の値を参照できます。



要求	
HTTP ヘッダ	
SOAPAction:	HP.SOAQ.SampleApp/IHPFlights_Service/GetF...
Content-Type:	text/xml; charset=utf-8
Host:	localhost:24240
Content-Length:	210
Expect:	100-continue
Connection:	Close
SOAP	
<pre><Envelope xmlns="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"> <Body> <GetFlights xmlns="HP.SOAQ.SampleApp"> <DepartureCity>Frankfurt</DepartureCity> <ArrivalCity>Portland</ArrivalCity> </GetFlights> </Body> </Envelope></pre>	

配列チェックポイント

左の表示枠で[チェックポイント]ノードを選択すると、チェックポイント、その期待値、実際の結果のリストが[キャプチャデータ]表示枠に表示されます。チェックポイントが配列形式の場合は、[キャプチャデータ]表示枠にチェックポイント・レポートへのリンクが表示されます。

名前	結果	プロパティ	実際の結果	評価スタイル	期待値	詳細
"チェックポイント 1"	✓	""	""	構造的検証	""	
"チェックポイント 2"	✗	"Envelope[1]/Body[1]/GetFlightsResponse[1]/GetFlightsResult[1]"	""	Array - Fixed	""	レポートを表示

チェックポイント・レポートは、別のブラウザ・ウィンドウで開き、各配列要素内のチェックポイントの詳細を表示します。各チェックポイントを展開すると、その期待値と実際の値を表示できます。

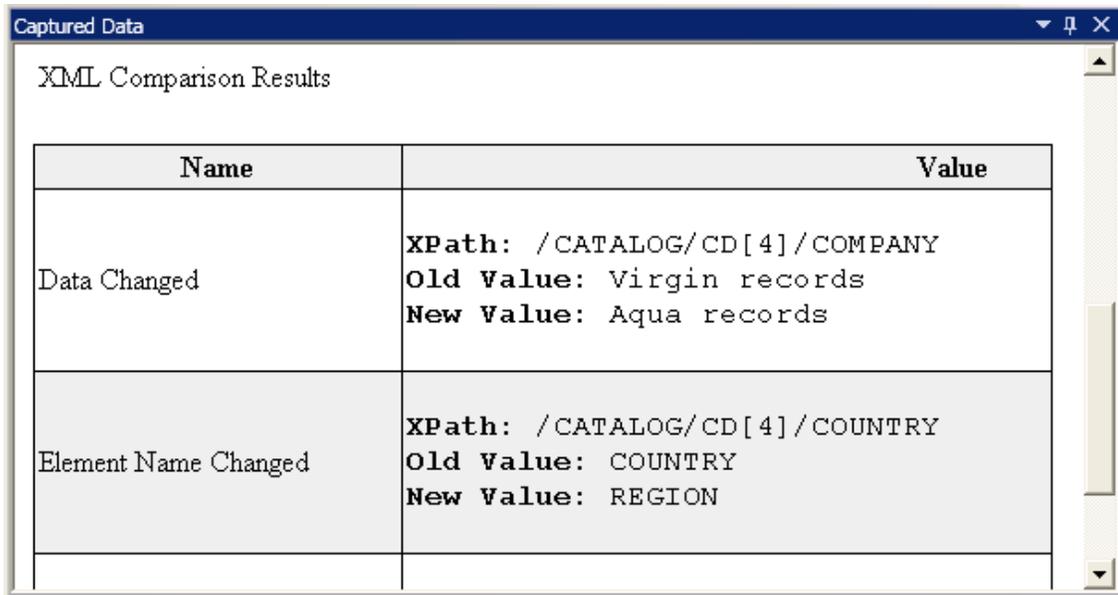
名前	結果	プロパティ	期待値	実際の値	評価スタイル	詳細
⊕"Flight[1]"	✗	""	""	""	Array - Element	""
⊕"Flight[2]"	✓	""	""	""	Array - Element	""
⊕"Flight[3]"	✓	""	""	""	Array - Element	""

このテーブルを適切に表示するには、ブラウザのアクティブ・コンテンツを次の方法で有効にする必要があります。

1. Internet Explorer で、[ツール] > [インターネット オプション]を選択します。
2. [詳細設定]タブを選択します。
3. [セキュリティ]セクションの[マイ コンピュータのファイルでのアクティブ コンテンツの実行を許可する]オプションを有効にします。
4. [OK]をクリックしてブラウザを閉じます。

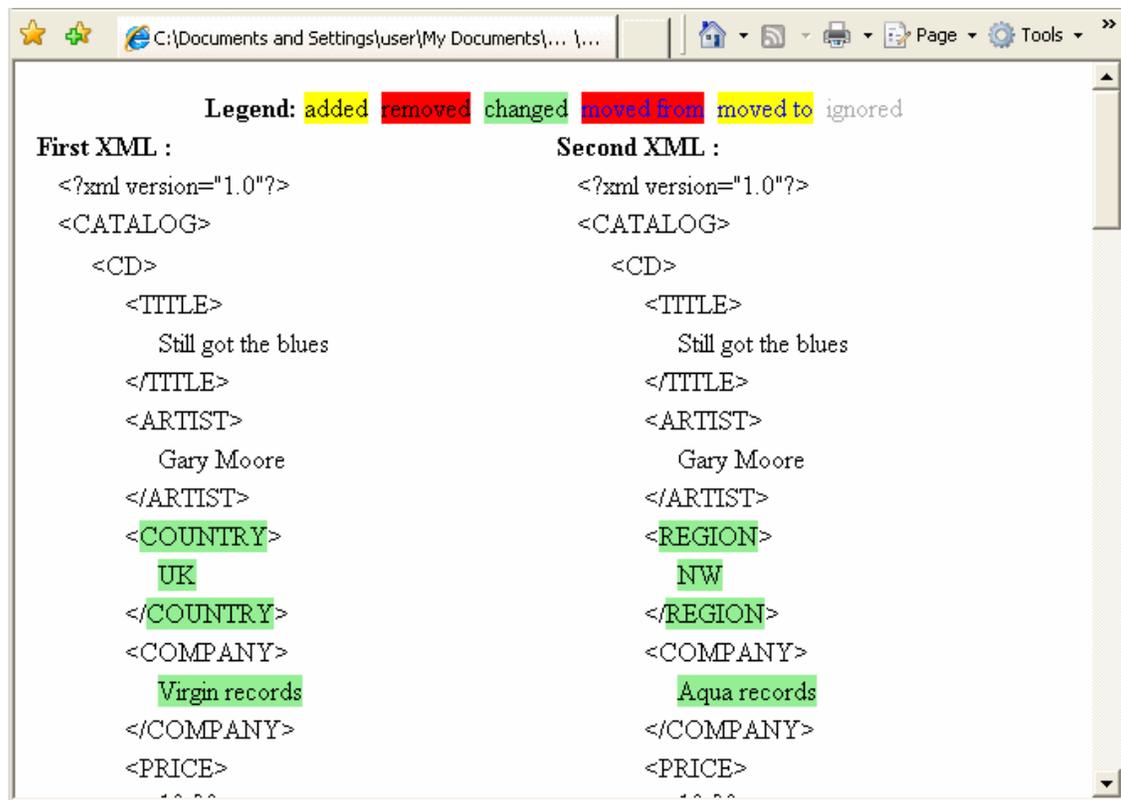
XML 比較レポート

XML を比較アクティビティでは、その結果が[キャプチャデータ]表示枠に表示されます。これには、変更されたデータ、変更された要素名といったXMLの変更点が表示されます。



Name	Value
Data Changed	XPath: /CATALOG/CD[4]/COMPANY Old Value: Virgin records New Value: Aqua records
Element Name Changed	XPath: /CATALOG/CD[4]/COUNTRY Old Value: COUNTRY New Value: REGION

[キャプチャデータ]表示枠の上部にある[レポート ファイル]リンクをクリックすると、完全な比較レポートが外部ブラウザで開きます。



Legend: added removed changed moved from moved to ignored

First XML :

```
<?xml version="1.0"?>
<CATALOG>
  <CD>
    <TITLE>
      Still got the blues
    </TITLE>
    <ARTIST>
      Gary Moore
    </ARTIST>
    <COUNTRY>
      UK
    </COUNTRY>
    <COMPANY>
      Virgin records
    </COMPANY>
    <PRICE>
      ...
  </CD>
</CATALOG>
```

Second XML :

```
<?xml version="1.0"?>
<CATALOG>
  <CD>
    <TITLE>
      Still got the blues
    </TITLE>
    <ARTIST>
      Gary Moore
    </ARTIST>
    <REGION>
      NW
    </REGION>
    <COMPANY>
      Aqua records
    </COMPANY>
    <PRICE>
      ...
  </CD>
</CATALOG>
```

変換された文字列

[XML から文字列へ]および[JSON から文字列へ]ステップでは、その結果が[キャプチャデータ]表示枠に表示されます。[ステップのプロパティ]テーブルには、OutputString エントリに対して得られた文字列が表示されます。

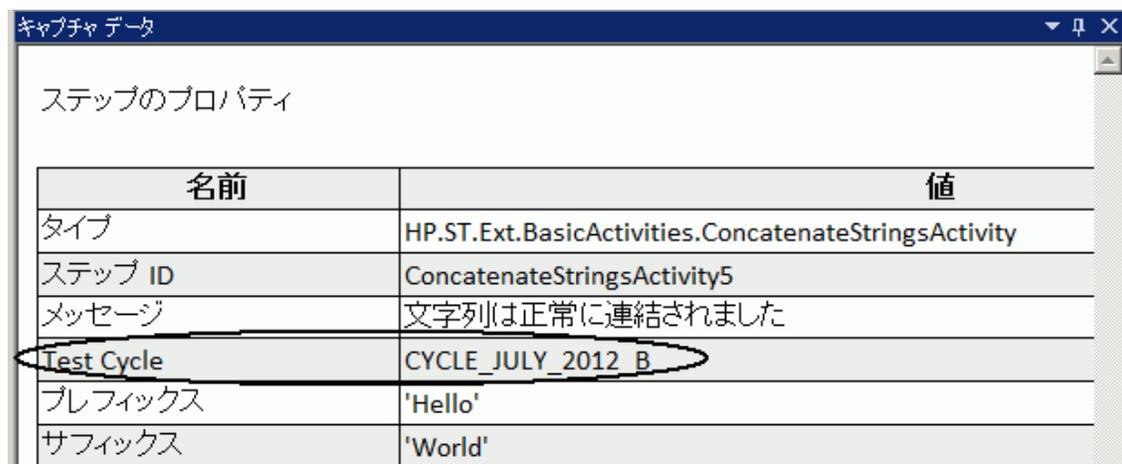
カスタム・メッセージ

[キャプチャデータ]表示枠には、イベント・ハンドラの Report 関数を使用して出力に送信したカスタム・メッセージも表示されます。

詳細については、『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』のイベントのコーディングに関する項を参照してください。

次の例では、**Test Cycle** の値として**CYCLE_JULY_2012_B** が出力されます。

```
this.ConcatenateStringsActivity5.Report("Test Cycle","CYCLE_JULY_2012_B");
```



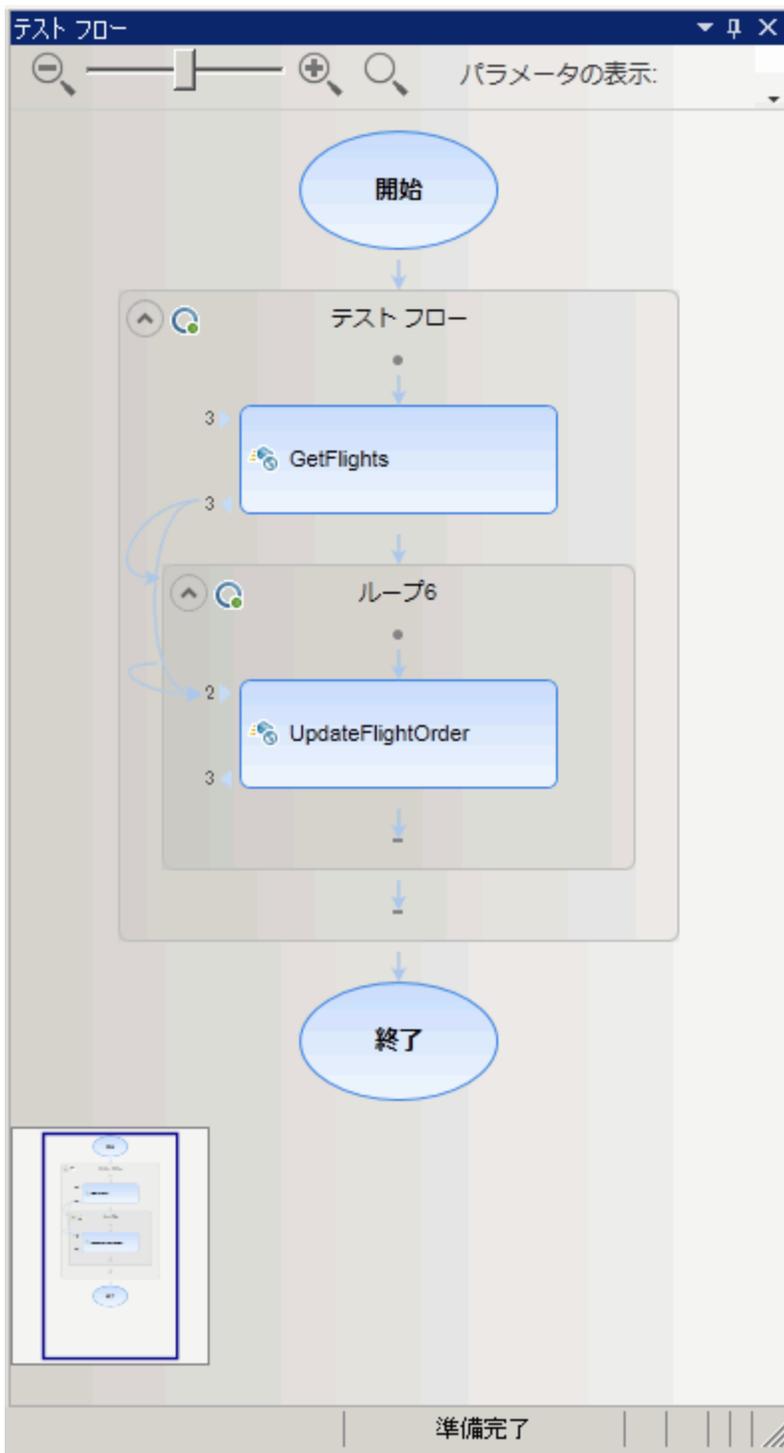
名前	値
タイプ	HP.ST.Ext.BasicActivities.ConcatenateStringsActivity
ステップ ID	ConcatenateStringsActivity5
メッセージ	文字列は正常に連結されました
Test Cycle	CYCLE_JULY_2012_B
プレフィックス	'Hello'
サフィックス	'World'

[テスト フロー]表示枠 (Run Results Viewer) (UFT API テストのみ)

この表示枠には、テストのステップが含まれるキャンバスのスナップショットが表示されます。スナップショットには、ステップの順序とステップ間の接続が表示されます。テストのキャンバスと同じように、スクロール・ダウン、ズーム・イン、表示する詳細レベルの設定を行えます。

実行結果ツリーで、テスト・フローのステップを示すノードを選択すると、この表示枠ではそのノードが強調表示されます。

次の例では, [テスト フロー] 表示 枠に, 2つのステップの接続とテストの内部ループが表示されています。



アクセス方法	Run Results Viewer を開きます (「 実行結果を開く方法 」(15ページ)を参照)。 [表示] > [テスト フロー] を選択します。
重要な情報	標準設定では、Run Results Viewer が起動しているときに [テスト フロー] 表示枠は表示されません。

次に、ユーザ・インタフェース要素について説明します (ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます)。

UI 要素	説明
ズーム・レベル・スクローラ	キャンバス内のステップの表示倍率を制御できます。
	<ul style="list-style-type: none"> • ズーム・アウト (Ctrl -) • ズーム・イン (Ctrl +)
	標準ズームに戻す。 キャンバス表示を標準のビューに戻します。
詳細レベル	表示の詳細レベルを選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> • なし • リンクのみ • リンクおよびリンクされたパラメータ • リンクおよびすべてのパラメータ
<表示領域>	テストのキャンバスに表示されるテスト・ステップ。

[データ] 表示枠 (Run Results Viewer)

この表示枠には、テストまたは ALM 設定 (ビジネス・プロセス・テストのみが対象) に関連付けられたデータ・テーブルの実行時バージョンが表示されます。データ・テーブル・パラメータを含むテストまたは設定の実行に使用された値と、実行セッションでテストまたは ALM 設定から取得された出力値が表示されます。

実行結果ツリーで、データ・テーブル値を使用するステップを示すノードを選択すると、この表示枠では関連する行が強調表示されます。

次の例では、データ・テーブル内で、出発地と到着地の値がパラメータ化されています。

	CustomerName	FlightNumber	NumberOfTickets	Class
1	John Freeman	1042	1	Business
2	Jack Dowson	1161	2	First
3	Ann Frank	1089	3	Economy
4	Kate Sterling	17079	4	First
5	Michael Erwin	19111	3	Business
6	Louis Devega	18081	5	Economy
7	Ingrid Jackson	17900	2	First

SampleAppData!Input

アクセス方法	Run Results Viewer を開きます (「 実行結果を開く方法 」(15ページ)を参照)。 [表示] > [データ] を選択するか、[データ] タブをクリックします。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> この表示 枠には、1 つのデータ・シート、もしくはタブで分割された複数のデータ・シートが表示されます。たとえば UFT GUI テストでは、グローバル・シートおよび個々のアクション・シートからのデータ・テーブル・パラメータが使用される場合があります。 <p style="text-align: center;">注: データのないシートは結果に表示されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> コンテキスト・メニュー項目を使用すると、実行結果のデータをコピーまたはエクスポートできます。
参照	実行時データ・テーブルの詳細については、『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』の[データ]表示 枠について説明している項を参照してください。

次に、ユーザ・インタフェース要素について説明します (ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます)。

UI 要素	説明
<行>	アクション (UFT GUI テストのみ)、テスト、または設定を 1 回 反復する間に、パラメータ化された引数として UFT が渡した値 セットを示します。

UI 要素	説明
<カラム>	単一のパラメータ化された引数の値リストです。カラムのヘッダは、パラメータ名です。
<コンテキスト・メニュー>	<ul style="list-style-type: none"> コピー: 選択したデータをクリップボードにコピーします。 シートのエクスポート: エクスポートするデータ・シートの格納場所を選択するダイアログを開きます。

[ログの記録]表示枠 (Run Results Viewer) (UFT GUI テストのみ)

この表示枠には、実行セッション中に UFT がアプリケーションから受信したログ・メッセージがすべて表示されます。

また、ログ・メッセージを選択すると、[\[\[結果の詳細\]表示枠 \(Run Results Viewer\)\]\(43ページ\)](#)表示枠に詳細情報が表示されます。

ヒント: ログの詳細情報は、[\[\[印刷\]ダイアログ・ボックス \(Run Results Viewer\)\]\(73ページ\)](#)または[\[\[実行結果のエクスポート\]ダイアログ・ボックス \(Run Results Viewer\)\]\(65ページ\)](#)を使用することで、開発者に提出することができます。また、Run Results Viewer をスタンドアロンでインストールすれば、開発者は自分のコンピュータで結果を直接確認および分析することができます。詳細については、[「Run Results Viewer をスタンドアロン・アプリケーションとしてインストールする方法」\(15ページ\)](#)を参照してください。

ID	Timestamp	Level	Logger	Thread	Message
15	2010-01-14 11:18:11.108	INFO	Log4NetPiano.Log4PianoForm	1	Message: INFO
16	2010-01-14 11:18:12.452	INFO	Log4NetPiano.Log4PianoForm	1	Message: INFO
17	2010-01-14 11:18:13.795	INFO	Log4NetPiano.Log4PianoForm	1	Message: INFO
18	2010-01-14 11:18:15.155	INFO	Log4NetPiano.Log4PianoForm	1	Message: INFO
19	2010-01-14 11:18:16.498	INFO	Log4NetPiano.Log4PianoForm	1	Message: INFO
20	2010-01-14 11:18:17.342	WARN	Log4NetPiano.Log4PianoForm	1	Message: WARN
21	2010-01-14 11:18:18.186	DEBUG	Log4NetPiano.Log4PianoForm	1	Message: DEBUG
22	2010-01-14 11:18:19.608	DEBUG	Log4NetPiano.Log4PianoForm	1	Message: DEBUG
23	2010-01-14 11:18:20.967	DEBUG	Log4NetPiano.Log4PianoForm	1	Message: DEBUG
24	2010-01-14 11:18:22.327	DEBUG	Log4NetPiano.Log4PianoForm	1	Message: DEBUG
25	2010-01-14 11:18:23.670	DEBUG	Log4NetPiano.Log4PianoForm	1	Message: DEBUG
26	2010-01-14 11:18:25.014	DEBUG	Log4NetPiano.Log4PianoForm	1	Message: DEBUG
27	2010-01-14 11:18:26.358	DEBUG	Log4NetPiano.Log4PianoForm	1	Message: DEBUG
28	2010-01-14 11:18:27.702	DEBUG	Log4NetPiano.Log4PianoForm	1	Message: DEBUG

<p>アクセス方法</p>	<p>Run Results Viewer を開きます (「実行結果を開く方法」(15ページ)を参照)。 [表示] > [ログの記録] を選択します。</p>
<p>重要な情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 日本語 - Log4Net の既知の問題: ログ・メッセージに日本語が含まれている場合、日本語の部分は、Run Results Viewer の[ログの記録]表示枠にある[メッセージ]カラム内に疑問符 (?) で表示されます。この問題は、log4net.Layout.XmlLayoutSchemaLog4j - version 1.2.10 の既知のバグが原因で発生します。詳細については、https://issues.apache.org/jira/browse/LOG4NET-229 (英語サイト) を参照してください。 • カラムの表示と非表示: [ログの記録]表示枠のカラムの表示と非表示を切り替えることができます。これには、任意のカラム・ヘッダを右クリックして、メニュー・オプションを選択するかクリアします。 • カラムの並べ替え: 表示枠内のカラムを並べ替えることができます。これには、カラム・ヘッダを別の場所へドラッグ&ドロップします。
<p>参照</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 「[検索]ダイアログ・ボックス ([ログの記録]表示枠 - Run Results Viewer) (UFT GUI テストのみ)」(68ページ) • 『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』の「ログの記録」の項

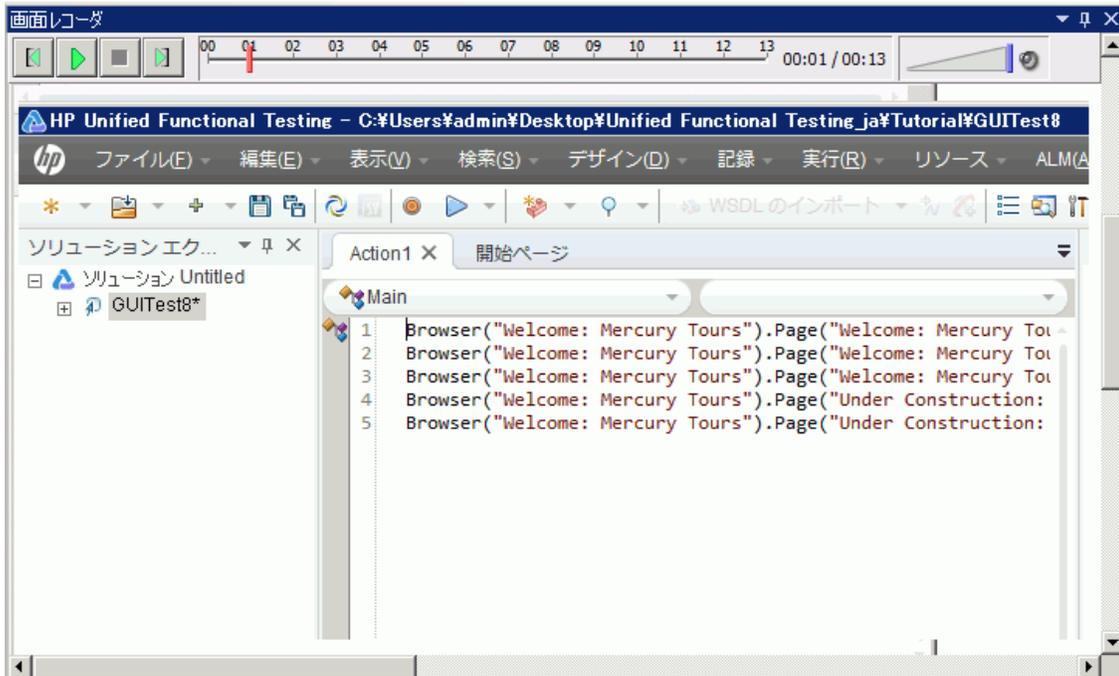
次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
<p>検索</p>	<p>「[検索]ダイアログ・ボックス ([ログの記録]表示枠 - Run Results Viewer) (UFT GUI テストのみ)」(68ページ)ダイアログ・ボックスが開きます。メッセージ、レベル、大文字/小文字の条件を指定して、ログ・メッセージを検索できます。</p>
<p>ID</p>	<p>メッセージ番号。</p>
<p>タイムスタンプ</p>	<p>日付と時刻 (ミリ秒単位)。</p>

UI 要素	説明
レベル	ログ・メッセージの重要度レベル。取り得る値： <ul style="list-style-type: none">• TRACE• DEBUG• INFO• WARN• ERROR• FATAL
ロガー	ロガーの名前。
スレッド	ログ要求を開始したスレッド。
メッセージ	ログ・メッセージのテキスト。

[画面レコーダ] 表示枠 (Run Results Viewer) (UFT GUI テストのみ)

この表示枠では、実行セッションのムービーを表示できます。ムービー全体を再生することも、特定のセグメントのフレームを表示 (実行結果ツリーでノードを選択するか、スライダ上で目的のポイントをクリック) することもできます。



<p>アクセス方法</p>	<p>Run Results Viewer を開きます (「実行結果を開く方法」(15ページ)を参照)。 [表示] > [画面レコーダ] を選択するか、[画面レコーダ] タブをクリックします。</p>
<p>重要な情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ディスプレイを複数使用する場合: 画面レコーダは、プライマリ・モニタ上で実行される操作をムービーに記録します。したがって、ディスプレイが複数ある場合は、テストまたはコンポーネントを記録または実行する際、プライマリ・ディスプレイにアプリケーション全体が表示されていることを確認してください。 • UFTによってアプリケーション表示が隠れないようにする: 画面レコーダは、デスクトップ全体をムービーに保存します。実行セッション中にUFTを最小化することにより、ムービーの記録中、UFT ウィンドウによってアプリケーション表示が部分的に隠れてしまうことがなくなります。詳細については、『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』の画面レコーダについて説明している項を参照してください。 • 全画面表示: [画面レコーダ] 表示枠をダブルクリックすると、画面レコーダが全画面モードになり、実行結果ツリーが非表示になります。もう一度画面レコーダをダブルクリックすると、表示枠が元のサイズに戻り、実行結果ツリーの表示も戻ります。画面レコーダを全画面表示すると、画面レコーダ上をクリックした時点、またはマウスを操作しない場合は約 3 秒後に、画面レコーダ上部にある再生コントロールが自動的に非表示になります。このコントロールは、マウスを動かすと表示されます。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	最初のフレーム: クリックすると、ムービーの最初のフレームが表示されます。
	再生/一時停止: クリックすると、ムービーが再生または一時停止されます。 [一時停止]をクリックすると、対応するツリー・ノードが強調表示されます。
	停止: クリックすると、ムービーが停止します。
	最後のフレーム: クリックすると、ムービーの最後のフレームが表示されます。
	スライダ: バーをドラッグすると、ムービー内の特定のフレームが表示されます。 バーの上をクリックすると、対応するノードがツリー内で強調表示されます。ムービーを再生すると、スライダは、現在表示されているフレームの位置まで自動的に移動します。
	音量調節: バーを左右にドラッグすると、ムービーの音量を調節できます。
	ミュート: クリックすると、ムービーの音をミュートできます。

ムービー録画オプションの設定

UFT でムービーをキャプチャするかどうかや、ムービーの保存基準をカスタマイズできます。これには、[オプション]ダイアログ・ボックスの[画面キャプチャ]表示枠 ([ツール] > [オプション] > [GUI テスト] タブ > [画面キャプチャ] ノード) の[ムービーをテスト結果へ保存]オプションを使用します。詳細については、『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』の[画面キャプチャ]表示枠について説明している項を参照してください。

実行セッションのムービーをエクスポート

画面レコーダでキャプチャしたムービーは、.fbr ファイルでエクスポートできます。.fbr ファイルは、HP Micro Recorder ([「HP Micro Player で画面レコーダのムービー・ファイルを再生」\(62ページ\)](#)を参照)で表示できます。

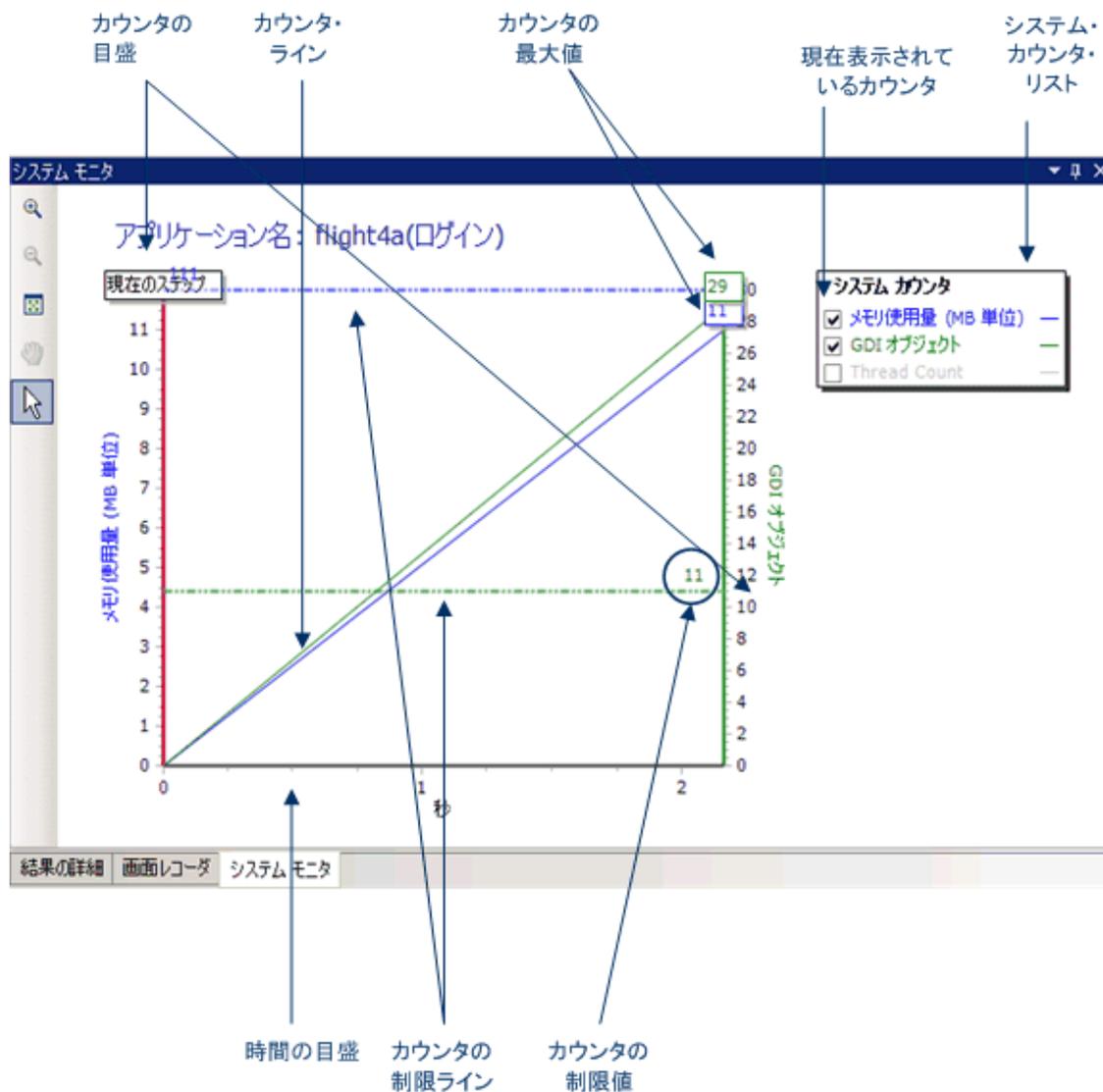
また、ALM では、不具合に .fbr ファイルを添付することができます。ALM でムービーを再生するには、Unified Functional Testing Add-in for ALM をインストールする必要があります。

HP Micro Player で画面レコーダのムービー・ファイルを再生

画面レコーダで実行セッションのムービーをキャプチャすると、ムービーは .fbr ファイルとして実行結果フォルダに保存されます。この .fbr ファイルは、Run Results Viewer を開かなくても、HP Micro Player で再生できます。詳細については、「[HP Micro Player で画面レコーダ・ムービーを再生する方法 \(UFT GUI テストのみ\)](#)」(24ページ)を参照してください。

[システム モニタ] 表示枠 (Run Results Viewer) (UFT GUI テストのみ)

この表示枠では、実行セッションで監視対象になっているシステム・カウンタが折れ線グラフで表示されます。



<p>アクセス方法</p>	<p>Run Results Viewer を開きます (「実行結果を開く方法」(15ページ)を参照)。 [表示] > [システム モニタ] を選択するか、[システム モニタ] タブをクリックします。</p>
<p>重要な情報</p>	<p>[システム モニタ] タブからデータをエクスポートする場合、ファイルの種類として テキスト (.csv または .txt), Excel (.xls), .xml, .html を使用できます (グラフはエクスポートできません)。 詳細については、「[実行結果のエクスポート] ダイアログ・ボックス (Run Results Viewer)」(65ページ)を参照してください。</p>
<p>参照</p>	<ul style="list-style-type: none"> ローカル・システム・モニタを有効化する方法の詳細は、『HP Unified Functional Testing ユーザース・ガイド』を参照してください。 「トラブルシューティングおよび制限事項 - 実行結果の表示」(83ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

<p>UI 要素</p>	<p>説明</p>
	<p>ズーム・イン: このボタンをクリックしてからグラフ上をクリックすると、拡大されます。グラフをクリックしてからドラッグすると、その領域を拡大できます。</p>
	<p>ズーム・アウト: このボタンをクリックしてからグラフ上をクリックすると、縮小されます。</p>
	<p>グラフ全体を表示: このボタンをクリックすると、グラフが縮小されて全体が表示されます。グラフを拡大していない状態では、このボタンは無効になります。</p>
	<p>移動: このボタンをクリックしてから、グラフをクリックしてドラッグすると、グラフを左右にスクロールできます。グラフを拡大していない状態では、このボタンは無効になります。</p>
	<p>矢印: このボタンをクリックしてからグラフ上をダブルクリックすると、そのポイントが現在のステップとして選択されます。[現在のステップ] インジケータが新しいポイントに移動し、そのステップが実行結果ツリー内で強調表示されます。グラフのカウンター・ラインの上のポイントにカーソルを置くと、そのポイントでのカウンター・ラインの値が表示されます。</p>

UI 要素	説明
アプリケーション名	システム・カウンタで監視する対象となるアプリケーションの名前。
システム・カウンタ・リスト	アプリケーションで監視するシステム・カウンタのリスト。
現在表示されているカウンタ	折れ線グラフに現在表示されているカウンタのリスト。[システム モニタ] タブでは、一度に2つのカウンタを表示できます。表示するカウンタを変更するには、現在選択されているカウンタのチェック・ボックスを1つまたは両方クリアし、目的のカウンタのチェック・ボックスを選択します。
カウンタの目盛	カウンタのパフォーマンスの測定に使用する目盛り。
カウンタの最大値	実行セッション中に取得するカウンタの最大値。
現在のステップ	実行結果ツリー内で現在強調表示されているステップを示すグラフ内のポイント。
カウンタの制限ライン	そのカウンタの制限がラインで表示されます (制限が設定されている場合)。この制限は、[テストの設定] ダイアログ・ボックスの[ローカルシステム モニタ] 表示枠またはアプリケーション領域の[追加設定] 表示枠で定義されます (UFT)。 制限値を設定した状態で、カウンタが制限値を超えると、ステップは失敗します。ただし、失敗するのは、カウンタの制限値を最初に超えたステップのみです。その後のステップは、カウンタの制限値を超えても失敗しません。
カウンタの制限値	そのカウンタの制限が数値で表示されます (制限が設定されている場合)。この制限は、[テストの設定] ダイアログ・ボックスの[ローカルシステム モニタ] 表示枠またはアプリケーション領域の[追加設定] 表示枠で定義されます (UFT)。 制限値を設定した状態で、カウンタが制限値を超えると、ステップは失敗します。ただし、失敗するのは、カウンタの制限値を最初に超えたステップのみです。その後のステップは、カウンタの制限値を超えても失敗しません。
時間の目盛	実行セッションで使用する時間の目盛りを秒単位で示します。

Run Results Viewer のダイアログ・ボックス

本項の内容

- 「[実行結果のエクスポート]ダイアログ・ボックス (Run Results Viewer) 」(65ページ)
- 「[検索]ダイアログ・ボックス ([ログの記録]表示枠 - Run Results Viewer) (UFT GUI テストのみ) 」(68ページ)
- 「[フィルタ]ダイアログ・ボックス (Run Results Viewer) 」(70ページ)
- 「[実行結果を開く]ダイアログ・ボックス」(72ページ)
- 「[印刷]ダイアログ・ボックス (Run Results Viewer) 」(73ページ)
- 「[印刷プレビュー]ダイアログ・ボックス (Run Results Viewer) 」(75ページ)
- 「[HP ALM への接続]ダイアログ・ボックス (Run Results Viewer) 」(77ページ)

[実行結果のエクスポート]ダイアログ・ボックス (Run Results Viewer)

このダイアログ・ボックスでは、実行結果をファイルにエクスポートします。これにより、Run Results Viewer が使用できない環境でも、実行結果を参照することができます。たとえば、Run Results Viewer が稼働する環境にいない第三者に対して、実行結果を含むファイルを電子メールで送信することができます。



<p>アクセス方法</p>	<p>Run Results Viewer を開きます (「実行結果を開く方法」(15ページ)を参照)。 [ファイル] > [ファイルにエクスポート] を選択します。</p>
<p>重要な情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> • エクスポートにかかる時間は、結果ファイルのサイズやファイルの種類によって変わります。ファイルの種類を選択する際は、各種ドキュメント・タイプ (特に、画像が多数含まれるレポートなど) の作成にかかる時間を考慮してください。最も短時間で作成できるのは .html ファイルであり、続いて .pdf, .doc の順です。100 以上の画像を含むレポートを .doc ファイルにエクスポートする場合、ダイアログ・ボックスが開き、ファイル作成に長時間かかる可能性があることを通知するメッセージが表示されます。このダイアログ・ボックスでは、画像のエクスポートを継続するオプション、画像なしでエクスポートするオプション、.pdf にエクスポートするオプションを選択できます。 • Web ベース・アプリケーションで実行されるステップについては、画面のキャプチャ画像はエクスポートされません。エクスポートする実行セッションに Web アプリケーションのステップが含まれている場合、このステップの画面キャプチャ画像は、ファイルにエクスポートされません。これは、Web ベース・アプリケーションの場合、Run Results Viewer では、キャプチャ画像ではなく Web ページ (ダウンロード画像) が .html で表示され、画像はレポートに保存されないためです。 • .doc ファイルへのエクスポート : Microsoft Word のサポート対象バージョンが、Run Results Viewer が稼働するコンピュータにインストールされている必要があります。詳細については、使用可能製品マトリクス (UFT ヘルプ・フォルダまたは「HP サポート・マトリクス」ページ (要 HP passport 登録) から入手可能) を参照してください。
<p>関連タスク</p>	<p>「実行結果のエクスポート方法」(23ページ)</p>
<p>参照</p>	<p>「トラブルシューティングおよび制限事項 - 実行結果の表示」(83ページ)</p>

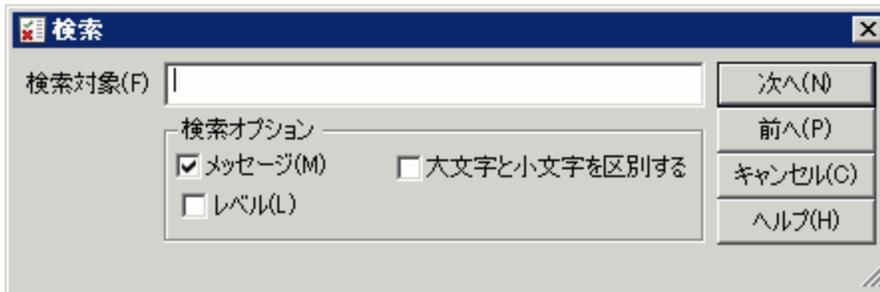
次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

<p>UI 要素</p>	<p>説明</p>
<p>レポート・タイプ</p>	<p>エクスポートするレポートの種類。ステップの詳細やシステム・モニタなどがあります。</p>

UI 要素	説明
エクスポート範囲	<p>レポート・タイプが[ステップの詳細]の場合にのみ、指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> すべてのノード: テストまたはコンポーネント全体の結果をエクスポートします。 選択したノード: 実行結果ツリー内で選択した分岐の実行結果をエクスポートします。
エクスポート形式	<p>レポート・タイプが[ステップの詳細]の場合にのみ、指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 簡易: 実行結果ツリー内の各項目について、サマリ行 (該当する場合) をエクスポートします。簡易レポートには、実行結果内のステップに関連する静止画像は含まれません。このオプションを選択できるのは、[エクスポートの範囲]で[すべてのノード]を選択した場合のみです。 詳細: 実行結果ツリー内の各項目の情報をすべてエクスポートします。または、[エクスポートの範囲]の設定に基づいて、選択した分岐の情報をエクスポートします。詳細レポートには、実行結果内のステップに関連する静止画像が含まれます (Run Results Viewer では、この画像は[キャプチャデータ]表示枠に表示されます)。ビットマップ・チェックポイント・ステップで、期待されるビットマップ、実際のビットマップ、差異ビットマップが表示される場合には、このビットマップも印刷レポートに含まれます。 ユーザ定義 XSL: カスタマイズした .xsl ファイルを探して選択できます。 .xsl ファイルをカスタマイズすることにより、エクスポートするレポートに含める情報や表示形式を指定することができます。 <p>Run Results Viewer に用意されている既存の .xsl ファイルのいずれかを変更し、そのファイルを別のフォルダにコピーする場合、その .xsl ファイルの「include」呼び出しにリストされているすべての .xsl ファイルに加え、.css ファイルもコピーします。詳細については、「実行結果のXMLファイル」(11ページ)を参照してください。</p>

[検索]ダイアログ・ボックス ([ログの記録]表示枠 - Run Results Viewer) (UFT GUI テストのみ)

このダイアログ・ボックスでは、メッセージ・テキスト、レベル、大文字小文字の区別を指定することにより、ログ・メッセージを検索できます。



アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> Run Results Viewerを開きます(「実行結果を開く方法」(15ページ)を参照)。 [ログの記録]表示枠を表示します(「[ログの記録]表示枠 (Run Results Viewer) (UFT GUI テストのみ)」(57ページ)を参照)。 [ログの記録]表示枠で、[検索]をクリックします。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> このダイアログ・ボックスが表示されるのは、[ログの記録]表示枠のみです。実行結果ツリーで検索を行うには、「[検索]ボックス」(40ページ)を使用してください。 検索を中止するには、キーボードの Esc キーを押します。

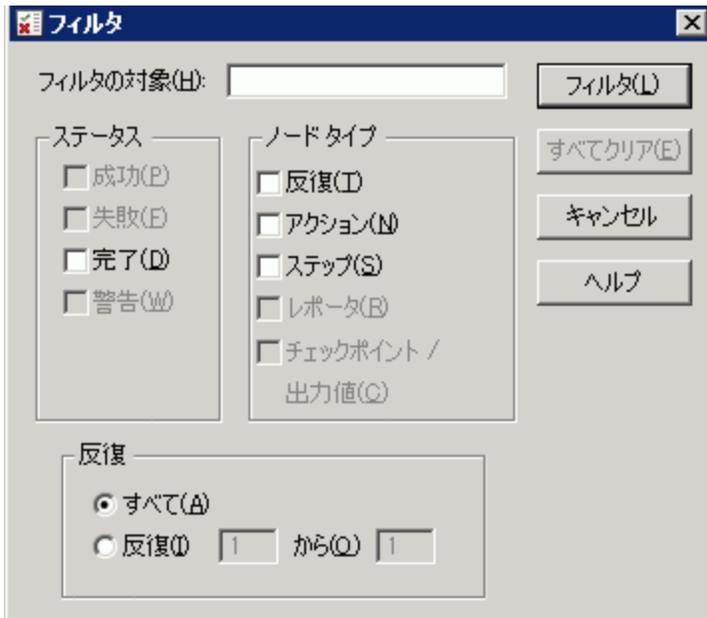
次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
検索	検索するテキストを入力します。メッセージ・テキストまたは重要度を入力できます。
メッセージ	[検索]ボックスで指定したテキストを、[メッセージ]カラムで検索します。

UI 要素	説明
レベル	<p>[検索]ボックスで指定したテキストを, [レベル]カラムで検索します。取り得る値:</p> <ul style="list-style-type: none">• TRACE• DEBUG• INFO• WARN• ERROR• FATAL
大文字と小文字を区別する	[検索]ボックスで指定したテキストを大文字と小文字を区別して検索し, 一致したもののみを表示します。
次へ	選択した条件を満たす次のインスタンスに移動します。
前へ	選択した条件を満たす前のインスタンスに移動します。

[フィルタ] ダイアログ・ボックス (Run Results Viewer)

このダイアログ・ボックスでは、結果 ツリーをフィルタリングすることによって、指定した条件を満たすノードのみを表示することができます。



アクセス方法	<ol style="list-style-type: none">1. Run Results Viewerを開きます(「実行結果を開く方法」(15ページ)を参照)。2. [表示] > [フィルタ]を選択するか、[フィルタ]ボタン  をクリックします。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none">• フィルタを適用すると、フィルタ・アイコンがステータス・バーに表示され、[検索]ボックスのタイトル・バーには(フィルタ適用)と表示されます。このように表示が変わると、実行結果ツリーではフィルタの条件を満たすノードのみが表示されていることを示します。• (UFT GUI テストのみ) エディタで Reporter.Filter ステートメントを使用すると、選択したステップの保存を有効または無効に設定したり、ステータスが[失敗]または[警告]のステップのみを保存するように設定できます。実行セッション情報の保存については、『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』または『HP UFT Object Model Reference for GUI Testing』を参照してください。Reporter.Filter ステートメントと、上記の[フィルタ]ダイアログ・ボックスは、異なる設定を行います。Reporter.Filter ステートメントは、実行結果にどのステップを保存するかを決定するのに対して、[フィルタ]ダイアログ・ボックスは、どのステップを表示するかを決定します。

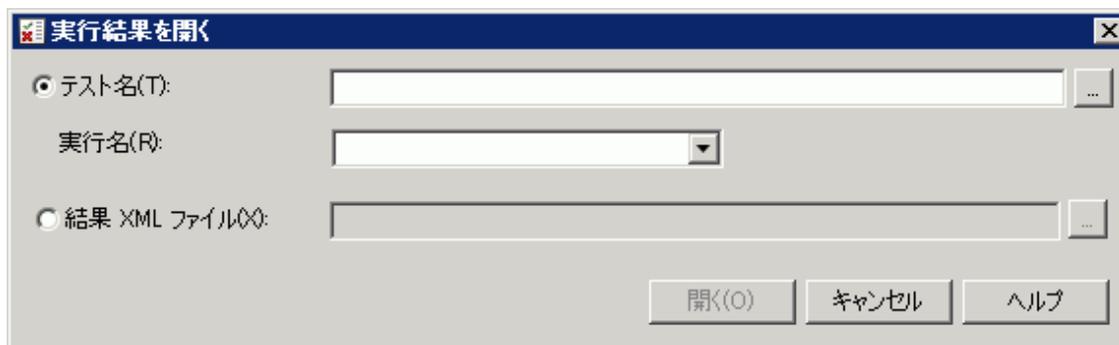
次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
フィルタの対象	このテキスト・ボックスに、フィルタに使用するテキストを入力します (任意)。
ステータス	フィルタに使用するノードのステータス (任意)。 取り得る値： <ul style="list-style-type: none">● 成功: 成功したステップの中で、フィルタ条件を満たすものの実行結果を表示します。● 失敗: 失敗したステップの中で、フィルタ条件を満たすものの実行結果を表示します。● 完了: ステータスが[完了] (問題なく実行されたが、ステータスが成功、失敗、警告のいずれでもないステップ) のステップの中で、フィルタ条件を満たすものの実行結果を表示します。● 警告: ステータスが[警告] (成功はしなかったが、テストが失敗する原因にはなっていないステップ) のステップの中で、フィルタ条件を満たすものの実行結果を表示します。
ノード・タイプ	次の選択条件を満たす結果をすべて表示します (任意)。 <ul style="list-style-type: none">● 反復: [反復] 領域で指定した反復について、実行結果を実行結果ツリーで表示します。● アクション: ほかの選択条件を満たすすべてのアクションについて、実行結果を実行結果ツリーで表示します。(コンポーネントでは利用できません)。● ステップ: ほかの選択条件を満たすすべてのステップについて、実行結果を実行結果ツリーで表示します。● レポータ: ほかの選択条件を満たすすべてのレポータ・ステップについて、実行結果を実行結果ツリーで表示します。 <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"><p>注: このオプションは、Reporter.ReportNote ステップでは使用できません。このステップは、[エグゼクティブ サマリ] ページの[メモ] 領域に表示されますが、実行結果ツリーには表示されません。</p></div> <ul style="list-style-type: none">● チェックポイント/出力値: ほかの選択条件を満たすすべてのチェックポイントおよび出力値ステップについて、実行結果を実行結果ツリーで表示します。

UI 要素	説明
反復	<p>(テストでのみ使用できます)。</p> <ul style="list-style-type: none"> すべて: すべての反復の実行結果を表示します。 反復 X から Y: 指定した範囲の反復の実行結果を表示します。

[実行結果を開く]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、Run Results Viewer で実行結果を開くことができます。



アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> Run Results Viewerを開きます (「実行結果を開く方法」(15ページ)を参照)。 [ファイル] > [開く]を選択するか、[開く]ボタン  をクリックします。
UFT テストに関する重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ALM に格納されている結果を表示するには、ALM プロジェクトに接続する必要があります。詳細については、「[HP ALM への接続]ダイアログ・ボックス (Run Results Viewer)」(77ページ)を参照してください。 標準設定では、UFT テストの結果ファイルはテストと一緒に格納されます。たとえば、C:\%HOMEPATH%\My Documents\Unified Functional Testing\<テスト名>\<結果名> です。 QuickTest Professional バージョン 6.5 以前の結果ファイルを表示するには、QuickTest の旧バージョンでテスト/実行結果ビューアを使用してください。
関連タスク	「実行結果を開く方法」(15ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
テスト名	結果を表示するテストの名前。テストは、ファイル・システムまたは ALM プロジェクトに格納できます。このオプションを選択する場合は、[実行名]も指定してください。
実行名	特定の実行の結果です。 ドロップダウン・リストには、最新の結果が一番上にあり、実行順に表示されます。
結果 XML ファイル	実際の .xml 結果ファイル。このファイルは、ファイル・システムに格納する必要があります。

[印刷]ダイアログ・ボックス (Run Results Viewer)

このダイアログ・ボックスでは、Run Results Viewer の結果を印刷します。印刷するレポートの種類を選択できます。また、カスタマイズ・レポートの作成と印刷も可能です。



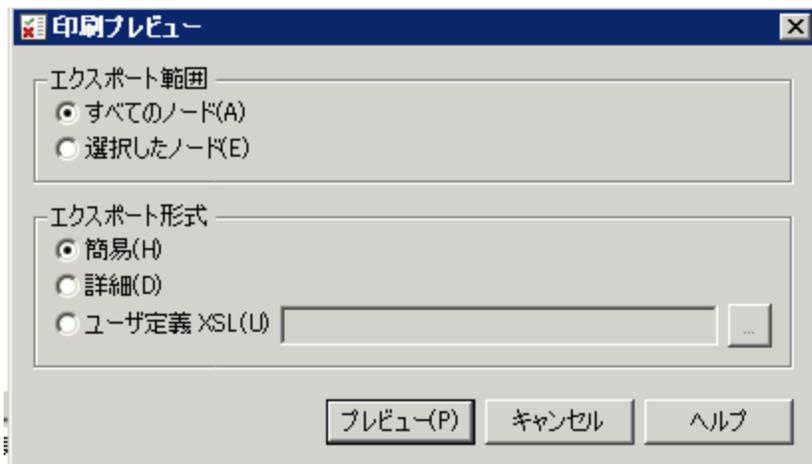
アクセス方法	<ol style="list-style-type: none">1. Run Results Viewer を開きます (「実行結果を開く方法」(15ページ)を参照)。2. 次の手順のいずれかを実行します<ul style="list-style-type: none">◦ [ファイル] > [印刷] を選択します。◦ [印刷] ボタン  をクリックします。
--------	--

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
印刷範囲	<ul style="list-style-type: none">• すべて: テストまたはコンポーネント全体の結果を印刷します。• 選択したノード: 実行結果ツリーで選択した分岐の実行結果情報を印刷します。
印刷形式	<ul style="list-style-type: none">• 簡易: 実行結果ツリー内の各項目について、サマリ行 (該当する場合) を印刷します。このオプションを選択できるのは、[印刷範囲]で[すべてのノード]を選択した場合のみです。• 詳細: 実行結果ツリー内の各項目の情報をすべて印刷します。または、[印刷範囲]の設定に基づいて、選択した分岐の情報を印刷します。印刷対象には、実行結果内のステップに関連する静止画像が含まれます。ビットマップ・チェックポイント・ステップで、期待されるビットマップが表示される場合には、このビットマップも含まれます。• ユーザ定義 XSL: カスタマイズした .xsl ファイルを探して選択します。 .xsl ファイルをカスタマイズすることにより、印刷するレポートに含める情報や表示形式を指定することができます。詳細については、「実行結果のXMLファイル」(11ページ)を参照してください。 <p>注: [印刷形式]オプションを使用できるのは、QuickTest バージョン 8.0 以降で最後に変更した実行結果のみです。</p>
印刷	Windows 標準の[印刷]ダイアログ・ボックスが開き、選択した実行結果をインストール済みのプリンタに送信します。

[印刷プレビュー]ダイアログ・ボックス (Run Results Viewer)

このダイアログ・ボックスでは、実行結果を印刷前に画面上で確認できます。表示する情報の種類とページ数を選択でき、表示形式をカスタマイズすることもできます。



アクセス方法	<ol style="list-style-type: none">1. Run Results Viewerを開きます (「実行結果を開く方法」(15ページ)を参照)。2. [ファイル] > [印刷]を選択します。
重要な情報	[印刷プレビュー]オプションを使用できるのは、QuickTestバージョン8.0以降で最後に変更した実行結果のみです。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
印刷範囲	<ul style="list-style-type: none">• すべて: テストまたはコンポーネント全体の結果をプレビューします。• 選択したノード: 実行結果ツリーで選択した分岐の実行結果情報をプレビューします。

UI 要素	説明
印刷形式	<ul style="list-style-type: none"> • 簡易: 実行結果ツリー内の各項目について、サマリ行 (該当する場合) をプレビューします。このオプションを選択できるのは、[印刷範囲] で [すべてのノード] を選択した場合のみです。 • 詳細: 実行結果ツリー内の各項目の情報をすべてプレビューします。または、[印刷範囲] の設定に基づいて、選択した分岐の情報をプレビューします。プレビューの対象には、実行結果内のステップに関連する静止画像が含まれます。ビットマップ・チェックポイント・ステップで、期待されるビットマップが表示される場合には、このビットマップも含まれます。 • ユーザ定義 XSL: カスタマイズした .xsl ファイルを探して選択します。 .xsl ファイルをカスタマイズすることにより、プレビューに含める情報や表示形式を指定することができます。詳細については、「実行結果のXMLファイル」(11ページ) を参照してください。
プレビュー	<p>印刷する実行結果の内容を、画面に表示します。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; background-color: #f0f0f0; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>ヒント: たとえば、チェックポイント名が長すぎるなど、ページ枠内に入らず途中で切れている部分がある場合、[印刷プレビュー] ウィンドウの [ページ設定] ボタン  をクリックし、印刷の向きを [縦] から [横] に変更してください。</p> </div>

[HP ALM への接続] ダイアログ・ボックス (Run Results Viewer)

このダイアログ・ボックスでは、サポートされているバージョンの ALM で、プロジェクトに接続またはプロジェクトから切断できます。

HP ALM への接続

ステップ 1: サーバに接続する

サーバ URL(S): ▼
例: http://server:8080/qcbin

ユーザ名(U):

パスワード(P):

ステップ 2: プロジェクトにログインする ▼

起動時に接続を復元(T)

アクセス方法	<p>次の手順のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none">• [ツール] > [ALM 接続] を選択します。• [ALM] ツールバー・ボタン  をクリックします。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none">• 初回の接続時: ALM サーバにコンピュータを初めて接続する際、接続するコンピュータで管理者権限を持つユーザとして接続する必要があります。• Quality Center または ALM の別のバージョンへの接続: 同じ Run Results Viewer セッションの Quality Center または ALM の複数のバージョンに接続することはできません。Quality Center または ALM の別のバージョンに接続するには、Run Results Viewer を閉じてから再度開いてください。• Windows 7, Windows Server 2008 R2, Windows 8, Windows

	<p>Server 2012 ユーザ: セキュリティの設定によっては、ALM への接続ができない場合があります。</p> <p>これは、UAC (ユーザ・アカウント制御) オプションがオンになっており、ALM プロジェクトに接続したことがない場合に起きます。</p> <p>初めて ALM に接続する場合は、UAC オプションを無効にする必要があります。ALM に正常に接続できたら、UAC オプションを再びオンにしても構いません。その後は、必要に応じて ALM に接続できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 接続: 接続プロセスは、次の2つの手順で実行されます。第1段階では、ローカルまたはリモートの ALM サーバに接続します。このサーバによって、Run Results Viewer と ALM プロジェクト間の接続が処理されます。ユーザ名とパスワードの入力が必要です。 <p>第2段階では、ログインしてアクセスするプロジェクトを選択します。プロジェクトには、テスト対象のアプリケーションに関するテストおよび実行セッションの情報が格納されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 切断: ALM プロジェクトまたは ALM サーバからいつでも切断できます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ まずプロジェクトから切断せずに ALM サーバから切断すると、Run Results Viewer とプロジェクト・データベースの接続は自動的に切断されます。 • SSL 証明書: ALM プロジェクトに https:// プリフィクスで接続するときに、コンピュータが有効な SSL 証明書を持っていない場合は接続は失敗します。 • 外部認証を使用する ALM サーバ: 外部認証を使用する ALM サーバを使用するには、ALM を実行するコンピュータと Run Results Viewer を実行するコンピュータの両方に外部証明書がインストールされている必要があります。外部証明書を使用する ALM サーバにログインするときは、使用可能な証明書のリストから証明書を選択するダイアログ・ボックスが開きます。 • テストの実行後に、ALM から、オプションで実行結果を ALM に自動的にアップロードできます (テストを ALM から実行する場合)。このオプションは、プロジェクトのサイト・パラメータとして ALM に設定されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
<p>関連タスク</p>	<p>現在の接続を表示するには、次の手順を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ステータス・バーのアイコンに、Run Results Viewer の接続先のサーバ名とプロジェクトのラベルが付きます。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

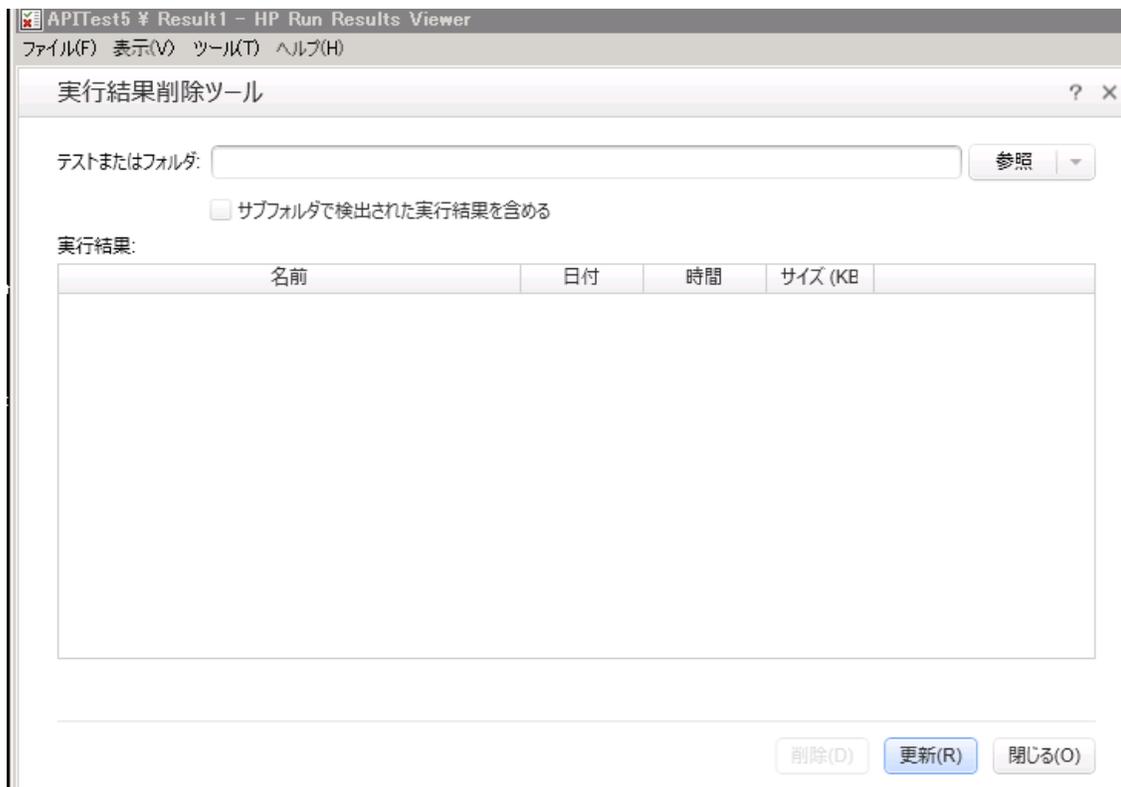
UI 要素	説明
サーバ URL	<p>ALM がインストールされている Web サーバの URL アドレス。</p> <p>ローカル・エリア・ネットワーク (LAN) またはワイド・エリア・ネットワーク (WAN) 経由でアクセスできるサーバを選択できます。</p> <p>現在サポートされている ALM のいずれのバージョンにも接続できます。サポートされているバージョンの一覧については、『HP Unified Functional Testing 使用可能製品マトリクス』(UFT ヘルプ・フォルダまたは「HP サポート・マトリクス」ページ (要 HP passport 登録) から入手可能)を参照してください。</p>
ユーザ名	<p>ALM ユーザの名前です。</p> <p>注: 外部認証を使用する ALM サーバに接続する場合、ユーザ名の入力はありません。ユーザ名を入力しても、Run Results Viewer は接続時に無視します。</p>
パスワード	<p>ユーザの ALM パスワードです。</p> <p>注:</p> <p>CJK 言語 (中国語, 日本語, 韓国語) でパスワードを入力するには、エディット・ボックスにパスワードをコピーして貼り付けます (Windows では、パスワード・フィールドへの CJK 文字の入力はサポートされていません)。</p> <p>外部認証を使用する ALM サーバに接続する場合、パスワードの入力は必要ありません。パスワードを入力しても、Run Results Viewer は接続時に無視します。</p>
接続 / 切断	<p>選択した ALM サーバを接続または切断します</p> <p>注: サーバに正常に接続した後は、ボタンが[切断]に変わり、ダイアログ・ボックスの上部にある[切断済み]アイコン  が[接続済み]アイコン  に変わります。</p>
ドメイン	<p>ALM プロジェクトが存在するドメイン。</p>

UI 要素	説明
プロジェクト	使用する ALM プロジェクト。 注: ユーザとして定義されているプロジェクトのみが表示されます。
起動時に接続を復元	Run Results Viewer を開くたびに ALM サーバに自動的に再接続するように Run Results Viewer を設定します。

実行結果削除ツール (UFT のみ)

このウィンドウでは、ファイル・システムまたは ALM プロジェクト内の特定の場所に格納されている実行結果をすべて一覧表示します。このリストから、不要なテスト結果を削除できます。

名前、日付、サイズなどで実行結果をソートできるので、目的の実行結果を簡単に探すことができます。



アクセス方法	Run Results Viewer で、[ツール] > [実行結果削除ツール] を選択するか、ツールバーの [実行結果削除ツール] ボタン  を選択します。
--------	--

<p>HP ALM ユーザ向けの重要な情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ALM プロジェクトから実行結果を削除するには、[Run Results Viewer 接続]をクリックして ALM に接続してから、パスを参照または入力します。ALM テスト・パスを、ALM の標準形式で指定します。 <div style="background-color: #f0f0f0; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>例: [QC-TEST];;Subject\<フォルダ名>\<テスト名>;;</p> </div> <p>ALM への接続の詳細については、「[HP ALM への接続]ダイアログ・ボックス (Run Results Viewer)」(77ページ)を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 実行結果は、一度に1つしか削除できません。対象の ALM プロジェクトに対する Delete Run 権限が必要です。 ALM プロジェクトの権限については、ALM 管理者に問い合わせるか、ALM の管理者ガイドの権限設定の項を参照してください。
<p>関連タスク</p>	<p>「実行結果の削除方法」(25ページ)</p>

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
<p>テストまたはフォルダ</p>	<p>実行結果を削除するパス。ファイル・システムの場合、テストまたはフォルダを指定できます。ALM の場合、フォルダは指定できません。</p>
<p>参照</p>	<p>削除するフォルダまたは実行結果を参照または選択します。標準設定では、[参照]ボタンをクリックすると[テストを開く]ダイアログ・ボックスが表示されます。フォルダを参照するには、下矢印をクリックし、[フォルダ]を選択すると、[フォルダを開く]ダイアログ・ボックスが表示されます。</p>
<p>サブフォルダで検出された実行結果を含める</p>	<p>指定したフォルダのサブフォルダに含まれるすべての実行結果を、このダイアログ・ボックスの[実行結果]領域に追加します</p> <p>(ファイル・システム内のフォルダのみが対象です。ALM でのテストについては、このオプションはサポートされません)。</p>
<p>実行結果</p>	<p>指定したテストまたはフォルダに格納されている実行結果を、それぞれの説明と一緒に一覧表示します。カラムのタイトルをクリックすると、そのカラム内のエントリに基づいて実行結果をソートできます。</p>

UI 要素	説明
削除	<p>選択した実行結果を、ファイル・システムやALMプロジェクトから削除します。Windows 標準の選択方法を使って、実行結果を複数選択することもできます。</p>
<ステータス・バー>	<p>表示されている実行結果に関する情報 (選択されている結果の数, 指定した場所にある結果の総数, ファイルのサイズなど) が表示されます。</p>
更新	<p>[実行結果]領域に一覧されているテストを更新します。</p>

トラブルシューティングおよび制限事項 - 実行結果の表示

この項では、実行結果の表示に関するトラブルシューティングと制限事項について説明します。

- **ローカル・システム・モニタ**: テストまたはコンポーネントの実行時間が非常に短い場合、または [ローカルシステム モニタの有効化の間隔: __ 秒] オプションに非常に大きな値 (テスト全体の実行時間に近い値) が入力されている場合、ローカル・システム・モニタ・オプションを有効にした状態でテストまたはコンポーネントを実行した後、実行結果ツリーで最後のステップの1つを選択すると、[システム モニタ] 表示枠の [現在のステップ] インジケータがグラフの外側 (右側) に出てしまうことがあります。

回避策: テストの最後に Wait ステートメントを追加するか、[ローカルシステム監視の有効化の間隔: __ 秒] オプションで指定する秒数を小さくします。

- **実行セッションエラー**: 実行セッション中にエラーが発生すると、実行結果に複数のエラー・ノードが作成されます。
- **実行結果のエクスポート**: UAC がオンに設定されている状態で、実行結果をシステム・フォルダにエクスポートする選択をした場合、エクスポートしたファイルは、指定のフォルダではなく仮想ストレージに格納されます (Microsoft Windows 7, Windows Server 2008 R2, Windows 8, Windows Server 2012 に該当)。
- **ALM からの実行結果の表示**: UFT をインストールせずに Run Results Viewer をインストールしている場合、ALM から BPT テストを実行して [最後の実行結果の表示] を押しても、Run Results Viewer に結果が表示されないことがあります。これは、Visual C++ 2005 Redistributable がコンピュータにインストールされている場合に発生します。

回避策: [ALM アドイン] ページから Unified Functional Testing Add-in for ALM をインストールします。

第2章: 実行結果 - ステップ実行結果を理解する

本章の内容

概念	85
実行結果でのスマート認識 (UFT GUI テストのみ)	85
スマート認識 - 学習した記述に一致するオブジェクトがない場合 (UFT GUI テストのみ) ...	85
スマート認識 - 学習した記述に複数のオブジェクトが一致する場合 (UFT GUI テストのみ)	86
チェックポイントおよび出力値の結果 (UFT GUI テストのみ)	87
アクセシビリティ・チェックポイントの結果 (UFT GUI テストのみ)	88
ビットマップ・チェックポイントの結果 (UFT GUI テストのみ)	92
ファイル内容チェックポイントの結果 (UFT GUI テストのみ)	93
標準チェックポイントの結果 (UFT GUI テストのみ)	96
テーブル・チェックポイントおよびデータベース・チェックポイントの結果 (UFT GUI テストのみ)	98
テキスト・チェックポイントおよびテキスト領域チェックポイントの結果 (UFT GUI テストのみ)	100
XML チェックポイントの結果 (UFT GUI テストのみ)	100
出力値の結果 (UFT GUI テストのみ)	102
ファイル内容出力値の結果 (UFT GUI テストのみ)	103
XML 出力値の結果 (UFT GUI テストのみ)	103
実行結果でのパラメータ化された値	105
UFT API /Service Test テストの呼び出しを含む GUI テスト (UFT GUI テストのみ)	107
リファレンス	108
[色設定]ダイアログ・ボックス ([キャプチャデータ]表示枠 - Run Results Viewer) (UFT GUI テストのみ)	108
[フィルタ]ダイアログ・ボックス ([キャプチャデータ]表示枠 - Run Results Viewer) (UFT GUI テストのみ)	109
[XML チェックポイント結果]ウィンドウ (UFT GUI テストのみ)	110
[要素の値]ダイアログ・ボックス (Run Results Viewer) (UFT GUI テストのみ)	116
XML 出力値の結果ウィンドウ (UFT GUI テストのみ)	118

概念

実行結果でのスマート認識 (UFT GUI テストのみ)

学習した記述ではステップで指定されたオブジェクトを認識できない場合、スマート認識定義がオブジェクトに対して定義されている(そして有効である)と、UFTはスマート認識メカニズムを使ってオブジェクトの認識を試みます。次の例で2つのシナリオを説明します。

- ・「スマート認識 - 学習した記述に一致するオブジェクトがない場合 (UFT GUI テストのみ)」(85ページ)
- ・「スマート認識 - 学習した記述に複数のオブジェクトが一致する場合 (UFT GUI テストのみ)」(86ページ)

スマート認識 - 学習した記述に一致するオブジェクトがない場合 (UFT GUI テストのみ)

UFTにおいて、学習した記述に一致するオブジェクトが見つからないが、スマート認識によってオブジェクトが見つかった場合、実行結果に警告ステータスおよび次の情報が表示されます。

結果ツリー	[結果の詳細]表示枠
見つからなかったオブジェクトに対する記述不一致アイコン。例：  "userName" - 記述の不一致	オブジェクト (たとえば userName WebEdit オブジェクト) が見つからなかったことを示します。
見つからなかったオブジェクトに対するスマート認識アイコン。例：  "userName" - スマート認識	スマート認識メカニズムがオブジェクトを見つけるのに成功したことで、オブジェクトを見つけるために使われたプロパティについての情報を示します。この情報に基づいて、学習したテスト・オブジェクト記述を変更することにより、UFTは、以降の実行セッションでその記述を使ってオブジェクトを見つけられるようになります。
実際に実行されたステップ。例：  userName.Set	実行されたステップの詳細を示す通常の結果。

スマート認識の詳細については、『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』内のスマート認識を説明している項を参照してください。

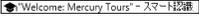
次の図は、学習した記述プロパティ値の1つを変更した後、スマート認識を使って userName WebEdit オブジェクトを認識したテストまたはコンポーネントの結果です。



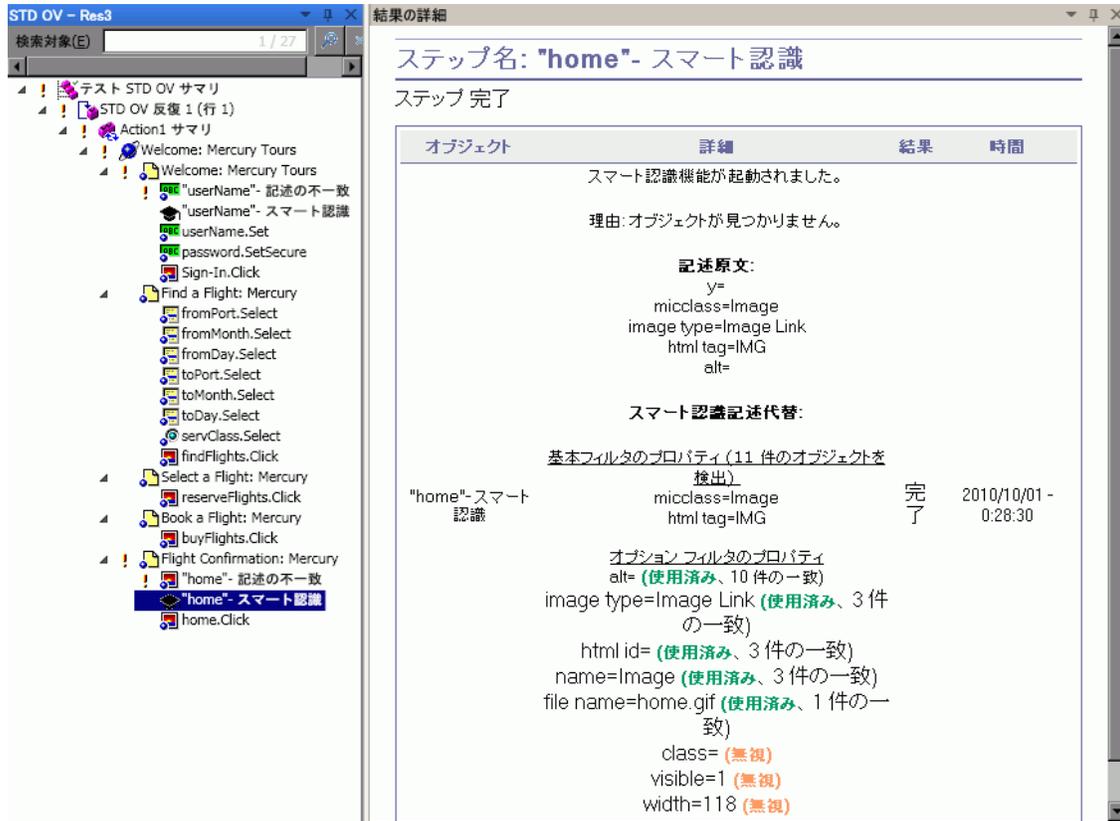
スマート認識 - 学習した記述に複数のオブジェクトが一致する場合 (UFT GUI テストのみ)

学習した記述に一致するオブジェクトが複数見つかった後で、UFT がスマート認識を使って1つのオブジェクトを見つけた場合、UFT は Run Results Viewer にスマート認識情報を示します。その場合でもステップは成功となります。ほとんどの場合、スマート認識を使用しなくても、テスト・オブジェクトの記述と順序識別子の組み合わせでオブジェクトを認識できたはずだからです。

このような場合、実行結果には次の情報が示されます。

結果ツリー	[結果の詳細]表示枠
見つからなかったオブジェクトに対するスマート認識アイコン。例： 	スマート認識メカニズムがオブジェクトを見つけるのに成功したことで、オブジェクトを見つけるために使われたプロパティについての情報を示します。この情報に基づいて、そのオブジェクトのための一意のオブジェクト記述を作成することによって、UFT は、以降の実行セッションでその記述を使ってオブジェクトを見つけられるようになります。
実際に実行されたステップ。例： 	実行されたステップの詳細を示す通常の結果。

次の画像は、学習した記述で一致するものが複数あった後に、スマート認識を使って Flight Confirmation: Mercury オブジェクトを一意に認識したテストまたはコンポーネントの結果を示します。



スマート認識メカニズムでオブジェクトを認識できない場合、テストまたはコンポーネントは失敗し、[実行結果]に通常の失敗ステップが表示されます。

チェックポイントおよび出力値の結果 (UFT GUI テストのみ)

Run Results Viewerに表示される情報と使用可能なオプションは、選択したチェックポイントまたは出力値ステップのタイプによって異なります。

本項の内容

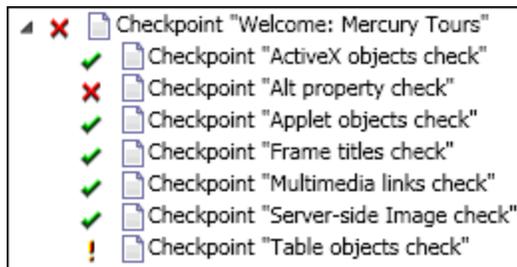
- 「アクセシビリティ・チェックポイントの結果 (UFT GUI テストのみ)」(88ページ)
- 「ビットマップ・チェックポイントの結果 (UFT GUI テストのみ)」(92ページ)
- 「ファイル内容チェックポイントの結果 (UFT GUI テストのみ)」(93ページ)
- 「標準チェックポイントの結果 (UFT GUI テストのみ)」(96ページ)
- 「テーブル・チェックポイントおよびデータベース・チェックポイントの結果 (UFT GUI テストのみ)」(98ページ)

- 「テキスト・チェックポイントおよびテキスト領域 チェックポイントの結果 (UFT GUI テストのみ)」(100ページ)
- 「XML チェックポイントの結果 (UFT GUI テストのみ)」(100ページ)
- 「出力値の結果 (UFT GUI テストのみ)」(102ページ)
- 「XML 出力値の結果 (UFT GUI テストのみ)」(103ページ)

アクセシビリティ・チェックポイントの結果 (UFT GUI テストのみ)

テストにアクセシビリティ・チェックポイントを含めると、検査した各アクセシビリティ・オプションの結果が Run Results Viewer に表示されます。

実行結果 ツリーには、各チェックポイントで検査された各アクセシビリティ・オプションのステップが個々に表示されます。たとえば、アクセシビリティ・オプションをすべて選択した場合、アクセシビリティ・チェックポイントの結果 ツリーは次のようになります。



実行結果の詳細な内容は、Web サイトに、W3C の「Web Content Accessibility Guidelines」に準拠していない可能性のある部分がないかを確認するのに役立ちます。各検査について提供される情報は、W3C 要件に基づいています。

注: 以下の項では、W3C の「Web Content Accessibility Guidelines」の中で、アクセシビリティ・チェックポイントに関連する内容を引用または概要しています。ただし、全体的な詳しい情報は掲載しません。Web サイトが W3C の「Web Content Accessibility Guidelines」に準拠しているかどうかを確認するには、次のサイトに掲載されているドキュメントを参照してください。

<http://www.w3.org/TR/WAI-WEBCONTENT/>

アクセシビリティ・チェックポイント 詳細については、『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

ActiveX のチェック

W3C の「Web Content Accessibility Guidelines」のガイドライン 6 では、新しいテクノロジーがサポートされていない、または無効になっている場合でも、ページへのアクセスを保証することが規定されています。ActiveX のチェックを選択すると、UFT は、選択したページまたはフレームに ActiveX オブジェクトが含まれているかどうかをチェックします。ActiveX オブジェクトが含まれていない場合、チェックポイントは成功とみなされます。ActiveX オブジェクトが含まれている場合、警告メッセージと ActiveX オブジェクトのリストが表示されます。このリストをもとに、ActiveX をサポートしていないブラウザでページのアクセシビリティをチェックできます。例：

ActiveX オブジェクトのチェック	
オブジェクト タグ	オブジェクト名
OBJECT	fplay

Alt プロパティのチェック

W3C の「Web Content Accessibility Guidelines」のガイドライン 1.1 では、すべての非テキスト要素に代替テキストを用意することが規定されています。Alt プロパティのチェックでは、このガイドラインで規定されている Alt プロパティを必要とするオブジェクトで、この属性が実際に設定されているかどうかをチェックします。選択したフレームまたはページにこのようなオブジェクトが含まれていない場合や、必要な属性が設定されている場合、チェックポイントは成功とみなされます。ただし、必要なプロパティが設定されていないオブジェクトが存在する場合、テストは失敗とみなされ、実行結果の詳細に、属性が設定されていないオブジェクトのリストが表示されます。例：

Alt プロパティのチェック		
オブジェクト タグ	オブジェクト名	Alt 値
IMG	Mercury Tours	Mercury Tours
IMG	html	[なし]

[キャプチャデータ] 表示枠にはキャプチャされたページやフレームが表示され、[Alt プロパティのチェック] で該当するオブジェクトを確認できます。

アプレットのチェック

アプレットのチェックも、新しいテクノロジーがサポートされていない場合や無効になっている場合でもページへのアクセスを保証する規定 (W3C の「Web Content Accessibility Guidelines」のガイドライン 6) に関するチェックであり、ページまたはフレームに Java アプレットまたはアプリケーションが含まれるかどうかを検出することによってチェックを行います。ページやフレームに Java アプレットまたはアプリケーションが含まれない場合、チェックポイントは成功とみなされます。含まれる場合は、警告メッセージと Java アプレットまたはアプリケーションのリストが表示されます。例：

アプレット オブジェクトのチェック	
オブジェクト タグ	オブジェクト名
APPLET	VApplet.class

フレーム・タイトルのチェック

W3C の「Web Content Accessibility Guidelines」のガイドライン 12.1 では、簡単にフレームを識別またはナビゲーションできるように、各フレームにタイトルを付けることを規定しています。[フレームタイトルのチェック]を選択すると、UFT は、Frame オブジェクトと Page オブジェクトに TITLE タグがあるかどうかをチェックします。選択したページまたはフレーム、そこに含まれるすべてのフレームにタイトルがある場合、チェックポイントは成功です。ページに TITLE タグがない場合や、TITLE タグがないフレームが存在する場合、テストは失敗とみなされ、実行結果の詳細に、タグがないオブジェクトが一覧表示されます。例：

フレーム タイトルのチェック			
オブジェクト クラス	オブジェクト タグ	オブジェクト名	タイトルの値
Frame	IFRAME	Frame	[なし]
Frame	IFRAME		[なし]

[キャプチャ データ] 表示 枠にはキャプチャされたページやフレームが表示され、[フレームタイトルのチェック]に該当するオブジェクトを確認できます。

マルチメディア・リンクのチェック

W3C の「Web Content Accessibility Guidelines」のガイドライン 1.3 および 1.4 では、マルチメディア表現の視覚的トラックについて、聴覚的な説明を同期させた状態で提供することを規定しています。ガイドライン 6 では、新しいテクノロジーがサポートされていない、または無効になっている場合でも、ページのアクセスを保証することが規定されています。[マルチメディアリンクのチェック]では、マルチメディア・オブジェクトへのリンクを特定し、必要に応じて代替リンクが使用可能になることを確認します。ページやフレームにマルチメディア・リンクが含まれない場合、チェックポイントは成功になります。マルチメディア・リンクが含まれている場合、警告メッセージとマルチメディア・リンクのリストが表示されます。

サーバ側画像のチェック

W3C の「Web Content Accessibility Guidelines」のガイドライン 1.2 では、サーバ側画像 マップの各アクティブ領域に、冗長なテキスト・リンクを提供することを規定しています。ガイドライン 9.1 では、利用可能な幾何学形状によって領域を定義できない場合を除き、サーバ側画像 マップではなくクライアント側画像 マップを提供することが推奨されています。[サーバ側画像のチェック]を選択すると、UFT は、選択したページまたはフレームにサーバ側画像が含まれているかどうかをチェックします。含まれていない場合、チェックポイントは成功となります。サーバ側画像が含まれている場合、警告メッセージとサーバ側画像のリストが表示されます。このリストをもとに、ページやフレームがガイドラインに準拠しているかどうかを個々に確認できます。例：

サーバ側画像のチェック	
オブジェクト クラス	オブジェクト名
Image	Please use the following links instead of this imagemap.

テーブルのチェック

W3C の「Web Content Accessibility Guidelines」のガイドライン 5 では、アクセス可能なブラウザおよびユーザ・エージェントが変換できるように、テーブルで必要なマークアップを使用することを規定してい

ます。特に、テーブルは、真の表形式データの表示に使用するべきであり、線形化したときにテーブルの内容を理解できなくなる場合には、レイアウトの目的でテーブルを使用することは避けるべきであることが強調されています。ガイドラインでは、TH, TD, THEAD, TFOOT, TBODY, COL, COLGROUP の各タグの使用が推奨されています。これにより、ユーザ・エージェントでは、ユーザは聴覚的手段、音声出力、ブライユ点字表示などを使用して、テーブルのセルの移動や、ヘッダなどのテーブル・セル情報へのアクセスが可能になります。

[テーブルのチェック]では、選択したページまたはフレームにテーブルが含まれているかどうかをチェックします。含まれていない場合、チェックポイントは成功となります。含まれている場合、警告メッセージと、テーブルのタグ構造が視覚的に表示されます。例：

テーブル オブジェクトのチェック

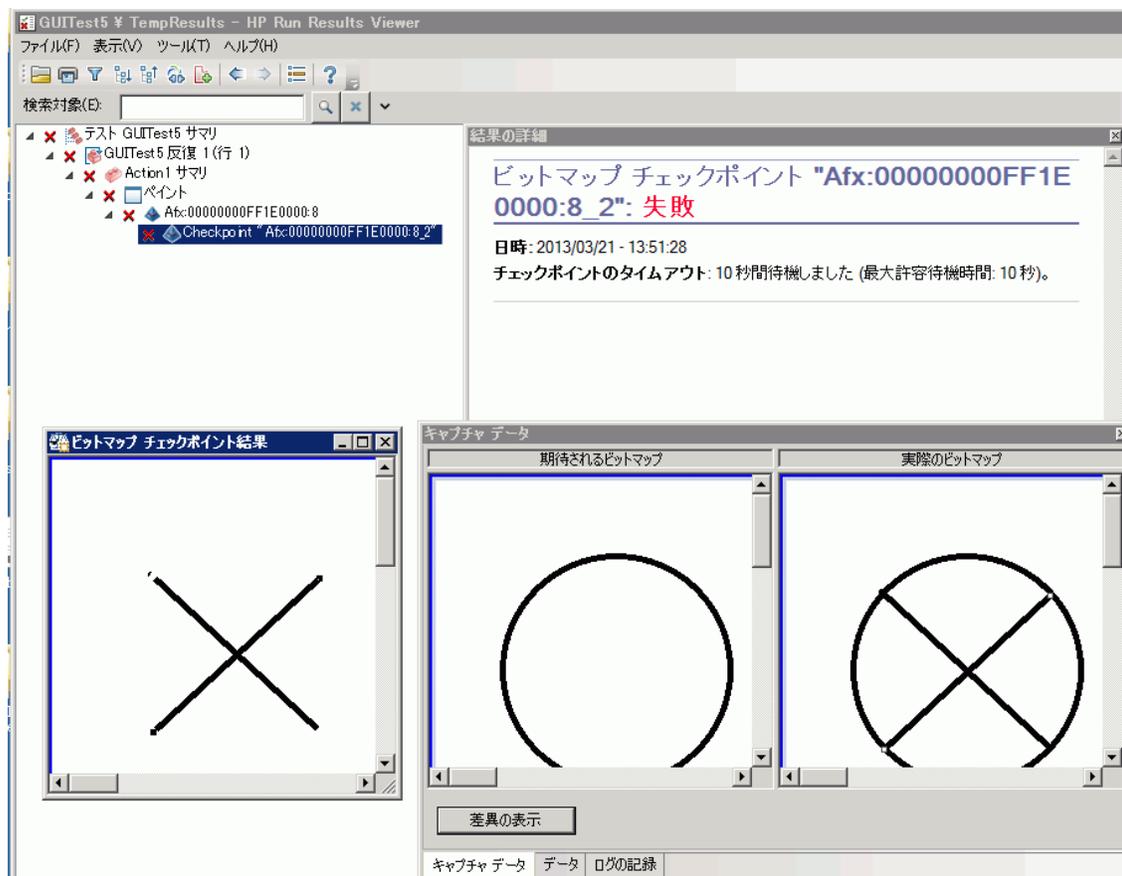
オブジェクト クラス	オブジェクト名	テーブル構造		
WebTable	Table 1	<table border="1"><tr><td>TD</td><td>TD</td></tr></table>	TD	TD
TD	TD			

ビットマップ・チェックポイントの結果 (UFT GUI テストのみ)

[結果の詳細]表示枠にはチェックポイント・ステップの結果が表示されます。ここではチェックポイントのステータス(成功または失敗)、チェックポイントが実行された日時、使用されたチェックポイント・タイムアウトの間隔(該当する場合)などが表示されます。

期待されるビットマップと実際のビットマップの比較

[キャプチャデータ]表示枠には、実行セッション中に比較された想定されるビットマップと実際のビットマップ、[差異の表示]ボタンが表示されます。[差異の表示]ボタンをクリックすると、[ビットマップチェックポイント結果]ウィンドウが開き、期待されるビットマップと実際のビットマップの差異を示す画像が表示されます。この画像は白黒のビットマップで、2つの画像間で異なるピクセルは黒色で示されます。コンポーネントの場合も、同様の結果が表示されます。



実際のビットマップ内での指定ビットマップの場所の特定

[キャプチャデータ]表示枠には、アプリケーション内にある実行環境オブジェクトの実際のビットマップと、UFT がオブジェクト内で取得しようとしたソース・ビットマップが表示されます。検出された候補の座標と、候補の検出に使用した画像の類似度も表示されます。

注: 標準設定では、この情報が[キャプチャデータ]表示枠に表示されるのは、ビットマップ・チェックポイントに失敗した場合のみです。[オプション]ダイアログ・ボックスの[画面キャプチャ]表示枠

([ツール] > [オプション] > [GUI テスト] タブ > [画面キャプチャ] ノード) の [静止画像キャプチャをテスト結果へ保存] オプションを使用して、ビットマップを実行結果に保存するタイミングを変更できます。詳細については、『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』の [画面キャプチャ] 表示枠について説明している項を参照してください。

ビットマップ・チェックポイントの結果を確認する際の考慮事項

- ビットマップの比較時に、ビットマップの特定の領域だけを比較するようにチェックポイントを定義すると、実行結果には、選択した領域が強調表示された状態で、実際のビットマップと期待されるビットマップが表示されます。
- ビットマップの比較時に、実際のビットマップと期待されるビットマップの寸法が異なる場合、UFT はビットマップを比較せず、チェックポイントは失敗します。この場合、[差異の表示] 機能は使用できなくなります。
- 10.00 以前のバージョンの QuickTest で生成した結果を表示する場合、[差異の表示] 機能は使用できません。
- ビットマップ・チェックポイントを独自の比較ツールで実行する場合は、次の点に注意してください。
 - 寸法が異なる場合でも、UFT はビットマップを独自の比較ツールに渡します。
 - [結果の詳細] 表示枠には、独自の比較ツールの名前 ([ビットマップ チェックポイント プロパティ] ダイアログ・ボックスの [比較ツール] ボックスに表示されている名前) や、このツールによって提供される追加情報が表示されます。
 - 差異ビットマップは独自の比較ツールによって提供されます。

ビットマップ・チェックポイントとカスタム比較ツールの詳細については、『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』のビットマップ・チェックポイントについて説明している項を参照してください。

ファイル内容チェックポイントの結果 (UFT GUI テストのみ)

[結果の詳細] 表示枠には選択したチェックポイントの詳細な結果が表示されます。ここには、ステータス ([成功] または [失敗]) やチェックポイントが実行された日時などが表示されます。また、チェックした行数、チェックした行で見つかった変更数、ファイル内で見つかった変更行数の合計 (チェックポイントで選択された行と選択されなかった行の両方を含む) も示されます。

詳細領域では、チェックポイントに次のオプションを含めるかどうかも指定します。[大文字と小文字を区別する]、[スペースを無視する]、[ページ数を検証する]、[追加または削除された行のチェックポイントは失敗にする]

失敗したステップでは、[キャプチャデータ] 表示枠に、実際のファイル内のすべての行で見つかった差違がすべて表示されます (チェックポイント内で行が比較用に選択されているかどうかは関係ありません)。行番号の隣のアスタリスク (*) は、実際のファイルに対する比較のために正規表現が選択されたことを示します。

次の例では、失敗したチェックポイントの詳細情報として、期待される結果と現在の結果が一致しないことが示されています。

- 1行目の期待される値が実際の結果と一致しません。
- 1行目のアスタリスク(*)は、実際のファイルに対する比較のために正規表現が選択されたことと、期待されるファイルと実際のファイルの行数が異なることを示します。
- 比較用に選択された行は黒で表示されます。
比較用に選択されなかった行は薄い灰色で表示されます。
- 最後の行は、ソース(期待される)ファイルには存在しますが、実際のファイルには存在しません。この行は比較に選択されませんでした。そのため、テキストの内容は黒ではなく灰色で表示されます。
- 実際のファイルに追加された行はありません。

The screenshot displays the 'Results Details' window for a failed check point. The title bar reads 'ファイル内容チェックポイント "body.xml.txt": 失敗' (File Content Check Point "body.xml.txt": Failure). The timestamp is '日時: 2013/03/21 - 14:29:44'. Under the '詳細' (Details) section, it lists: 'チェックした行数: 1' (Checked lines: 1), '見つかった変更数 (チェックした行): 1' (Number of changes found (checked lines): 1), and '見つかった変更数 (すべての行): 2' (Number of changes found (all lines): 2). Configuration options include: '大文字と小文字を区別する: ON' (Case sensitive: ON), 'スペースを無視する: OFF' (Ignore spaces: OFF), 'ページ数を修正する: OFF' (Adjust page numbers: OFF), and '追加または削除された行のチェックポイントは失敗にする: OFF' (Check points for added or deleted lines fail: OFF).

At the bottom, two side-by-side panels compare the '期待される値' (Expected value) and '実際の値' (Actual value) for the file content. The expected XML is:

```

1. <FlightOrderDetails xmlns="HP.SOAQ.SampleApp">
2.   <Class>Business</Class>
3.   <CustomerName>John Doe</CustomerName>
4.   <DepartureDate>2012-12-12</DepartureDate>
5.   <FlightNumber>1304</FlightNumber>
6.   <NumberOfTickets>21</NumberOfTickets>
7. </FlightOrderDetails>
    
```

The actual XML is:

```

1. <><><FlightOrderDetails xmlns="HP.SOAQ.SampleApp">
2.   <Class>Business</Class>
3.   <CustomerName>John Doe</CustomerName>
4.   <DepartureDate>2012-12-12</DepartureDate>
5.   <FlightNumber>1304</FlightNumber>
6.   <NumberOfTickets>21</NumberOfTickets>
    
```

The discrepancy is in the opening tag of the first line, where the actual value is missing the namespace and closing tag.

[キャプチャデータ]表示枠 - ボタン

UI 要素		説明
	色設定	<p>[[色設定]ダイアログ・ボックス ([キャプチャデータ]表示枠 - Run Results Viewer) (UFT GUI テストのみ)](108 ページ)]ダイアログ・ボックスを開き、各フィルタ・タイプのテキスト色と背景色を定義できます。詳細については、『HP Unified Functional Testing ユーザース・ガイド』を参照してください。</p>
	次の差異	<p>比較しているバージョンの行間の次の相違点を検索します。</p>
	前の差異	<p>比較しているバージョンの行間の前の相違点を検索します。</p>
	フィルタ	<p>[[フィルタ]ダイアログ・ボックス ([キャプチャデータ]表示枠 - Run Results Viewer) (UFT GUI テストのみ)](109 ページ)]ダイアログ・ボックスを開き、比較ウィンドウで次のタイプのフィルタ要素を表示または非表示にすることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 変更済み  • 削除済み  • 追加済み  • 同じ <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ヒント: 比較ウィンドウの右上隅にある凡例には、各フィルタ・タイプに適合する要素の数が示されます。折りたたんだノードの横の凡例には、各フィルタ・タイプに適合するサブノードの数が示されます。詳細については、『HP Unified Functional Testing ユーザース・ガイド』を参照してください。</p> </div>
	水平に表示 垂直に表示	<p>水平に表示: 開いているドキュメントを縦に重ねて表示します。</p> <p>垂直に表示: 開いているドキュメントを横に並べて表示します。</p>

詳細については、『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』のファイル内容 チェックポイントについて記載されている項を参照してください。

標準チェックポイントの結果 (UFT GUI テストのみ)

[結果の詳細]表示枠には、選択したチェックポイントの詳細な結果が表示されます。ここにはチェックポイントのステータス(成功または失敗)、チェックポイントが実行された日時、使用されたチェックポイント・タイムアウトの間隔(該当する場合)などが表示されます。検査対象オブジェクトのプロパティ値も表示されます。また、プロパティの期待値と実際の値に違いがあればそれらもすべて表示されます。

[キャプチャデータ]表示枠には、チェックポイント・ステップのキャプチャ画像が表示されます(使用可能な場合)。

次の例では、失敗したチェックポイントの詳細情報として、期待される結果と現在の結果が一致しないことが示されています。出発地の期待される値はパリですが、実際の値はフランクフルトです。

The screenshot displays two windows from the HP Run Results Viewer. The top window, titled "結果の詳細" (Result Details), shows a failed test step: "標準チェックポイント 'fromPort': 失敗" (Standard Checkpoint 'fromPort': Failed). The failure occurred on 2013/03/21 at 15:07:19. The details table below shows the expected and actual values for the 'fromPort' property.

プロパティ名	プロパティ値
html tag	SELECT
items count	10
name	fromPort
type	select-one
value	Paris Frankfurt

The bottom window, titled "キャプチャデータ" (Capture Data), shows a web application interface for a flight search. The "Departing From" dropdown menu is highlighted with a pink box and contains the value "Frankfurt". The interface also shows options for "Type" (Round Trip selected), "Passengers" (1), "On" date (March 21), and "Arriving In" (Acapulco).

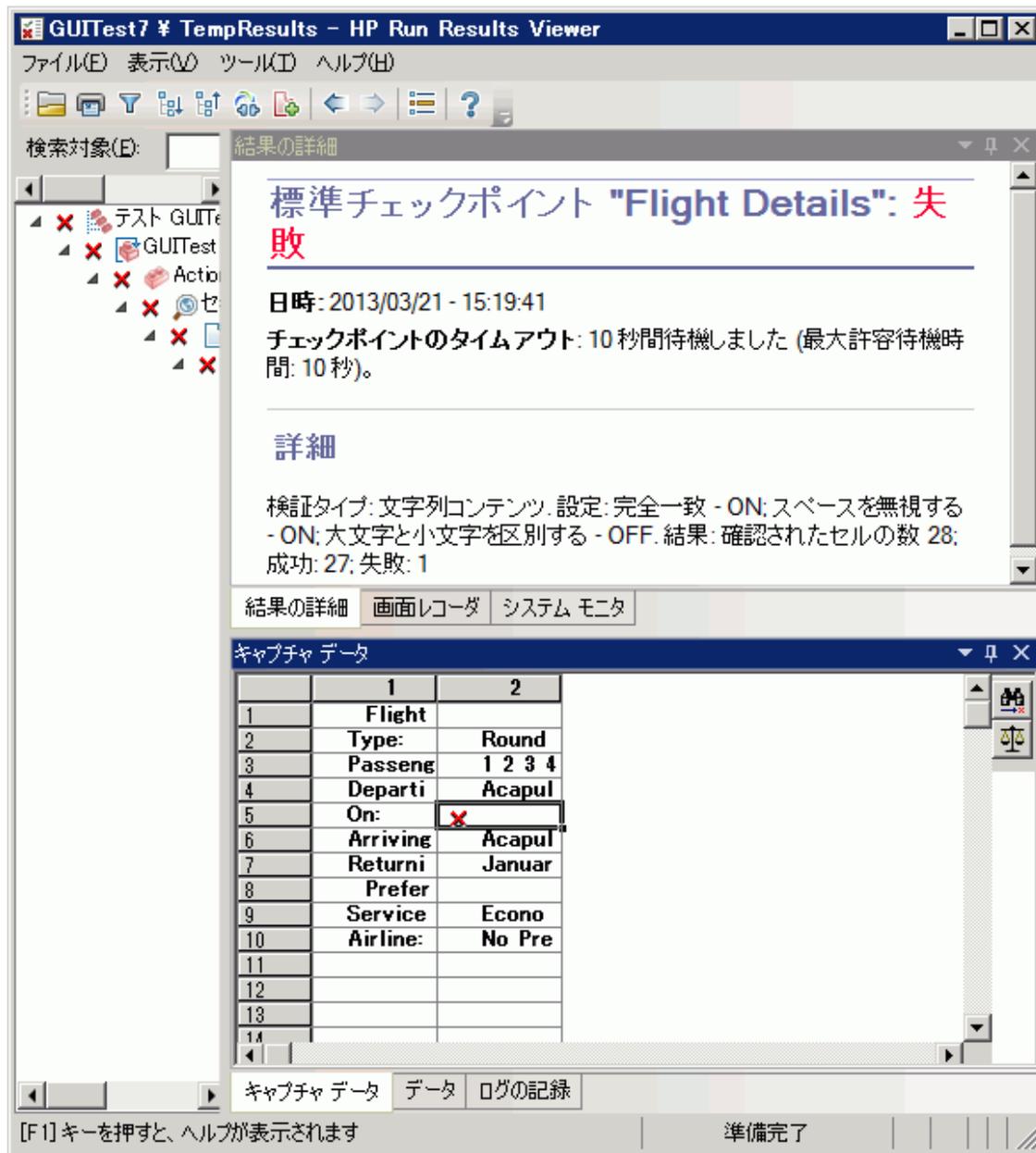
詳細については、『HP Unified Functional Testing ユーザズ・ガイド』の標準チェックポイントについて記載されている項を参照してください。

テーブル・チェックポイントおよびデータベース・チェックポイントの結果 (UFT GUI テストのみ)

テーブル・チェックポイントとデータベース・チェックポイントの結果は、類似した画面で表示されます。[結果の詳細]表示枠には、チェックポイント・ステップの結果が表示されます。ここには、チェックポイントのステータス(成功または失敗)チェックポイントが実行された日時、チェックポイントで指定した検証設定、チェックポイントに成功または失敗したテーブル・セルまたはデータベース・レコードの数が表示されます。

チェックポイントが失敗すると、[キャプチャデータ]表示枠には、チェックポイントでチェックしたテーブル・セルまたはデータベース・レコードが表示されます。セルの値やレコードは、チェック対象のものは黒、チェック対象でないものはグレーで表示されます。チェックポイントに失敗したセルまたはレコードには、失敗  アイコンが表示されます。

次に、チェックポイント結果の例を示します。



[キャプチャデータ]表示枠にある[次の不一致]ボタン  をクリックすると、チェックポイントに失敗した次のテーブル・セルやデータベース・レコードが強調表示されます。

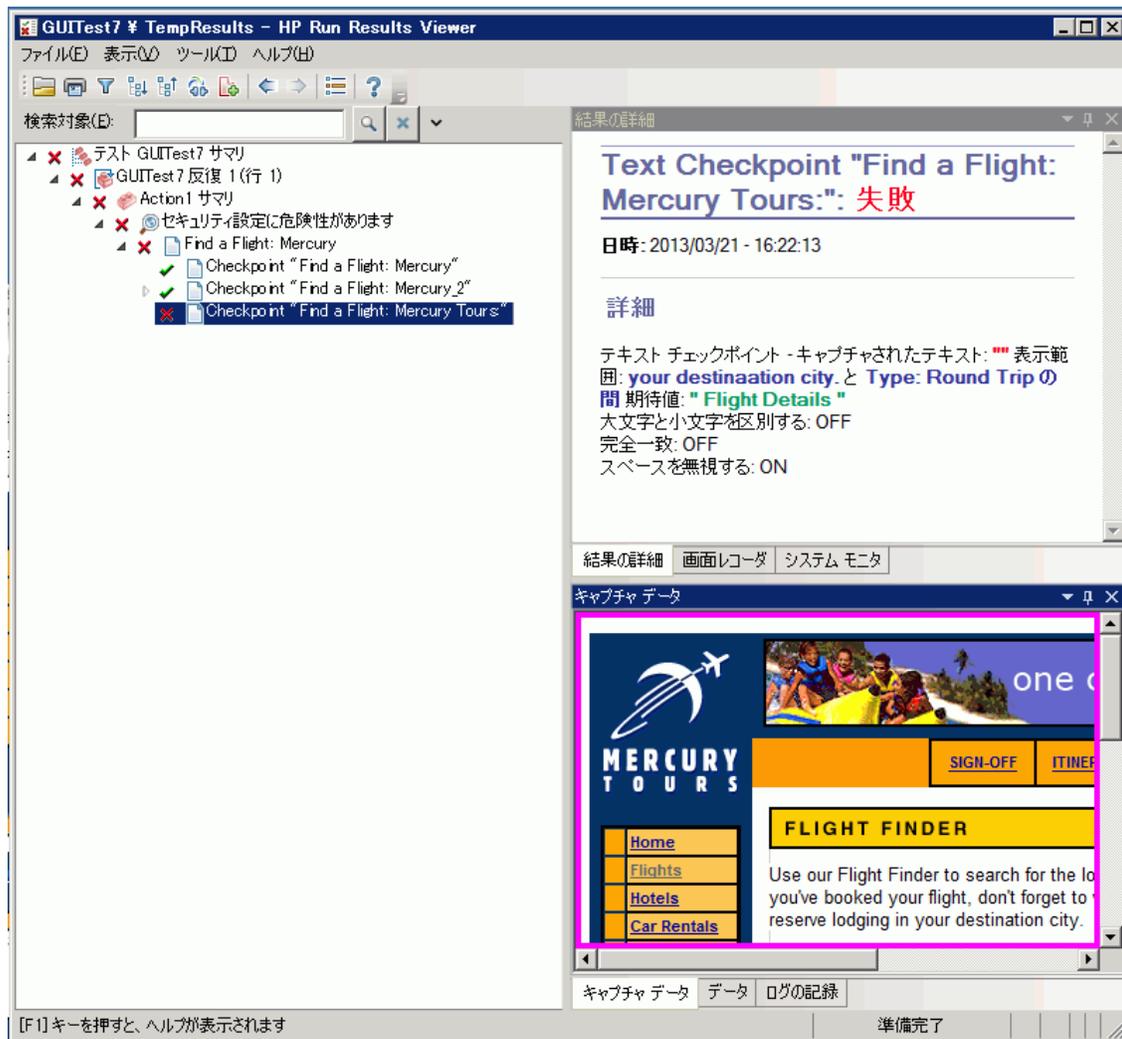
[キャプチャデータ]表示枠にある[値の比較]ボタン  をクリックすると、選択したテーブル・セルまたはデータベース・レコードの期待値と実際の値が表示されます。

詳細については、『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』のテーブルチェックポイントについて記載されている項を参照してください。

テキスト・チェックポイント およびテキスト領域チェックポイントの結果 (UFT GUI テストのみ)

[結果の詳細]表示枠にはチェックポイント・ステップの結果が表示されます。ここではチェックポイントのステータス(成功または失敗)、チェックポイントが実行された日時、使用されたチェックポイント・タイムアウトの間隔(該当する場合)などが表示されます。また、期待されるテキストと実際のテキスト、チェックポイントで指定した検証設定も表示されます。

次に、テキスト・チェックポイント結果の例を示します。



詳細については、『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』のテキスト・チェックポイントおよびテキスト領域チェックポイントについて記載されている項を参照してください。

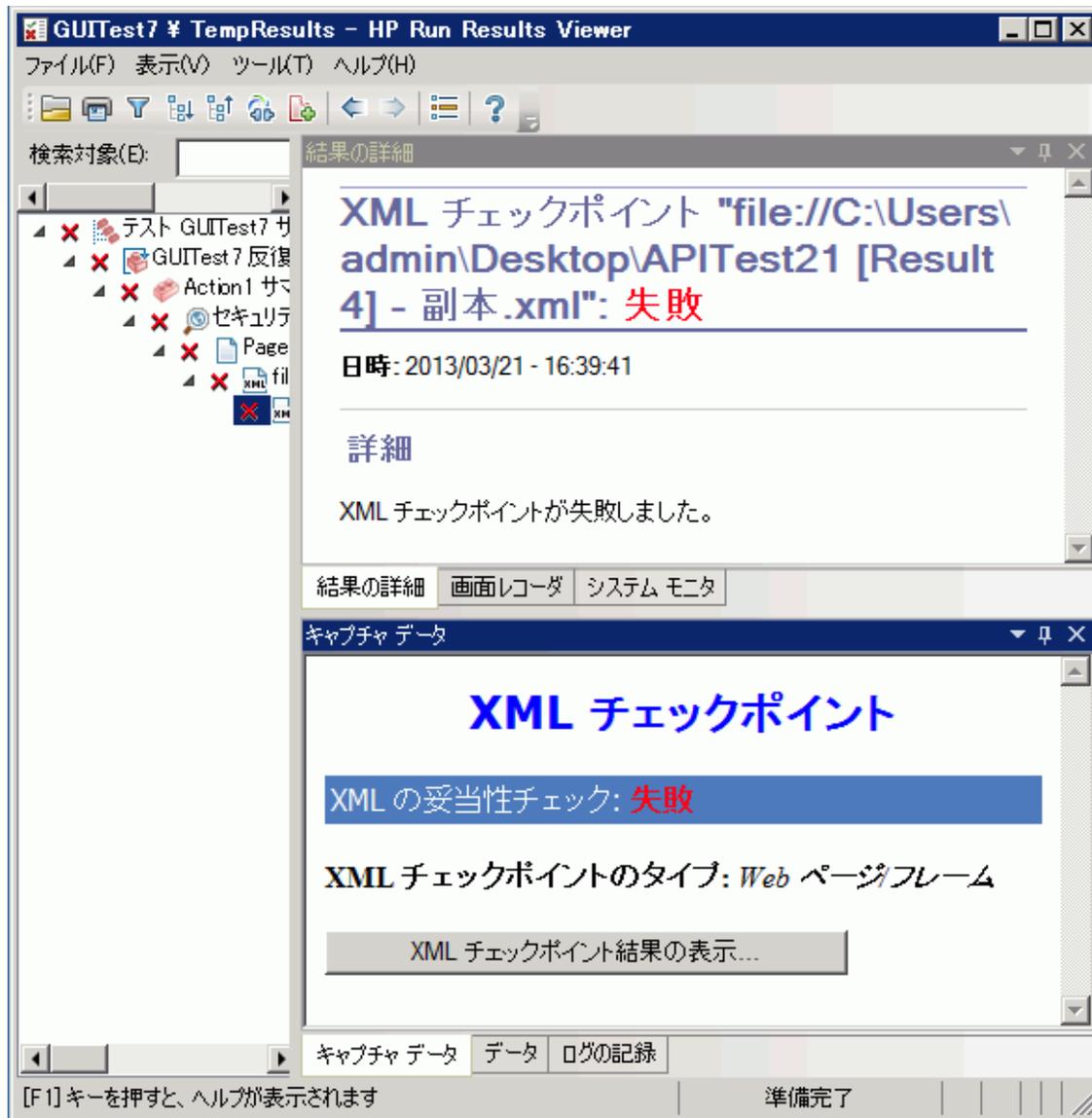
XML チェックポイントの結果 (UFT GUI テストのみ)

[結果の詳細]表示枠には、チェックポイント・ステップの結果が表示されます。

[キャプチャデータ]表示枠には、スキーマ検証 (該当する場合) の詳細と、チェックポイント結果のサマリが表示されます。スキーマ検証が失敗した場合は、失敗の理由も表示されます。

チェックポイントが失敗した場合、[キャプチャデータ]表示枠の[XML チェックポイント結果の表示]をクリックすると、チェックポイントで実行された各チェックの詳細な内容が表示されます。[XML チェックポイント結果]ウィンドウが開き、チェックポイントの失敗に関する詳細情報が表示されます。詳細については、「[XML チェックポイント結果]ウィンドウ(UFT GUI テストのみ)」(110ページ)を参照してください。

次に、XML チェックポイント結果の例を示します。



注: 標準設定では、チェックポイントが成功した場合、[XML チェックポイント結果の表示]ボタンは表示されません。これらの詳細な結果が表示されるかどうかは、[オプション]ダイアログ・ボックスの[画面キャプチャ]表示枠 ([ツール] > [オプション] > [GUI テスト]タブ > [画面キャプチャ]

ノード)の[静止画像キャプチャをテスト結果へ保存]の設定によって決まります。詳細については、『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』の[画面キャプチャ]表示枠について説明している項を参照してください。

出力値の結果 (UFT GUI テストのみ)

[結果の詳細]表示枠には、選択された出力値ステップの結果の詳細な内容(ステータス、出力値のステップが実行された日時など)が表示されます。また、実行セッション中にキャプチャされた値、値のタイプや名前など、出力値の詳細も表示されます。次に例を示します。コンポーネントの場合も、同様の結果が表示されます。

The screenshot shows the HP Run Results Viewer interface. The left pane displays a tree view of test results, with 'Output "airline"' selected. The main pane shows the details for this output value.

標準出力値 "airline": 完了
 日時: 2013/03/21 - 17:18:35

詳細

プロパティ名	キャプチャされた値	タイプ	名前
value	Pangea Airlines	DataTable	airline_value_output

Below the table, there are tabs for '結果の詳細', '画面レコーダ', and 'システム モニタ'. The '画面レコーダ' tab is active, showing a screenshot of a web page with a 'Rent A Car' advertisement and a 'Preferences' dialog box. The 'Airline' dropdown menu in the preferences is set to 'Pangea Airlines'.

詳細については、『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』の出力値について記載されている項を参照してください。

XML 出力値ステップの詳細については、「XML 出力値の結果 (UFT GUI テストのみ)」(103ページ)を参照してください。

ファイル内容出力値の結果 (UFT GUI テストのみ)

[結果の詳細]表示枠には、ファイル内容出力値ステップの結果 (ステータス、ステップが実行された日時、パラメータ化されたファイル内容出力値の詳細) などが表示されます。また、構成設定 ([大文字と小文字を区別する]と[スペースを無視する]が設定されたかどうか) も表示されます。次に例を示します。

#	Parameter	Match		Line s
	Command	L	F	
1	Environment("FileContent_out")	1	✓	1-1
2	Environment("FileContent_out_1")	5	✓	5-5

チェックした行数: 2

大文字と小文字を区別する: ON
スペースを無視する: OFF

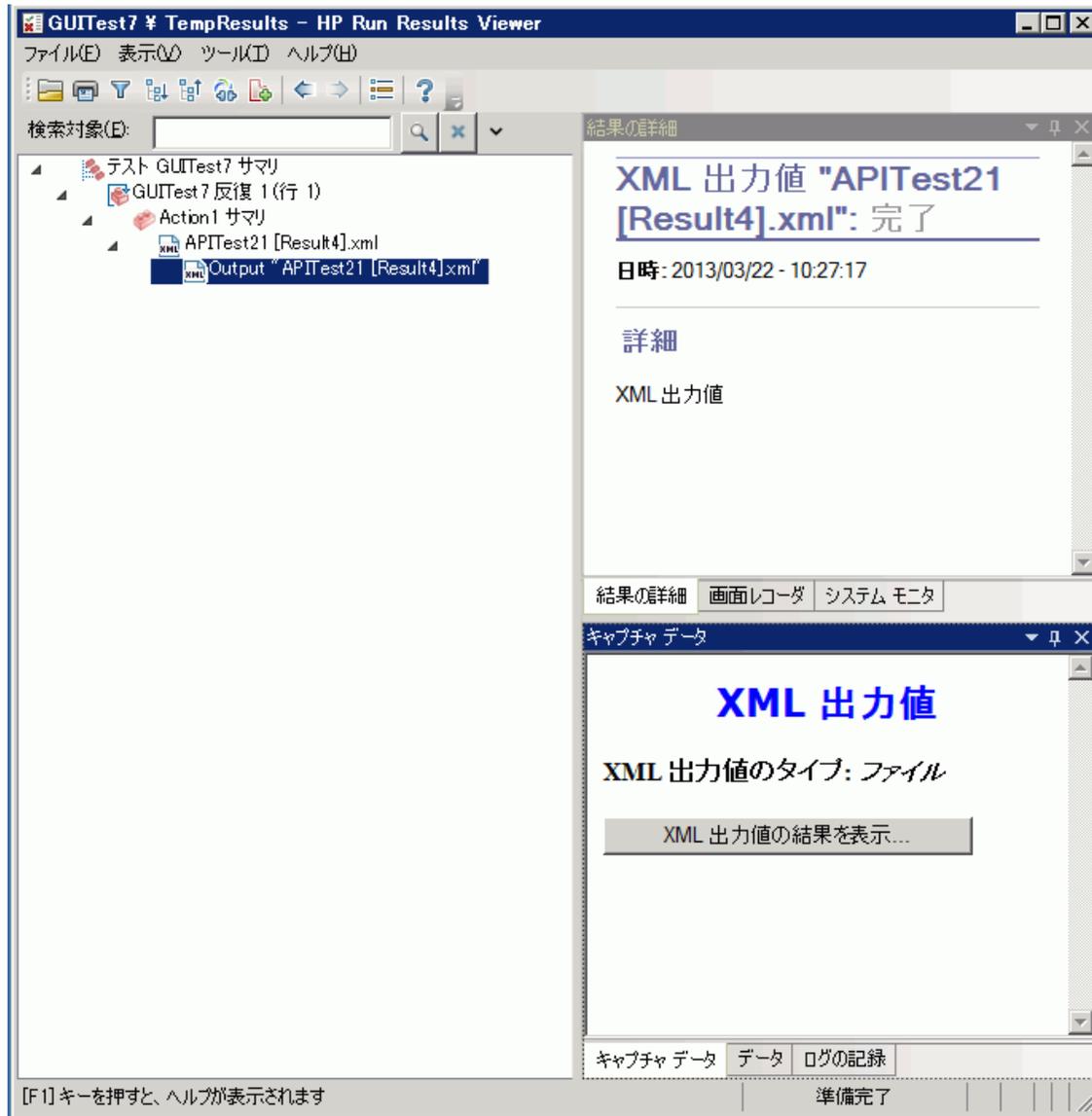
詳細については、『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』のファイル内容出力値について記載されている項を参照してください。

XML 出力値の結果 (UFT GUI テストのみ)

[結果の詳細]表示枠には、出力値の結果のサマリが表示されます。

[キャプチャデータ]表示枠で[XML 出力値の結果を表示]をクリックすると、[XML 出力値の結果]ウィンドウが開きます。詳細については、「XML 出力値の結果 ウィンドウ (UFT GUI テストのみ)」(118 ページ)を参照してください。

次に、XML 出力値の結果の例を示します。



注: 標準設定では、[XML 出力値の結果を表示]ボタンが表示されるのは、エラー発生時のみです。これらの詳細な結果が表示されるかどうかは、[オプション]ダイアログ・ボックスの[画面キャプチャ]表示枠 ([ツール] > [オプション] > [GUI テスト] タブ > [画面キャプチャ] ノード) の[静止画像キャプチャをテスト結果へ保存]の設定によって決まります。詳細については、『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』の[画面キャプチャ]表示枠について説明している項を参照してください。

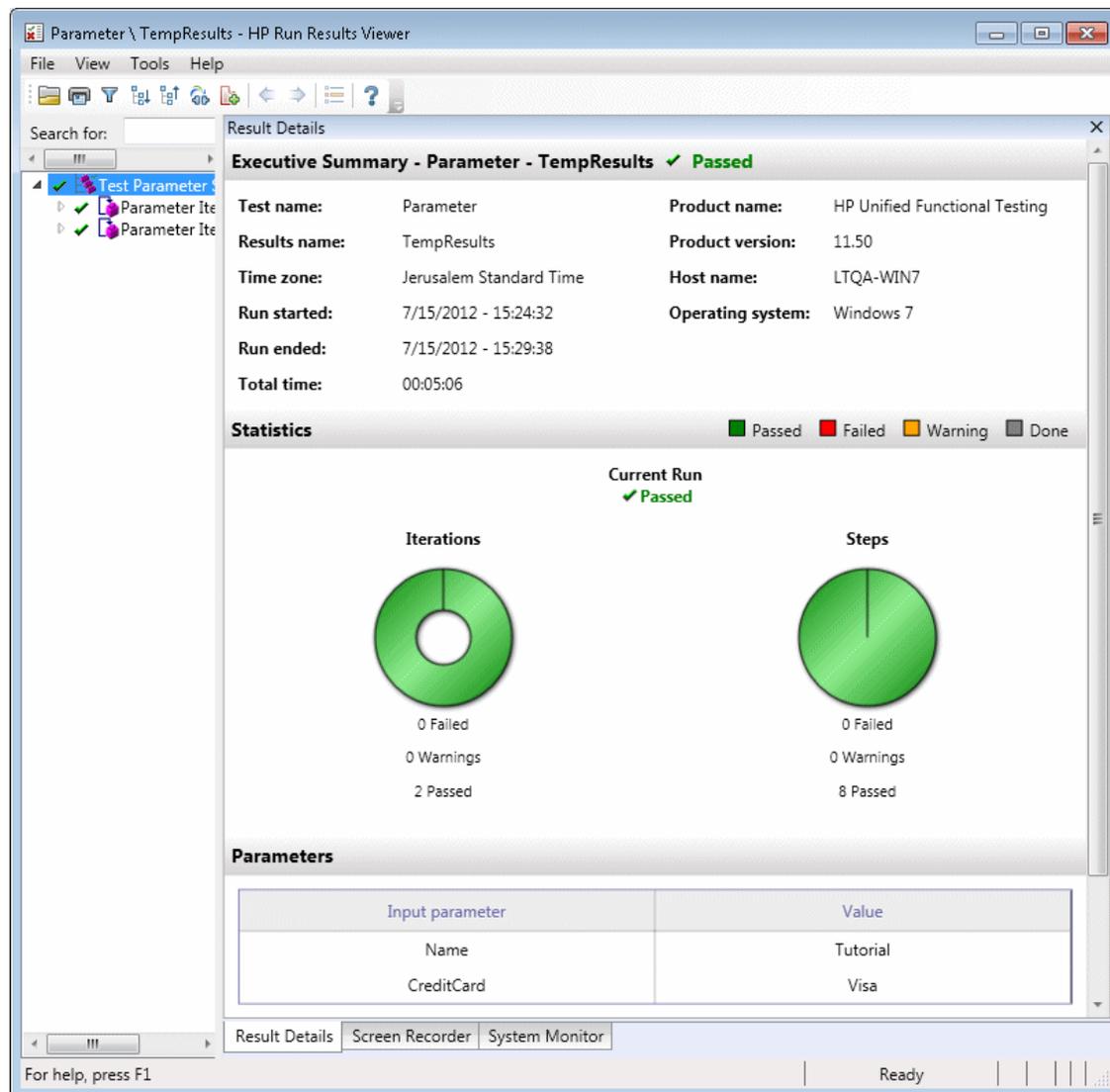
詳細については、『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』のXML 出力値について記載されている項を参照してください。

実行結果でのパラメータ化された値

「パラメータ」は、外部データ・ソース、テスト用のジェネレータ、またはコンポーネント内から値が割り当てられる変数です。Run Results Viewerでは、テストまたはコンポーネントで定義されたパラメータの値を表示できます。

パラメータ化された値を表示するには、実行結果ツリー内でノードを展開し、ルート・ノードをクリックします。これにより、テストまたはコンポーネントの入出力パラメータが表示されます。または、パラメータ化された値を含むアクション・ノードをクリックします(テストのみ)。

テストおよびコンポーネント・パラメータは、[結果の詳細]表示枠の[エグゼクティブ サマリ]領域の[パラメータ]セクションに表示されます。この表示枠は、実行結果ツリーのルート・ノードをクリックすると表示されます。次の例は、テストの入力パラメータを示しています。[パラメータ]セクションは、コンポーネントの入力パラメータと同じです。

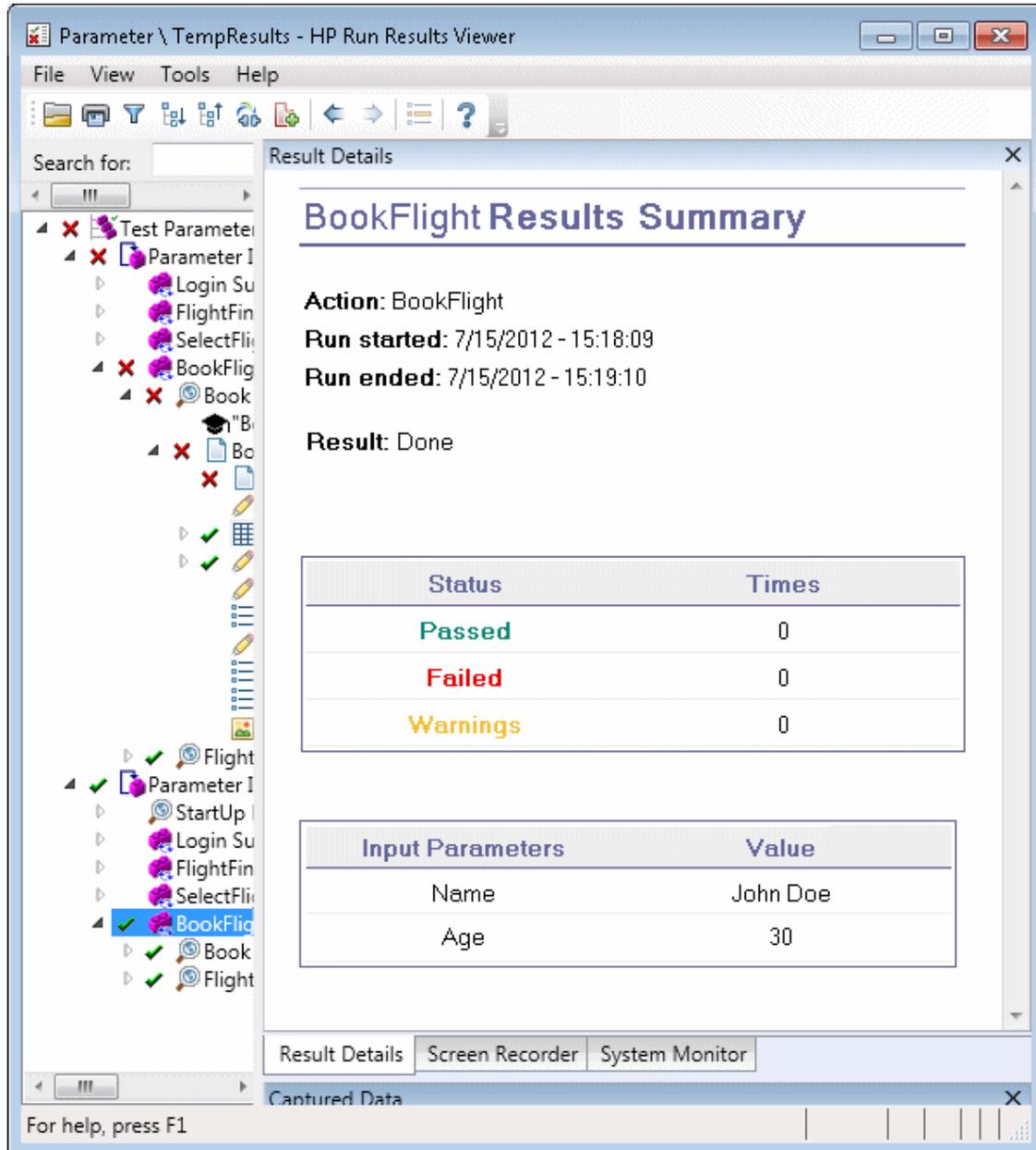


The screenshot shows the HP Run Results Viewer interface. The main window title is "Parameter \ TempResults - HP Run Results Viewer". The left sidebar shows a tree view with "Test Parameter" expanded, showing "Parameter Item" and "Parameter Item". The main content area is titled "Result Details" and shows an "Executive Summary - Parameter - TempResults" with a "Passed" status. Below this, there are statistics for "Current Run" (Passed) and two donut charts for "Iterations" and "Steps". The "Iterations" chart shows 0 Failed, 0 Warnings, and 2 Passed. The "Steps" chart shows 0 Failed, 0 Warnings, and 8 Passed. At the bottom, there is a "Parameters" section with a table showing input parameters.

Input parameter	Value
Name	Tutorial
CreditCard	Visa

テストまたはコンポーネントの出力パラメータが定義されている場合は、この表示枠の入力パラメータの下に表示されます。

アクション・パラメータの場合、入力出力パラメータの名前と値が[結果の詳細]表示枠に表示されず。コンポーネントの場合も、同様の結果が表示されます。



上記の例では、アクション・レベルで定義した入力パラメータが表示されています。出力パラメータも同じレベルで定義されている場合は、この表示枠に表示されます。

テストとコンポーネントでのパラメータの定義や使用方法については、『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

UFT API /Service Test テストの呼び出しを含む GUI テスト (UFT GUI テストのみ)

テスト内で UFT API テストまたは Service Test テストが呼び出される場合、このテストの結果は実行結果で確認できます。実行結果ツリーには、UFT API テストまたは Service Test テストの呼び出しより先のすべての GUI テスト固有ノード、テストの呼び出しからのすべての UFT API テストまたは Service Test テスト固有ノード、テストの呼び出しより後のすべての GUI テスト固有ノードが表示されます。

UFT API テストまたは Service Test テスト・ステップに関して表示される項目の詳細については、下記の項を参照してください。

- [「カスタム・フィールド \(UFT API テストのみ\)」\(13ページ\)](#)
- [「\[キャプチャ データ\] 表示 枠 \(Run Results Viewer\)」\(47ページ\)](#)
- [「UFT API ステップでの\[キャプチャ データ\] 表示 枠の内容」\(48ページ\)](#)

リファレンス

[色設定]ダイアログ・ボックス ([キャプチャデータ]表示枠 - Run Results Viewer) (UFT GUI テストのみ)

このダイアログ・ボックスでは、Run Results Viewer の[キャプチャデータ]表示枠にある、さまざまなフィルタ要素のテキスト色と背景色を変更できます。



アクセス方法	[キャプチャデータ]表示枠で、[色設定]ツールバー・ボタン  をクリックします。
重要な情報	可用性: ファイル内容チェックポイントのみ フィルタ・タイプの背景色を変更すると、表示枠の右上隅にある凡例も変更されます。これらの変更は、再度変更するか、標準設定に戻すまで有効です。

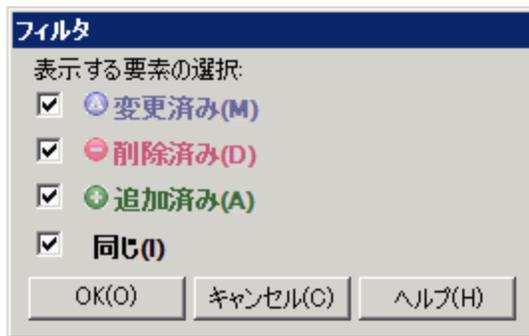
次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
変更済み 削除済み 追加済み 同じ	関連するフィルタ要素のテキスト色および背景色。 次の操作を実行できます。 <ul style="list-style-type: none">下矢印  をクリックし、[Custom]、[Web]、[System]タブのいずれかで色リストから色を選択します。エディット・ボックスにRGB値を直接入力します。

UI 要素	説明
復元	各フィルタ要素の標準設定の色の値に戻します。

[フィルタ]ダイアログ・ボックス ([キャプチャデータ]表示枠 - Run Results Viewer) (UFT GUI テストのみ)

このダイアログ・ボックスでは、フィルタ条件に基づいて、表示枠の行の表示/非表示を切り替えることができます。



アクセス方法	[キャプチャデータ]表示枠で、[フィルタ]ツールバー・ボタン  をクリックします。
重要な情報	可用性: ファイル内容チェックポイント

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
表示する要素の選択	<p>チェック・ボックスを選択または選択解除します。表示枠には、定義されているフィルタに適合する行のみが表示されます。次の種類の行の表示/非表示の切り替えが可能です。</p> <ul style="list-style-type: none">  変更済み  削除済み  追加済み 同じ

[XML チェックポイント 結果] ウィンドウ (UFT GUI テストのみ)

このウィンドウには、XML ファイルの階層構造が表示されます。

- **[期待 XML ツリー] 表示枠**: 期待される結果 (XML チェックポイントに格納されている要素、属性、値) が表示されます。
- **[実際 XML ツリー] 表示枠**: 実際の結果 (実行セッション中の XML ドキュメント) が表示されます。
- **[チェックポイント サマリ] 表示枠**: [期待結果] 表示枠で選択した項目に対して実行されたチェックの結果情報が表示されます。

チェック	ステータス	期待値	実際値
属性チェック	失敗	詳細については、属性テーブルを参照してください。	
次のタイプの子数 <任意の子>	成功	0	0

アクセス方法

Run Results Viewer の [キャプチャデータ] 表示枠で、[XML チェックポイント結果の表示] ボタンをクリックします。

<p>重要な情報</p>	<p>[XML チェックポイント結果] ウィンドウを開くと、[チェックポイント サマリ] 表示枠には、[期待結果] 表示枠の先頭にあるチェック済み項目の結果のサマリが表示されます。</p> <p>ヒント: このウィンドウの要素の値をダブルクリックすると、[要素の値] ダイアログ・ボックスが開き、複数行の編集コントロールに値が表示されます。詳細については、「[要素の値] ダイアログ・ボックス (Run Results Viewer) (UFT GUI テストのみ)」(116ページ)を参照してください。</p>
<p>参照</p>	<p>「XML チェックポイントの結果 (UFT GUI テストのみ)」(100ページ)</p>

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	<p>チェックポイント・サマリの表示: [チェックポイント サマリ] 表示枠が開き、チェックに成功または失敗した項目の説明が詳細に表示されます。</p> <p>メニュー・オプション: [表示] > [チェックポイント サマリ]</p>
	<p>属性詳細の表示: [期待属性値] 表示枠と[実際属性値] 表示枠が開き、チェック対象になった属性を持つ要素が表示されます。</p> <p>メニュー・オプション: [表示] > [属性の詳細]</p>
	<p>次のチェックを検索: XML ツリー内で、チェック済みの次の項目に移動します。</p> <p>メニュー・オプション: [表示] > [次のチェックを検索]</p>
	<p>前のチェックを検索: XML ツリー内で、チェック済みの前の項目に移動します。</p> <p>メニュー・オプション: [表示] > [前のチェックを検索]</p>
	<p>次のエラーを検索: XML ツリー内で、次のエラーに移動します。</p> <p>メニュー・オプション: [表示] > [次のエラーを検索]</p>
	<p>前のエラーを検索: XML ツリー内で、前のエラーに移動します。</p> <p>メニュー・オプション: [表示] > [前のエラーを検索]</p>

UI 要素	説明
	<p>ツリーの同時スクロール: 期待の XML ツリーと実際の XML ツリーを同時にスクロールします。このオプションを選択した場合、期待 XML ツリーと実際 XML ツリーのいずれかでスクロールすると、両方のツリーが同時にスクロールします。このオプションを選択しないと、いずれか一方のツリーのみをスクロールできます。</p> <p>メニュー・オプション: [表示] > [ツリーの同時スクロール]</p>
	<p>ヘルプ・トピック: [XML チェックポイント結果] ウィンドウのヘルプが開きます。</p> <p>メニュー・オプション: [表示] > [ヘルプトピック]</p>

XML チェックポイント結果のサンプル・シナリオ

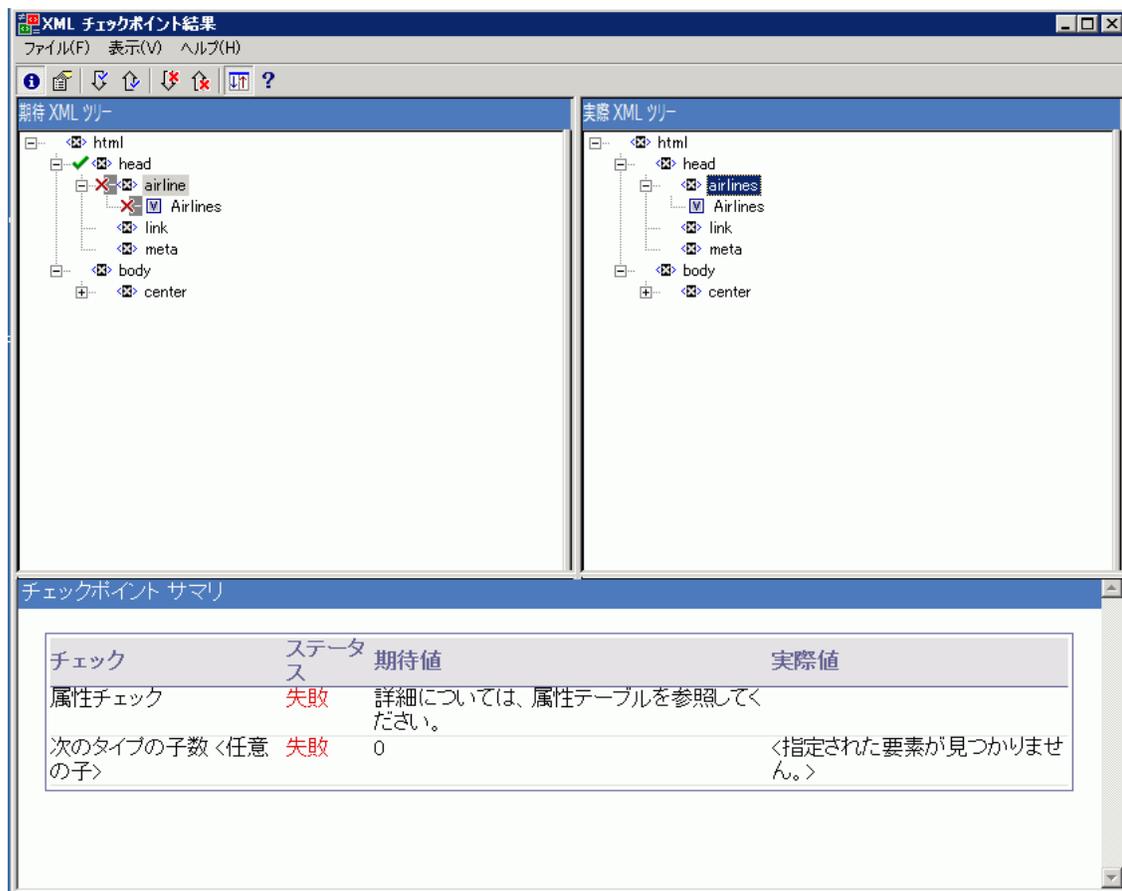
次に、XML チェックポイントのシナリオを 4 つ紹介します。この例では、実際の XML ドキュメントで発生した変更点、および XML チェックポイント結果で方向された問題の原因を特定する方法を説明し、該当する [XML チェックポイント結果] ウィンドウを示します。

シナリオ 1

次の例では、airline 要素タグが airlines に変更され、XML チェックポイントによってタグ構造の変更が識別されました。airline には子要素がありますが、親要素のレベルで不一致が発生しているため、チェックは失敗します。

失敗した要素の詳細を表示するには、[期待 XML ツリー] から airline タグを選択し、[表示] > [チェックポイント サマリ] を選択すると、[XML チェックポイント結果] ウィンドウの下側に [チェックポイント サマリ] 表示枠が開きます。

「This element is missing」というメッセージが表示され、airline 要素タグがXMLドキュメント内で変更されたことを示しています。

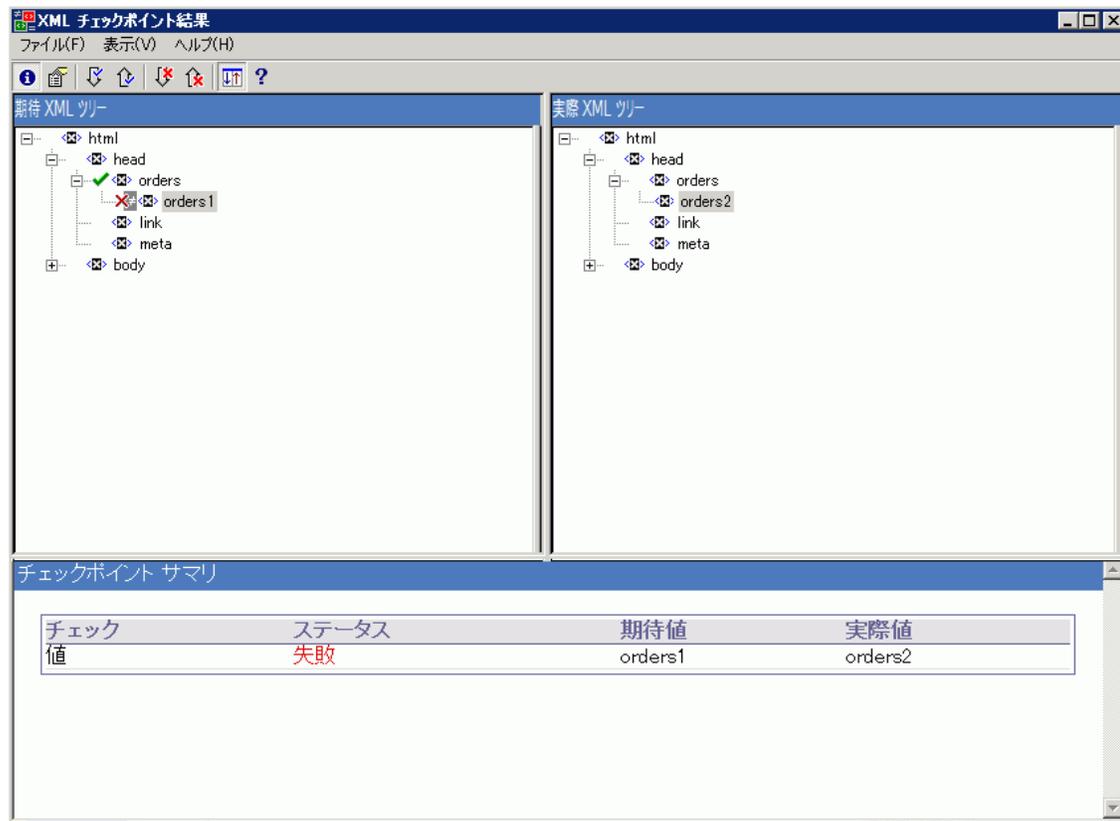


シナリオ 2

次の例では、orders 要素タグに関連付けられた属性が、orders1 (期待値であり、元の値) から orders2 (新しい値) に変更されています。

チェックに失敗した属性を表示するには、[期待 XML ツリー]で失敗した要素を選択し、[表示]>[属性の詳細]を選択します。[XML チェックポイント結果]ウィンドウの下部に、[期待属性値]表示枠と[実際属性値]表示枠が開きます。

[期待属性値]表示枠と[実際属性値]表示枠で、エラーの原因となった属性や、一致しない値を確認できます。

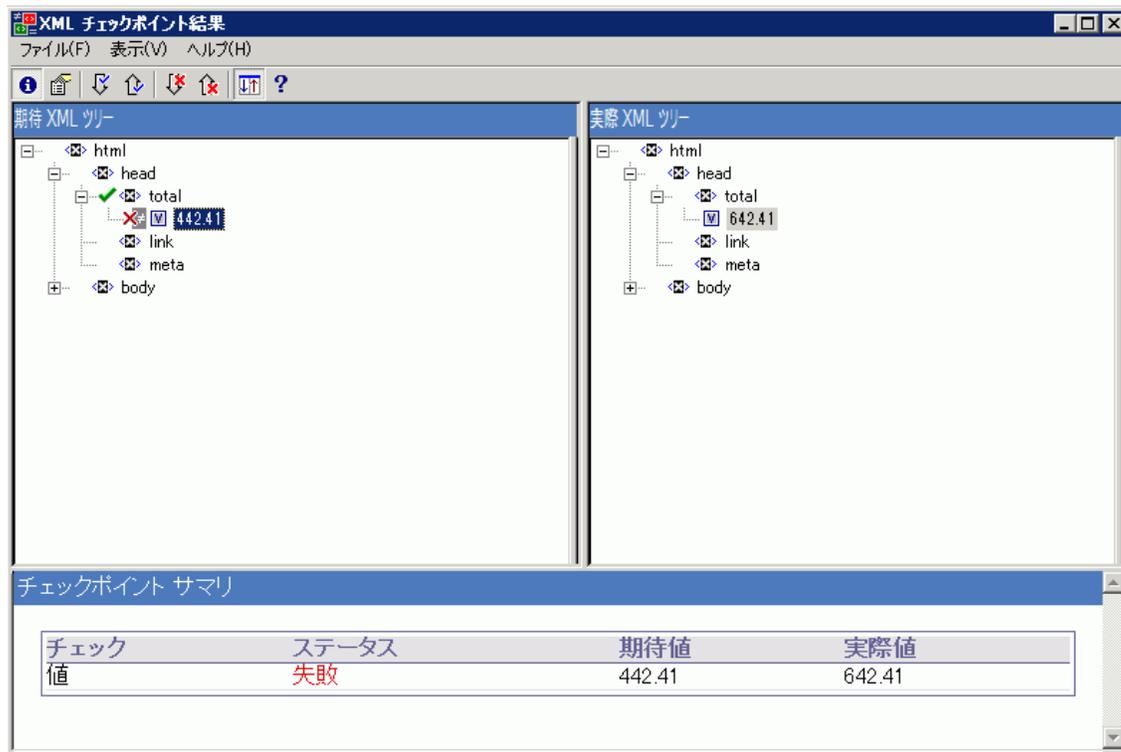


シナリオ 3

次の例では、total 要素の実際の値が実行間で変わったため、チェックポイントが失敗しました。

失敗した値の詳細を表示するには、[期待 XML ツリー]で失敗した要素を選択してから、[表示] > [チェックポイント サマリ]を選択します。これにより、[XML チェックポイント結果]ウィンドウの下側に [チェックポイント サマリ]表示枠が開きます。

[チェックポイント サマリ] 表示枠で, total 要素の期待される値と実際の値を比較できます。



シナリオ 4

次の例では, total 要素の値がパラメータ化されています。図で示す反復で, 値のコンテンツが原因でチェックポイントが失敗しました。

値アイコン [V] にシャープ記号 [⚡] が表示されています。これは, 値がパラメータ化されていることを示しています。

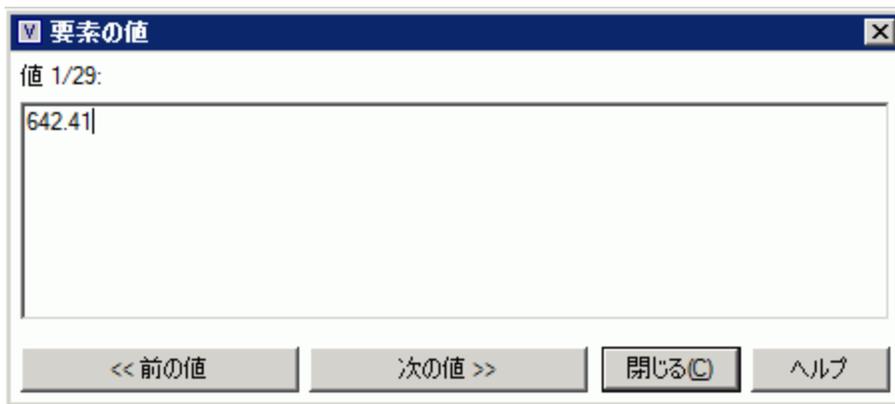
失敗した値の詳細を表示するには, [期待 XML ツリー] で失敗した要素を選択してから, [表示] > [チェックポイント サマリ] を選択します。これにより, [XML チェックポイント結果] ウィンドウの下側に [チェックポイント サマリ] 表示枠が開きます。値がパラメータ化されている場合も, 同じ手順でチェックポイント結果を分析できます。

[チェックポイント サマリ] 表示枠で, total 要素の期待される値と実際の値を比較できます。



[要素の値] ダイアログ・ボックス (Run Results Viewer) (UFT GUI テストのみ)

このダイアログ・ボックスでは, [XML チェックポイント結果] ウィンドウに表示されている要素の値を, 複数行の編集ウィンドウを使って確認できます。また, [期待 XML ツリー] または [実際 XML ツリー] の値も操作できます。



アクセス方法	[XML チェックポイント結果] ウィンドウで値をダブルクリックします。
参照	「XML チェックポイントの結果 (UFT GUI テストのみ)」(100ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素について説明します (ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます)。

UI 要素	説明
値 (x/y)	[期待 XML ツリー] または [実際 XML ツリー] 内で選択した値の位置を順序で示します。
<編集ウィンドウ>	複数行のウィンドウに要素または属性の値全体を表示します。
<< 前の値	[XML チェックポイント結果] ウィンドウ内で、1つ前の要素の値に移動します。このボタンをクリックすると、[期待 XML ツリー] または [実際 XML ツリー] 内で次の値が表示されます。
次の値 >>	[XML チェックポイント結果] ウィンドウ内で、1つ後の要素の値に移動します。このボタンをクリックすると、[期待 XML ツリー] または [実際 XML ツリー] 内で次の値が表示されます。

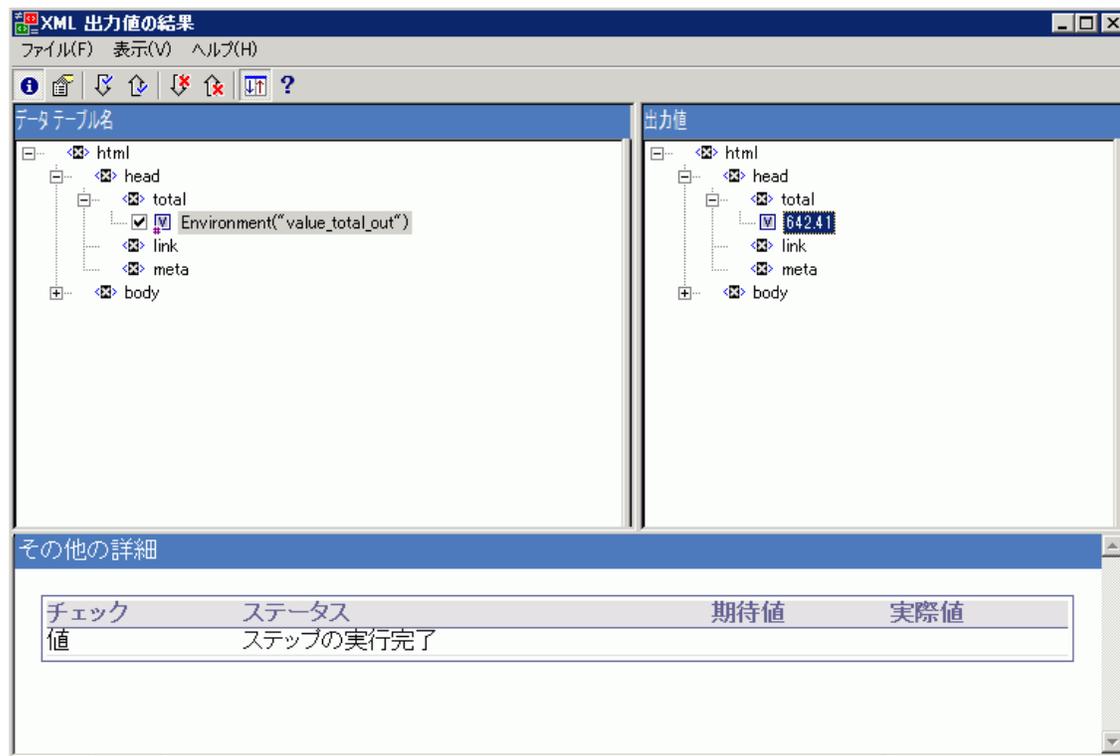
XML 出力値の結果ウィンドウ (UFT GUI テストのみ)

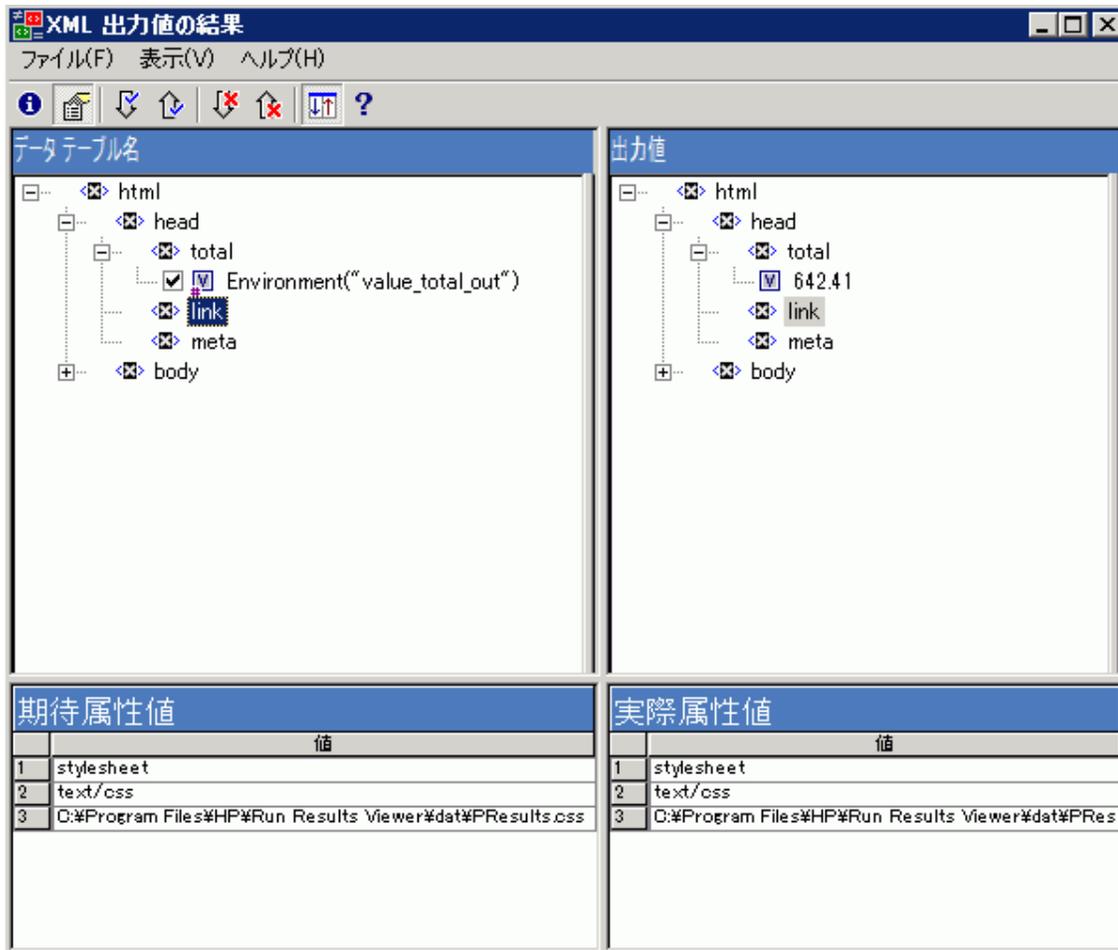
このウィンドウでは、次の表示枠に XML ファイルの階層構造が表示されます。

- **[データテーブル名]表示枠**: XML 出力値の設定を表示します。これは、データ・テーブル出力値の出力用に選択した XML およびデータ・テーブル・パラメータ (カラム名) の構造です。
- **[出力値]表示枠**: 実際の XML ツリーを表示します。これは、実際の XML ドキュメントまたはファイルの内容であり、実行中に実際に出力された値を示します。

このウィンドウには、次の表示枠もあります。

- **[追加の詳細]表示枠**: 選択した項目の結果情報を表示します ([出力値のサマリ]オプションを選択した場合にだけ表示されます)。
- **[期待属性値]表示枠**: 属性名、期待値または出力値の名前を表示します ([属性の詳細]オプションを選択した場合にだけ表示されます)。
- **[実際属性値]表示枠**: 実行セッション中の各属性の属性名と実際の値を表示します ([属性の詳細]オプションを選択した場合にだけ表示されます)。





アクセス方法	Run Results Viewer の[キャプチャデータ]表示枠で, [XML 出力値の結果を表示]ボタンをクリックします。
参照	「XML 出力値の結果 (UFT GUI テストのみ)」

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	<p>出力値のサマリの表示: [出力値のサマリ]表示枠が開きます。この表示枠には, XML ツリーで現在選択されている要素, 属性, 値の出力値に関する情報が表示されます。</p> <p>メニュー・オプション: [表示] > [出力値のサマリ]</p>

UI 要素	説明
	<p>属性詳細の表示: [期待される属性値]表示枠と[実際の属性値]表示枠が開きます。この表示枠には、XML ツリーで選択されている要素の属性の出力値に関する詳細が表示されます。</p> <p>メニュー・オプション: [表示] > [属性の詳細]</p>
	<p>次の出力値を検索: XML ツリー内で、次の出力値に移動します。</p> <p>メニュー・オプション: [表示] > [次の出力値を検索]</p>
	<p>前の出力値を検索: XML ツリー内で、前の出力値に移動します。</p> <p>メニュー・オプション: [表示] > [前の出力値を検索]</p>
	<p>次のエラーを検索: XML ツリー内で、次のエラーに移動します。</p> <p>メニュー・オプション: [表示] > [次のエラーを検索]</p>
	<p>前のエラーを検索: XML ツリー内で、前のエラーに移動します。</p> <p>メニュー・オプション: [表示] > [前のエラーを検索]</p>
	<p>ツリーの同時スクロール: [データテーブル名]ツリーと[出力値]ツリーを同時にスクロールします。このオプションを選択した場合、[データテーブル名]ツリーと[出力値]ツリーのいずれかをスクロールすると、両方のツリーが同時にスクロールします。このオプションを選択しないと、いずれか一方のツリーのみをスクロールできます。</p> <p>メニュー・オプション: [表示] > [ツリーの同時スクロール]</p>
	<p>ヘルプ・トピック: [XML 出力値の結果]ウィンドウのヘルプが開きます。</p> <p>メニュー・オプション: [表示] > [ヘルプトピック]</p>

お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。

本ドキュメントについてのご意見、ご感想については、電子メールで[ドキュメント制作チーム](#)までご連絡ください。このシステムで電子メールクライアントが設定されていれば、このリンクをクリックすることで、以下の情報が件名に記入された電子メールウィンドウが開きます。

Feedback on ユーザーズ・ガイド (Run Results Viewer 12.01)

本文にご意見、ご感想を記入の上、[送信]をクリックしてください。

電子メールクライアントが利用できない場合は、上記の情報をコピーしてWebメールクライアントの新規メッセージに貼り付け、sw-doc@hp.com宛にお送りください。

